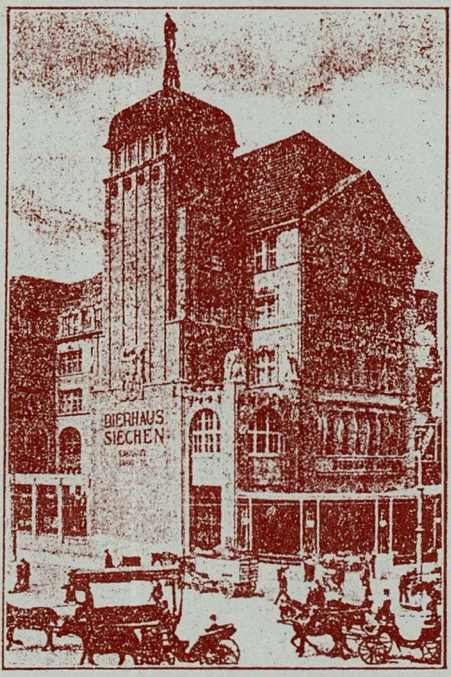
建築ト社會

第四輯　第一号



伯林ホッツダーメル廣場の一隅

大正十年一月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成ノ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員ダルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルルコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長ダル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

理事ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表シ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事會ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員又ハ賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事ノ互選ス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

役員ノ任期ハ二年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ガ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ醵出シ其後前項ノ會費ヲ免ル

會員ダルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ前納スベシ

但六月以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

恭奉賀新正候

大正十年一月元旦

日本建築協會役員一同

同　職員一同



建築と社會　第四輯第壹號目次

口繪　△伯林の市街計畫（ブルノー・モーリング氏／ルドルフ・アベルスタット氏／リチャード・ペテルセン氏）計畫自一至四

〔巻頭〕
◉法令の完成と都市計畫 …… 會員工學士 葛野壯一郎 … 一

〔論說〕
◉都市計畫事業と日本文化の曙光 …… 會員工學士 葛野壯一郎 … 二
◉公立大音樂堂の創設を望む …… 會員工學士 横濱勉 … 九
◉都市改造と民衆保健 …… 建築監督官工學士 池田實 … 一二
◉市街地建築物法の施工に際して …… 會員 京都電燈株式會社營業課長 工學士 石川芳次郎 … 一八
◉活動寫眞館の照明と觀客の目眼の衛生に就て …… 日本建築協會終身賛助員 工學士 山本辰五郎 … 二四
◉度量衡の統一に就て …… 日本建築協會終身賛助員 有山福重郎 … 二六
◉使はるゝ人と使ふ人（中） …… ウオルター・ディ・ムウデイ著 ZY生譯 … 三三

〔研究〕
◉法隆寺古建物に就て（上） …… 工學博士 天沼俊一 … 四一

〔都市〕
◉將來の市加古市 (8) …… … 四七



◉都市計畫使上の最初の一つの出來事……會員　大川多磨夫……五七

〔住　宅〕

◉住宅研究（一）……建築士工學士　葛野壯一郎……六四

◉新聞記者の見たる名士の邸宅……（一〇）讀賣新聞記者　梅谷孫吾……七二

〔庭　園〕

◉日本庭園考（九）……會員・農學士　大屋靈城……八〇

〔談　叢〕

◉日本古城址抄（一）……S・U閑人……八四

◉傳說に遺されたる建物の話（一）……野村俊太郎……八七

◉都市と音樂及び衣服住宅の改良……工學士内藤太郎氏夫人　内藤周子……九二

〔漫　錄〕

◉太西洋を見る日まで（四）……會員・工學士　波江悌夫……九五

〔藻　苑〕

△漫畫……一一三

△小品……△俳文……△和歌……□俳句……一一三

▲時報……一一三

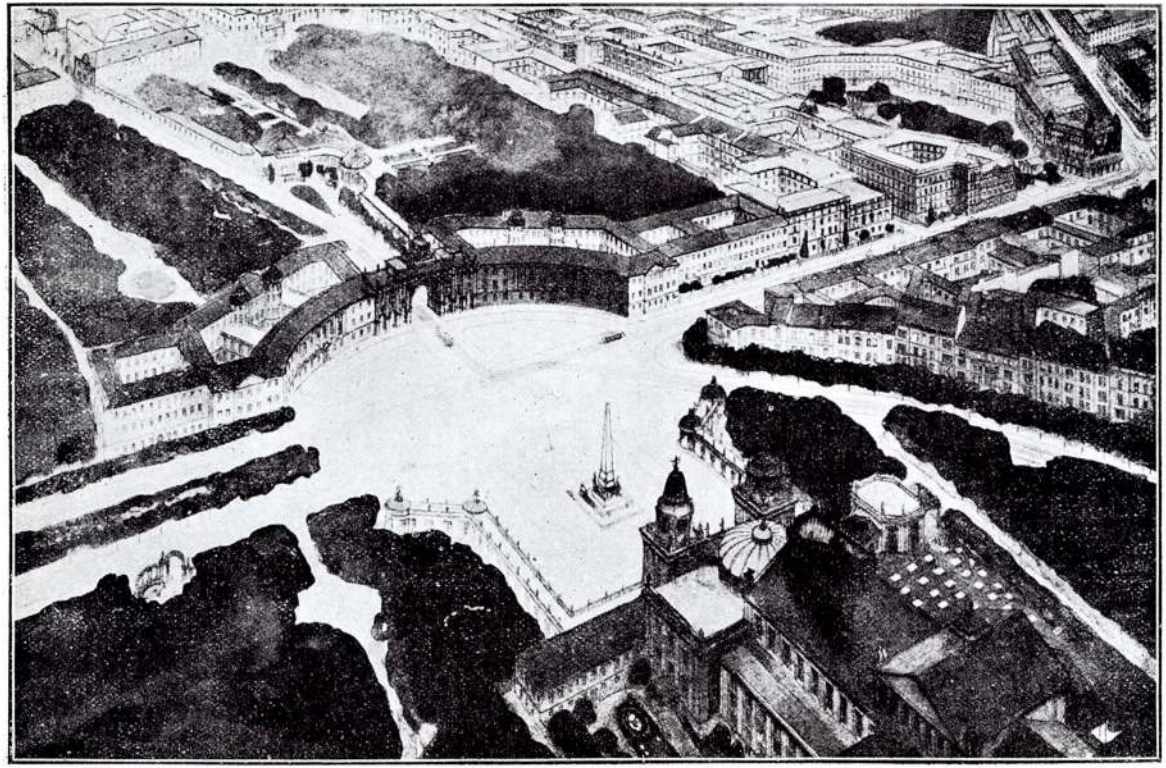
▲會報……一一三

附錄

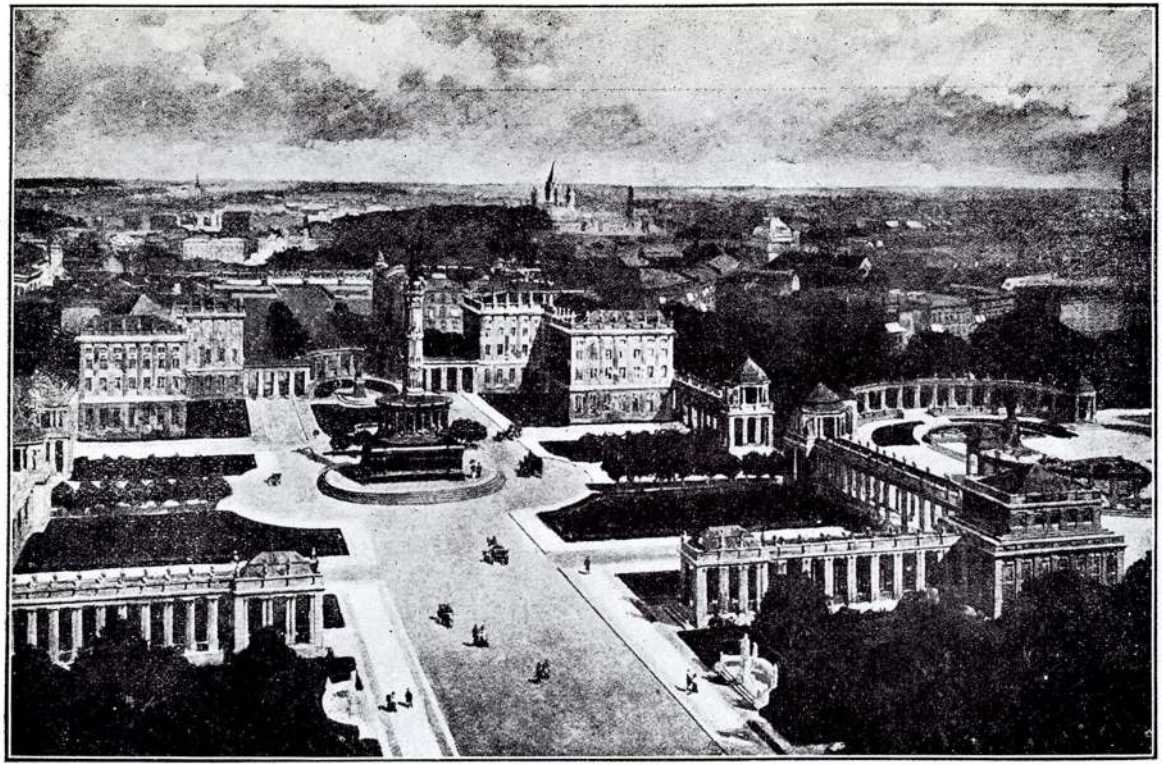
◉市街地建築物法施行細則……七頁

謹賀新年

池田實	糸永文古	井原百介	萩原貞
濱恒次郎	原科準平	西田儀太郎	新海正藏
西尾寛治	東松孝時		



伯林の市街計畫　畫計{氏グンリーモ・ーノルア／氏トッタスルベア・フルドル／氏ンセルテベ・ドーヤチリ}計畫



伯林の市街計畫

ヅヨセフ・ブクックス氏及フレックス・センツルメン氏計畫



伯林市パリセルル廣場と凱旋門



伯林市シルレル廣場

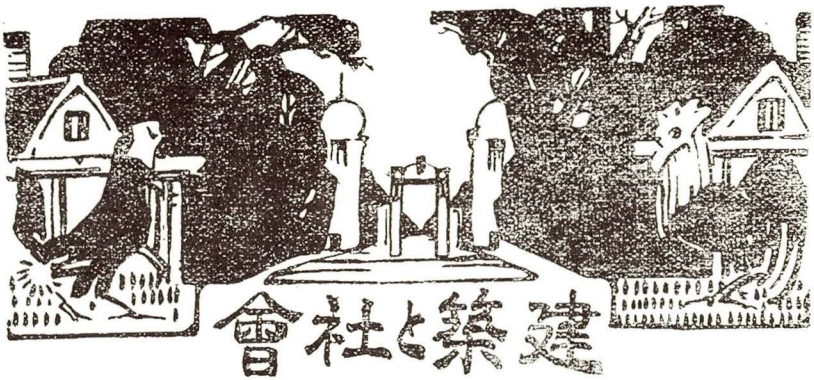
會告

◉圖書受贈

今回當協會内に小圖書室を設置致度候に就き先づ其準備として一般會員各位其他より圖書の御寄贈を相受け度候間其種類の何たるを問はず振つて御寄贈被成下度候尚ほ運搬等の事は御通知次第當方より罷り出づべく候

◉年賀交換

紙上にて年賀交換の意味に依り御申込を受け候連名年賀廣告は印刷の都合に依り本誌目次裏より掲載致居候



法令の完成と

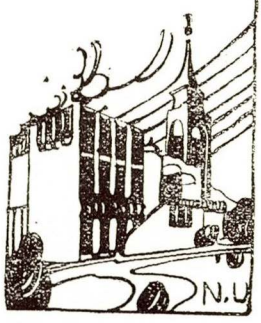
近代的文明都市の改善經營の大事業は決して一朝一夕に出來上るものでない、曩に政府は都市計畫法並びに市街地建築物法の二大法案を一擧にして兩院の審議に附し、次いで都市計畫委員會の組織を企劃し、進んで勅令を發布し、又省令を公布し、近く六大都市に初めて建築監督官を任命し、着々此大事業の基礎を完成しつゝある。想ふに此等法令の完成は都市計畫事業の土臺であつて且つ最も必須な骨組である。乍併、舊臘各府縣令として發布せられたる施行細則の內容を見るに

都市計畫

及んで、前途尙遼遠の感を起さしむるものがある、想ふに都市計畫案の內容未だ完成せず、市街地域の制定すら確定案を得ざるが爲ならんも、各地方廳に於て與へられたる權能を把握すべき遠大なる理想と堅實なる氣魄を缺いてゐる爲である、大なる事業には大なる準備を要し大なる決心を要する。枯息因循は決して策の得たるものでない、百年の大計を樹立すべき重要時機に際し、當局者の熟慮勇斷を切望して止まないことを新春初頭の辭となす焉。



論說



都市計畫事業と日本文化の曙光

〔一〕

都市計畫法案並びに市街地建築物法案の一度兩院の審議に附せられるや、我國上下の輿論は遽然として近代的文明諸都市の世界的大勢に鑑み都市改善事業の急要なる所以を絶叫し、殆んど何等の反對論なくして兩院を通過し、東京、横濱、名古屋、京都、神戸及大阪の六大都市は法律の命ずる所に據て都市計畫實施地域に指定せられ、各般の施設を統一料理して科學的考究の理論に基き、舊來の無秩序無方針なる弊風を一掃して文化的社會政策を樹立し、市民の幸福安寧を增進せしむべく百年の大計を經營實施すべき好機運に到來せるは吾れ人共に慶賀に堪へざる次第である。

顧れば明治初年以來、泰西文化の刺擊影響を痛切に蒙り、我日東帝國は日進月歩の快潮に乘じて多難多事の國運を開拓し來つたと誰も現代社會のあらゆる機關は多くは間に合せの改良工事を施され、大勢

の急歩に促されて拙速主義の發展を餘義なくし、何等根本的改造の立脚地を有する事なくして姑息繃縫の劃策によつて一時的効果を全うして來た結果。一度歐洲大戰亂の突發に遭遇し次いで世界的大波瀾の渦中に捲き込まれて以來は、我國現時の社會的機關は到る所其缺陷を暴露し、到底斯くの如くしては新時代の競爭場裡に世界の優者たる位置を把握するの不可能なる事を自覺するに到つた。於茲乎國民性の改善を高唱する志士が起つた。社會道德の改造を絶叫する識者がある。教育制度の改革を要望する君子がある。軍事に於て外交に於て、經濟組織に於て交通系統に於て、商工業の政策に於て、政治、文藝、技術等各般の方面に於て我國家的施設の改造改善を企劃しなければならなくなつた。

されば戰時中、天下の耳目を聳動した勞働問題の發生、デモクラシーの宣傳、普通選擧の運動、乃至住居問題の輿論の如きは世界的趨勢の然らしむる處あつたと雖、要するに現代社會に要求せらるゝ天下の聲であつたに相違ない。乍併此間に在りて最も識者の注意を換起し天下の輿論を動かしたものは都市計畫事業の高唱である。

〔二〕

都市は一國文明の中心地であり、教育の中心地であり、商工業の中心地であり、人口の集合地である。政治の機關を集中する都市は一國の首腦である、商工業の樞機を握る都市は一國財界の中堅である、學藝政育によつて立つの都市亦一國の重要なる文化の中心をなすものである。果して然らば一國の重要都市にして不健全なる發達をなし、腐敗せる市制を有し、自覺なき市民の集合地に過ぎなかつたとすれば

其國家社會に影響する處は實に甚大なものがある譯である、故に歐米先進國は夙に識る所あつて都市改善事業に熱中し、一國文化の策源地をして完全圓滿なる發展を遂げしむべき劃策を斷行して着々其理想を實現し來つたのである。

今日我國に於て初めて此の重要なる大事業に指を染める事は既に機を失したものであるに相違ないが今日根本的に都市問題の研究に着手した事は誠に機運到來の然らしむる處であつて遲蒔ながら爲さゞるに優るものである。

況んや都市改善事業の内容を考察すれば、あらゆる現代社會の行詰つた機關を整理統一するに歸着して來る以上は、都市問題が財界の彼瀾變動の如何に係らず、決して忽にすべからざる大問題である事は茲に喋々を要せず、事實に於て天下の識者の熟慮を煩はしつゝあるのである。されば普選問題や勞働問題や一時的發熱狀態のやがて下火とならんとするに係らず、政府は着々法令の完成に努力し、近く府縣令の發布をさへ見るに到つたのである。

乍併、積年の餘弊は一朝一夕で改革せられるものでない。從來何等の施設、何等の事業、何等の劃策なかりし、我國諸都市が急遽此事業に指を染め、百年の大計を樹立せなければならぬ場合となつた爲めに實力に、不相應なる各般の諸問題を考慮按配するの結果、掛聲のみ徒らに高くして手腕の之れに伴はざるの事情は顧みて此大事業の將來に一の暗影を宿すものに非ざるなきかを疑はしむるものがある。

〔三〕

由來我國市町村制の實現せられてより三十年、名は自由都市としての面目を有すれども、近代都市として自由發展の氣風なく、常に政府の監視下に眠りつゝあつた事情は、今に到つて惰氣滿々たる市政の惡弊を蓄積するの外、新文明の建設に貢獻すべき何等の精神的基礎が出來上つて居らぬ事を遺憾とする。之を德川政府治下に在りて經世家の手腕に勃興し來りし各藩の重要城下町が、不完全ながら地方的自治制を体現して繁榮賑盛を遂げたりしに對照すれば、現代市民は決して天保時代の制度文物を冷眼し得られぬ事と思ふ。明治以降人口に於て急激なる發展を遂げ來りし近代都市が舊制の破壞に乘じて各自勝手な行動を敢てし、無秩序無制限なる時代を現出し來りし事が、やがて現代社會の無秩序無制限を打出したりとも過言ではあるまいと思ふ。して見れば之れや近代都民の自業自得であつて明治時代爲政家の責任であると同時に亦大正時代青年の責任であるのである。

之れを歐米先進國の實狀に對べんか、都市の成立發展の歷史に於て日を同うして語るべからざる經程がある。歐米各國の大都市が各自由都市として夫々文化の諸中地たる自尊自重の動かすべからざる歷史を背景として不斷の努力を將來に向つて拂はんとする市民の覺悟に於て亦甚だ經程があるのである。

從つて大戰前獨逸聯邦の諸重要都市が、舊來の因習を打破して近代的文化施設を劃策經營せる僅に四半世紀の努力事績は、其不斷の精力を集中せる當然の効果であるにしても、市當局者の見識手腕と市民の熱烈なる協贊愛護と相待たざれば、到底斯くの如き成績は贏ち得られなかつたであらう。

加之、歐米諸國に於ける都市政策の內容を點檢し來れば、各風土の相異、各國情の相異、各國民性の相異によつて、其成績は特長異同の差著しきを見ると雖、都市改善事業を以て、一國文化の中樞地と認

め、飽くまで自國文明の興隆を企劃せんとする遠大なる經綸、雄偉なる氣魄と並びに高遠なる理想を把持する識見の絶倫なるを見逃すことは出來ないのである。

〔四〕

若し夫れ英國に於ける勞働問題に連關せる住居法案の完成發達の歴史を顧みて、彼國社會問題の實情が何邊に存するかを知らざれば、未だ以て住居問題の議論を我國に敷衍する事は出來ないと思ふ、戰前獨逸に於ける社會政策の効果の著しきを觀て、獨逸流社會施設を其儘に我國に利用せんとするも、獨逸國民性の消長、小邦諸市の實情を點檢し來らざれば、其形骸を拾ふて其精神を捕促するを得ない事になると思ふ。佛國に於ける巴里改善事業の歴史並びに主腦者の手腕劃策や、約三世紀に亘りその連續的都市經營の根氣並びに佛國民の有する美的の國民生活を控除して、什うして巴里を說く事が出來やうか。

又近時米國に於ける都市計畫運動の如きも、國民的文化生活の理想を米國式に實現せんとする根本的精神の向上が其基調をなして居る事を忘れてはならないである。

今や都市計畫法の實施期に入らんとして市街地建物法令の完成を觀んとするに到り、我國重要都市が近代的文化施設を着々實現されんとするの好運に遭遇したりと雖も、政府當路者間に尙都市計畫事業の重要なる意義を了解せざる閣僚あり、地方廳官吏にして與へられたる權能を行使するに高邁なる氣魄を缺けるものがあり、重要都市地方委員會の諸頭にして尙且都市改善事業の內容をすら考究せざるものあると聞くに及んで前途瞭遠の觀殊に深きを覺ゆるものである。

加之、都市計畫事業の基調たるべき特別市制の實現さへ政府當局者に於て躊躇されつゝあるのみならず、市民の愛市的觀念の缺如せるは豫想以上であり、市會並びに市議員の頭腦尚未だ覺悟せざる今日の實情では、都市政策を以て我國文化の向上刷新の一路に導かんとするの勇斷は、到底期待すべくもない樣である。

〔五〕

斯く論じ來れば都市計畫事業の前途には尙數多の努力を要するべき事項は頗る多いと云はねばならぬ都市計畫事業をして單に當路者間の記念事業とせしめずして、國民の文化生活の基調たらしむるの必要がある、殊に百年二百年に亘つての繼續的事業である以上國民的文化運動の階律をして白熱の域に善導して此の大事業の配景とするの大覺悟がなくてはならぬ。

試に想へ、我日東帝國の首腦たるべき東京市政の腐敗其極に達する程、大東京の市民は之を放擲して居たではないか、一國の首都にして此の醜態を演せしめたる、我政府は將來の文化生活のため根本的に之を刷新しなければ到底遠大なる事業は出來ないのである、東京市民が東京市政の善後策をして、不相變舊式因習に立歸らしめ何等將來に對する刷新改革の運動をなさいならば、一國文化の將來の暗影を投するものとして其責任を問ふの覺悟がなければならない。

願れば東京市民が明治年間に我國文化の師表として貢獻した事項は幾何であつたか、花の大江戸時代に在つては全國政治の中心地として專制政府の治下に民衆的文化施設を經營して江戸子の風貌はよく全

國の先達としての責任を自覺して居た樣である、又當局者の治蹟は現在尙名所舊蹟として殘されて居るが今の東京市民は過去の名所、過去の遺蹟を誇るの外、近代的文化を建立したいへやうか、東京市民が首都たるの自誇を極端に發揮せるの外、日比谷の燒打に國技館の競技に熱中せる位のものであつて、全國の都市市民をして自治市民たるの自覺を起さしむる文化向上の師表としての治績があつたであらうか

由來東京は地方青年學生の憧憬する處であつて全國有爲の人物は笈を背ふて集まつて來た、それ丈各地全國の人士の集合地であつて、首都としての威望を有するの外、多數地方人士の雜居地であるが爲めに一致團結の風を缺き、事々に議論沸騰して異見を鬪はすの風は有之とするも、實際的施設を敢行には常に他市に立遲れて居るのである、果然東京市政の紊亂は積年の惡弊の然らしむる所であつたと認められてゐる。果然東京市民が首都としての劃策は何等見るべきものなく一時的流行の魁をなすの外、政治運動の花火を打上ぐるを繰り返すに過ぎなかつたではないか。

勞働問題の勃興、デモクラシーの宣傳、普通選擧の運動の如き多くは東京を發生地として全國に其影響を蒙らしめて居る、乍併帝都鳳輦の下に積年の惡弊を除却し得ない自治市民があつたならば此等の問題の解決は到底徹底的に敢行し得ないと云はねばならぬ。

想ふに都市計畫事業をして一國文化生活の基調たらしめ、我日東帝國の新文明を建設すべき好機運は既に到來して居るのである。此の好機を逸して又何の時我國民生活の文化的精神の曙光を把握し得べきか、希くば我國重要都市の師表と仰がるべき大都市の市民は雄偉なる氣魄と高遠なる理想と遠大なる經論を把持し、不斷の精力を傾注して都市改善事業をして着實なる發展を遂げしめよ。

公立大音樂堂の創設を望む

會員　工學士　葛野壯一郎

人間の集る處には、必ず音樂が要求せらるゝ。什麼野蠻未開の人種でも、そこに多少とも社會的生活を營む以上、彼等の集團に於ける祭式悦樂悲哀、其何れの場合を問はず必ず彼等の有つて居る文化相當の音樂を伴ふのが常態である。我等の祖先が數ケ年以前に所有して居つた『岩戸神樂』の古を想像して觀ても、人間は音樂なしには到底團体的生活を營み得ないものと云つて宜からうと思ふ。音樂が人心を支配する力の偉大な事は今更改めて說明する迄も無い事で有る。殊に鐵と煉瓦と石とコンクリートで固め上げ煤烟と黄塵で混濁を極めたる我近代的都市の居住者に對しては、其生活の奥底に流るゝ一脈の人間味に相通じ、以て慰樂し激勵し開發し向上せしめ、其團体的生活に於ける組織統一に對する根本自覺を培ふのは、音樂に勝る物は無いので有る。成る可く多くの人々が一堂に會して、立派な組織ある大音樂を最完全の設備のもとに屢々享樂するといふ事が、市民生活の内容充實の上に於て、將た亦其向上發展のために、どれだけ偉大な効果をもたらすかは、識者を俟すとも明らかな事理で、多少とも音樂を了解する者の何人も容易にうなづかるゝ點で有らうと思ふ。斯の意味に於て、私は都市計畫施設の緊急要事として、爰に公立一大音樂堂の建設を希望するのである。

近頃新聞紙上に一部有力者の意見として、大音樂堂或は野外劇場の公設案が唱導せられ居るのを觀て、其眞相の如何は論せず、兎に角左樣云つた噂だけでも傳唱せられる事が既に非常な進歩で、我市民生活改善の上から推して非常に結構な事だと私は思つた。野外劇場の建設に就ては私も及ばず乍ら先年本誌上に管見を述べた事がある、併し

斯の問題を飜つて考察するに、陰濕多雨一ヶ年中少くとも其四割は雨雪霰雹に困しめらるゝ我風土に在つて、主として南歐の明るい乾いた天地に發達した野外劇場の樣な形式のものが、如何なる程度迄利用せらるゝや否やといふ事は大問題で、實際充分に研究の餘地の有る事と私は考へて居る、寧ろそれよりも當面の問題として市なり府なり或は特志の團体なりが率先して、市内交通上最都合の宜い位置に公立一大音樂堂の建設を企つる事が其結果に於て遙かに優るものゝ有ることを思ふのである。

音樂堂といへば既に中の島に立派な公會堂あり以て現在に於ても亦將來に對しても充分に一部の要求を滿足して居るでは無いかといふ樣な議論が出ないものでも無いが、併し現在の公會堂が斯の種の目的に對しては遺憾乍ら一般的にも專門的にも色々の不便を有つて居るのみならず、公會堂としては自ら他にも相當の用途が有る筈で、吾人の理想とするところは全然別に純音樂的出發點からする完全にして自由且つ偉大な、公立一大音樂堂の創設せらるゝ事を以て當面の急務と考へたいのである。

試に其理想の一端を吐んか、器樂にせよ聲樂にせよ、縱し現在には無くとも近き將來に於て必ず出現す可き其何れの演奏團に對しても、其演奏に對する音樂的必要を滿足す可き充分な條件と廣さを有する舞臺を有ち、少なくとも五千人以上の聽衆に對して其視覺聽覺に何等の支障なく、完全に音樂の全部を享樂し得る坐席の設備、さては是等多數の聽衆に對し其出入往來に充分の餘裕を有する出入口に廻廊をも備へ、舞臺に次いでは樂人の大休憩室大練習室大講堂等をも附屬し、構造の優雅完全なる事は勿論、採溫通風等衛生的施設に於ても些の遺憾なきものを要求したいのである。尙出來るならば音樂に關する圖書室閱覽室の如きをも附設する事が一層理想的である。

假りに右樣の規模として全体何れ程の大サの建物を要するか、無論地形にもより正確なプラン作成の上ならでは決定出來ない事ではあるが、是を專門的に觀て先づ建坪千二百坪位も有れば略大体の要求を滿足せしめ得るのでは無からうか。五千人以上の聽衆を收容するオヴヂトリアムと云へば

可成り大きなものになるが、其れでもバルコニー及びガレリーに二千以上を容れるとすれば大略六百坪も有れば宜い理屈であるから、ステーヂ及び附屬のホールプロメナード休憩室練習室講堂圖書室閲覽室等是を三階建とするとして是れに建坪六百坪を當るとすれば、左程窮屈なものでは無い事は明らかである。今假りに鐵筋或は鐵骨コンクリート風の構造を採るとして、時價一坪に對し千五百圓を計上するならば此總工費額百八十萬圓となるので此金額は必ずしも今日の場合少額では無いが、併し是れを公共團体の大經濟の上から觀れば別に驚く程の金額では無い。やらうとさへ決心すれば何時でも實施し得る範圍の金で有る。一私人の手一つで百萬圓以上の大公會堂が立派に建設し寄贈された美くしい歴史を有つ處の我大阪市の如きに在つては、是れ位の物は單獨で建てゝ寄贈し得る富豪はまだ〳〵何人でも有る筈で有ると私は信ずるのである。

　爰に何人も不安を感ずる處は、さて斯麼建物が出來ても、一体誰れが其處で演奏するのであるか我音樂界殊に關西の樂壇を見渡して到底出來ない相談じや無いかといふ疑問が起ることである。併し斯の不安は所謂取越し苦勞である。物さへ出來れば私は必ずそれに相當したものが必ず一方には生れて來るものと信ずる。將來に多大の期待を以て安心して計畫す可きもので、こう云つた計畫な貧弱なる我音樂界の一大興奮劑となつて、どんなにか若い音樂家の血を漲らすかは、想像に餘りあるでは無いか。更にまた普遍の趣味に立脚し市民公有の音樂堂とする以上、洋樂許りが目的では無く長歌でも淨瑠璃でも琴三味線尺八、何でも演奏し其等の和樂に對しても時代に適應する新生面開發の機會を與へるがよいでは無いか。時には宮内省あたりの樂人を聘して優美壯重なる平安朝の雅樂を演ずるも妙、また軍樂隊の如きも務めて是を利用し、音樂的に軍隊と市民の接觸を圓滿にするが如き、最も策の得たものだと信ずる。市内に散在する群少音樂團の如きもこゝいふ機を得て綜合統一せられ、立派な樂團の基礎を造るに相違ない要は設備さへ出來其管理經營に人物宜しきを得るならば、利用如何の如きは始めから問題とするには當らない、現在の公會堂の建設以來引續く盛んな活用を觀ても、我音樂堂の建設が如何に市民生活の上に影響するかは推して知る可きである。大正十年に劈頭に望んで私は市民音樂堂の創設を提唱し、切に一般識者の一考を煩し度いと思ふので有る。（完）

都市改造と民衆保健

會員　工學士　橫濱勉

この稿は嘗て「都市公論」のために物したものであるが、是を補正して、この度本誌の末葉を汚すことゝする。

(一)緒論

生活改善の宣傳は近來其勢漸く旺盛を極めて來て都市の改造や住宅の改善などゝいふ問題も次第に世人の注意を引く樣になつて來た。これは國民能率の上から見て換言すれば國家消長の上から見て重大なる一案件たるや勿論である。

我邦に於ても既に都市計畫法や市街地建築物法などの法律が出來て前者は一昨年の四月、後者は昨年十二月から其實施を見ることゝなつた。而して今日のところでは六大都市に過ぎないが、漸次他の都市にも及ぼす事は遠からぬ將來と思はれるこれは都市の改造——都市計畫——なる問題は國利民濟の上から見て緊要な事項たることの國民一般の自覺を證明するものである。

(二)都市と田園の民衆保健

都會の住民と田園の住民と其健康狀態の差違あることは今更事新らしく申し述べる迄もない。獨逸の衛生學者なる『ホルスフォルス』氏は一九一〇年に國內各地に於ける徵兵適齡の壯丁の合格率を百分率に依つて示した所に依ると全國一般としては五十三%であるのに人口五萬以上の都會にありては四十四・八%伯林市にありては二十七・六%にして田園地方に在りては八十%である。

是れを見ても田園の保健狀態の良好なることは明である。我邦に於ても商工業漸く發展し、都市密集の傾向は近時益々甚だしくなつて來た。近來

我壯丁の體格の著しき減退は其原因恐らくこゝに歸するではあるまいか。これは單に軍事的見地よりからのみ考慮す可き事柄でなくて國民能率の消長に關する國家的社會問題として大いに憂慮すべきことゝ信ずる。

(三)煤煙塵砂と民衆の保健

工業都市に於ける煤煙と塵砂の健康に及ぼす障害は今更申す迄もないことである。

今、英國の工業都市の二三を引例すると、『エー、ジー、ラストン』氏のリーヅ市に於ける市内と郊外とに就いて煤塵の沈積量を實驗測定せる結果に依ると。

中央工業地	一九〇〇封度(一ヶ年間に一エーカー)
東北三哩の地	九〇封度(同)
東北五哩の地	六二封度(同)

といふ數字を示してゐる。

この外、英國の各都市の沈積量を示せば、

大倫敦	四四〇噸、平方哩
「グラスゴー」	一、三三〇、同
「コートブリヂ」	一、九三九、同

となる。

東京に於ては倫敦に比して煤煙は少ないかも知れぬが、所謂紅塵萬丈の爲めに、其沈積量は必ずしも下らまいと思はるゝ。大阪に於ては或は「グラスゴー」に亞ぐものではあるまいか。

則ち之等都市に於ける住民は四六時中に其一部を呼吸すべく餘儀なくされつゝあるが故に、依つて以て各自の健康を損しつゝあるは自明の理である。次に英國に於ける烟霧期(フォッグタイムと稱し十一月から翌年の三月迄)に於ける都市住民の死亡率と平均死亡率とを對照するに(人口千人に割合して)

	平均	煙霧期
倫敦	一二・八	一六・八
「グラスゴー」	一八・〇	二五・〇

の結果となる。これに依つて見ても、煤煙の保健上有害なることは明かになつて來る。

(四)密集居住と民衆の保健

密集居住の健康上に有害なることも亦認めねばならぬことである、倫敦に於ける人口は四百五十萬であつて其面積は百十六平方哩である。今、其各區に於ける地積一エーカーに對する人口の密度を擧ぐると、

ベスナル、グリン區	一六八
ショアヂッチ區	一六六
ステプニー區	一五六
フヰンスバレー區	一四四

といふ數字を示す。

これを面積二千六百萬坪と人口二百三十萬とを有する我が東京の各區の密度と對照すると、

（一エーカーとして）

淺草區	一八〇
日本橋區	一五五
本所區	一五〇
神田區	一四〇
下谷區	一三五
京橋區	一二五

となる。

以上六區は倫敦のそれらと伯仲の間にあるものと見らるゝのである。

田園都市に於ては一般に一エーカーに二十五人を標準としてゐるのに比して、其距離大なるものがある。

次に東京と大阪の細民部落の人口密度の概略を示すと、

	戸數	人口
東京（本庄深川）	二・八八〇	一一・五四五
大阪	一・六八〇	七・五三九

であつて。平均一戸當りの人口は東京にあつては四人、大阪にあつては六人三分となる。

實際、東京と大阪の中樞細民部落を調査せる結果に依ると、東京にては平均一戸の疊數は三疊乃至四疊半であつて、大阪では六疊半となる。即ち疊一枚に對して一人が生活しつゝあることとなる。是は單に平均數であるから、實例としては二疊に五人位住まつてゐるものもあると考へられる。

斯の如き部落は保健上不良なるのみならず、種々の罪惡の行はるゝ傾向があり、社會風紀上から見ても寒心す可き事が多いのである。即ち私生兒の

多い事と、嬰兒の死亡率の多いことゝは、特に注意す可き事項に屬する。

(五) 細民部落と嬰兒の死亡率

我邦の各都市に於ける嬰兒死亡率、殊に細民部落に於けるその數字を示すべき統計の未だ之れを得られぬのを甚だ遺憾とするのであるが、こゝに歐米各國に於ける該死亡率を出生兒千人に對比して其數字を示せば、

倫敦にては

外輪都域	七〇乃至九〇
中心都域	一二四

巴里にては

外輪都域	七〇乃至一一〇
中心都域	一二八乃至一八九

であつて、何れも人口密集の中樞部に於ては著しく其數の大なるを示してゐる。

英國に於ける一般的の嬰兒の死亡率を各地に就て調査して見るに、

(一)病患に因つて死亡するもの(一九一四年の統計)

生後滿一ヶ年に達せざるものにして出産に對する割合、	
東部及西部都邑	一〇四・六二
北部都邑	一二四・七七
南部農村	六五・五三
北部蘇土蘭	六七・〇八

卽ち田園の死亡率は都市の半數だに達しない。

(二)發育不良に因つて死亡するもの(一九一一年の統計)

生後滿一ヶ年に達せざるものにして出産一千に對する割合、			
早産	一三・八	畸形虛弱	二・三
中産以上	一六・六		二・〇
商人	一七・一		二・四
高級職工	一七・七		二・四
並職工	一九・〇		二・四
未熟職工	一九・一		三・〇
紡織職工	二〇・三		二・三
鑛夫			

農　夫　一六・九　二・二　八・一

以上、表の示すところに依ると、勞働者の内でも不健康なる職業に從事するものに多い。

次に英國各地方に於ける就學以前の兒童の死亡率を千人率にてホせば、

	二歳未滿	五歳未滿
東部及西部都邑	三二・八	八・八
倫　敦	三五・六	九・五
北部都邑	五五・七	一三・五
中陸都邑	三八・三	一〇・二
南部都邑	二一・七	六・六
北部農村	二九・四	七・八
中陸農村	一六・六	五・〇
南部農村	一一・七	三・八

即ち北部都邑に於て最も多きを見る。

要するに地方としては北部の如き鑛、工業地、職業としては紡績とか鑛夫などの嬰兒の死亡率が最も多いことゝなる。

之れを以て觀るに、人口密集の都市に於て、勞働階級の住居に就いての改善は民衆保健の上から鑑みて等閑に附すべからざる緊要なる案件であることは知らるゝのである。

(六) 田園都市と住民保健

田園都市の如何に保健上理想的であつて、而も如何に生活の上に有意義であるかを述べて此稿を鎖ぢやうと思ふのである。

田園都市は中產階級と勞働階級に對して精神的にも物質的にも生活の慰安を得せしめ、仍つて以て彼等の能率を增進せしむる徹底的の生活改造の施設である。

『ボンビール』、『ポート、サンライト』及び『レツチウオース』は英國に於ける有名なる田園都市であつて、就中『レツチウォース』は其模範的なるものである。

偖而『レツチウォース』の保健狀態の可良なる證明の一つとして嬰兒死亡率を以て例せんに、一九一七年の統計に依れば一歳未滿の嬰兒の死亡率は生產一千に對して僅かに三十六人に過ぎない。斯道の專門家の說に從へば現代に於て千人に對して

三十人は望む可からざる數字として許されてある又『ジョウジ、ニウマン』氏は千人に對する五十人を以て其理想としてゐる。然るに『レッチ ウォース』に於ては僅かに三十六人に過ぎない。實に驚く可き好成績である。

次に又、十二歳未滿のものゝ死亡數は全英國平均して全死亡數の約五割であるのに『レッチ ウォース』は僅かに二割に過ぎない。

更らに英國各都市の一九一〇年に於ける人口千人に對比する死亡統計を示せば

ベスナルグリン(倫敦)	二五・
マンチェスター	一九・九八
リバプール	二〇・三
ポート、サンライト	八・一
ボンビール	五・七
レッチウォース	四・八

であつて、則ち田園都市に於けるその數字の著しく少ないのは、其保健狀態の宜しきを知ることが出來るのである。

(七) 結論

都市改造なることは單に現在の市民の保健狀態を良好にし、その能率を增進せしむるに止まらないで、永代市民に係る案件であることを忘れてはならぬ。

要するに、

(一) 都市區域の設定と地域の按配。

(二) 各地域に於ける建築物の建坪と地積及びその高さの制限。

特に細民部落の適當なる整理。

(三) 路面の改善と河川の改修。

(四) 水道、下水道等の公共的施設の完備。

(五) 公園、遊園及其他慰安機關の整備。

などは都市改造——都市計畫——の要件であつて同時に民衆保健の要件である。(丁)

市街地建築物法の施行に際して

建築監督官　工學士　池田實

本編は、曩に氏が我日本建築協會の講演會に於て講述されたるものに係り、其筆記を氏の校閲を經て記載したるもの也―記者

大阪の土地が關西の中央に位して居る良好な位置を占めて居る結果としまして、幸に京都の監督官、並に神戸の監督官も出席下され講演を御援助下さいまして一段の光彩を添へ、既に總ての方面に亘つて詳しくお話がありましたので、實は私のお話する部分は殆ど無くなつた譯であります。同じやうな事を繰返しましても意味を爲しませぬので、實は御免を蒙らうかとも思ひましたが、何も申上げなくては失禮ともなり又責任を盡さぬ譯になりますので、各監督官が御講演になりました所に少しく追加致しまして、其間に少しく自分の心付きました點をも附加へてお話したい、ツマリ私のお話するのは一種の補遺であると云ふ積りで、暫らく御清聽を願ひます。

御承知の通り市街地建築物法が、都市計畫法と共に四十一議會を通過しました事は非常に幸な事でありまして、又斯くも容易に只一度で通過しましたことは一種の奇蹟であると考へられるのであります、唯今まで提出されました所の、斯う云ふ種類に關する法律案は多くの場合に於きまして、非常な困難に遭遇しました。例へば工場法の如き十數年掛つて、漸く……さう申しては、何ですか……骨抜に近いものになつて出たと云ふ樣な場合もありました。然るに此の市街地建築物法並に都市計畫法と云ふものは一度議會に提出されまして、一擧にして直ちに其儘通過したのであります。それは時代の進歩したるを示しますのと同時に今や世界的に改造的氣分に滿ちに所の時運

がさう云ふ風に向いた結果に外ならぬのであります、愈々其の施行期日も僅かに茲旬日を餘すに過ぎぬ事になりましたので、之が施行に關與しまする所の私共は夫れ〳〵諸般の準備に忙殺されて居りますが、御承知の通り施行されます區域も亦六大都市でありますが、最近新聞紙上の報道に見ますと、將來施行されむとする所の都市は全國に亘りまして、來年度に於ては倍にも及ばうかと云ふ機運にも向つたのであります。

大阪に於きましては、顧みまするに、今から十二年前、明治四十二年夏建築取締規則が發布されました、大阪として紀念すべき北區の大火、四十二年の七月三十一日早曉から始まつて八月一日の夕方に及んだ所の大火災でありましたが、是が大阪に於ける所の建築取締規則の發布されました好機でありました。六大都市に市街地建築物法が施行されますが、特殊の建築物に對するものは別としまして一般に亙る所の建築に對する制限は大阪以外には從來全然なかつたのでありまして、他の都市に於ては今回が初めてなのであります、我が大阪に於きましては、既に建築取締規則を施行し來つた所の先例を有つて居りますからして、此の都市計畫法が布かれ市街地建築物法が施行されましても、諸君に於かれましては、内容の大部分は既に御承知で永年慣れ來つてお在でなる事と思ふのであります。從つて施行の結果が他の都市に比しても一層容易であり又其の効果が特に偉大なるものがあるべき事と自分は信ずるのであります。併し茲に一言お斷りしなければならぬのは、今迄の建築取締規則は單に一の警察令に過ぎぬものでありましたが、此度施行されまする所の市街地建築物法と云ふものは之は單なる警察令ではないのであります、今迄警察令に無かつた或る物も加へられてある、言ひ換へれば、警察令は寔に消極的のものでありますが、市街地建築物法は他の一面に於て非常に積極的の分子をも含むで居るのであります。其の點は何であるかと申しまするに、即ち都市計畫に伴ふ所の例へば、用途地域制、防火地區、美觀地區、建築物の高、空地等の制限であります、此の點が在來施行されて居りました所の

建築取締規則と、市街地建築物法と相違する所の根本義であります。

都市計畫に就ては從來種々の講演もあり、皆樣も既に充分御諒解ある事と存じますが、都市計畫の主要なる點は、如何なる點に在るかと申しますると、其の中には或る道路であるとか、或は橋梁であるとか、或は運河であるとか、其の他交通上の關係であるとか、色々なものが含まれて居りますが、乍併、其の量に於て大部分を占めて居る所のものは、建築物であるのであります。都市計畫法が行はるに至つたと云ふものは、總ての古い着眼點が新らしくなつて、從來の遣り方が一變して來た譯であります、之れに伴ふ所の市街地建築物法は言ひ換へますと、實際に於ては建築物其物が都市計畫の實際的内容の大部分を占めるので、都市計畫に伴ふ所の市街地建築物法は非常に重要なものであると言ふ事を充分に諒解を願つて置きたいと思ふのであります。

次に申上げたい事は、唯今までは建築取締規則と云ふ僅か八十八ケ條のものでありましたが、是でも隨分お調べになれば、種々複雜な點もあつたと考へますが、此度施行されます建築物法に於きましては、先刻から色々なお話がありました樣に先づ主要な點が法律に制定されて、是が二十六ケ條其れに勅令即ち施行令が三十三ケ條、尚ほ其れに附加へまして内務省令である所の施行規則と言ふものが百五十一條あります、尚ほ其れのみならず、最近に府令として施行細則と云ふものが發布される事になりました、之は未だ確定は致して居りませぬが、約四十條に近い程ある譯であります合計致しますると、合計二百五十ケ條になる譯でありますので、此の全部を通じて建築に關しまする所の制限を加へらる譯でありまして、以前に比べまするとと一層複雜な法規になつて居りますので之は充分御研究を願ひたいと思ふ次第であります

尚ほ在來の建築取締規則は、然らば如何になるかと申しますと、其の關係は市街地建築物法及び其の施行令、施行規則と言ふものゝ外に、細則も出ますが、在來の建築取締規則の或る一部は此の法規と共に適用を受けるのであります。尤も其の

中には色々な重復しまする點、並に豫有しまする點もないではないのであります、此の場合に何等制限のない所のものは尚ほ警察令の制限が行はれるのであります、此點に就きましては何れ建築取締規則の一部が改正されまして何の條と何の條を適用しないと云ふ事を明確にされる事と思ひます

用途地域、建築線、高、空地と云ふ樣なものに就ては大体先刻からお話がありましたが、建築線の事に就て尚ほ一寸補遺して置きたいと考へますのは、之は施行細則に於て定められる事と考へますが、大阪に於きましては從來總ての建築物が、道路若くは通路から一尺五寸控へて建てる事になつて居りましたので、在來から存在致します所の道路に對しまして尚ほ一尺五寸後退と云ふ樣な事が引續いて行はれるだらうと考へます、併し其れよりも狹い道路、九尺に滿たない道路並に在來通路としてありました所のものに對しましては何れ別に建築線が指定される事になるだらふと思ひます。高サの點に就きましても、先刻御說明がありましたが、從來大阪に於きましては、道路幅の二倍と云ふものを認めて居りましたが、此の點は或は一倍半、住居地域とは一倍四分の一と云ふ風に制限が重くなつた譯であります、空地に就きましても從來は住家に限つて或る空地の制限を致して居りましたが、是れからは建物が出來る地域の如何に依て或は十分の六、或は十分の七、或は十分の八と云ふ樣に、制限されると云ふ點は、從來よりも重くなつた譯であります。構造設備の事に就きましては、先刻井尻監着官幷に中西監督官からお話がありましたので、既にお解りの事と考へます

特殊建築物に就て尚ほ一言御注意して置きたいと考へます、之は內務大臣が此の制限をする事になつて居りますが、從來大阪に於きまして、劇場寄席、浴場などゝ云ふものに對しまする所の制限は尚ほ將來に於ても有效でありますので、市街地建築物法と共に其れが施行されるのであります。

工事の手續に就ては何れ細則に詳しい規定が出る事と思ひます、其の細則に就きましては比較的細かい事までも規定が出る事になつて居りますが能く御覽を願ひましたならば、總ての場合を盡し

て居りますから細かい事も御解りになる譯であります。

現在工事中のもの、或は工事中ならざるも設計のある建築物に對しまする所の規定は施行令の二十五條、二十六條で其の關係を明示して居りますが、其の結果と致しまして、斯の法が行はれまする來月の早々に於て、現在工事中のもの、又工事に着手せられて居ませんでも現在既に設計のある建築物に就ては相當の手續をして頂く必要があると云ふ事を御承知置きを願ひたい。尤も其の手續に就いては成るべく簡單なる事を要求して居りますので、從來或は許可或は認可を得ておいでになつた點も、或る程度までは有効に取扱ひしたいと考へて居りますが、兎に角或る種の手續が要ると云ふ事丈けは御承知置きを願ひまして、遲滯なく其の手續を履行して頂きたいと云ふ事を今からお願して置きます。

それから罰則の事でありますが、罰則は建築主建築工事請負人、建築工事監督者、其れだけが責任者になる譯であります、或は既に出來上つた建築物になりますと、其の所有者、占有者も罰則を受ける場合もあります。之に就きましては法の第十九條に『本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス』とありますが、是が法律、勅令、省令及府令の全部に嵌まるのであります。

損害の補償又之に對しまする所の行政救濟方法としましては、或は通常裁判所に出訴するとか、或は行政上の處分に不服あるものは訴願を爲し得るとか、或は行政官廳の處分の爲め權利を損害された場合には行政裁判所に出訴する事を得るとか、種々の規定がありますが詳しく申上げますと長くなりますので、之等は關係の條文を能くお調べを願いたいと思ふのであります。先刻も申し上げました樣に非常に關係條文が澤山ありますので、箇々に就て詳しく申上げる遑を有て居りませぬが、何れ施行されましたならば皆樣に就きましても種々な疑問が起つて參ります事と思ひます、之に就ては何等か又他の時期に就きましてボツ〳〵とお話を申上げ又は御質問にも應じたいと思つて居り

ます、法律が能く執行されるや否やと云ふ事は、我々が其の責任者ではありませんけれども、又其の建築の衝にお當りになります所の諸君、大阪市民の大部分の有力なるお方々の御諒解を得まして援助して頂く事が、大切な事でありまして、法が完全に行はれる結果と致しましては大阪の都市が定全となり、其の結果商工業が益々盛になり、都市の機能を充分に發揮する事が出來る譯でありますから、皆樣に於かれましても充分御研究下さいまして法の布かれました所の精神を完了する事に御努力あらん事を切にお願致す次第であります。

（完）

市俄古の計畫

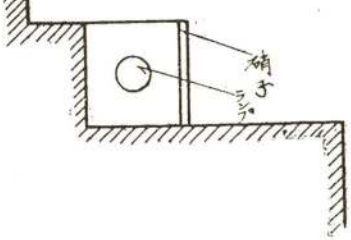
都市を計畫するには、市街の舊地域を改造して、新區域は秩序正しく開發するのである。市街を改造するには、其失費が意外に嵩まるが、新規に開發するのは、準備費以外には別段多額を要せない。市俄古は、大規模の計畫を目論見て現に審議中であるが、巴里の大奈翁三世の事業と相髣髴して、幾星霜に亘る事業で、其經費は幾億を算すと云ふことである。元來此の計畫は、商業倶樂部の發意であつて、其計畫は、世界の建築家として聲望類ひなきダニエル・エッチ・バーンハム氏とエドワード・エッチ・ベンチット氏との考案である。

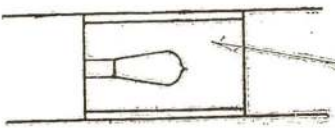
活動寫眞館の照明と觀客の眼の衛生に就て

京都電燈株式會社營業課長
工學士 石川芳次郎

緒言

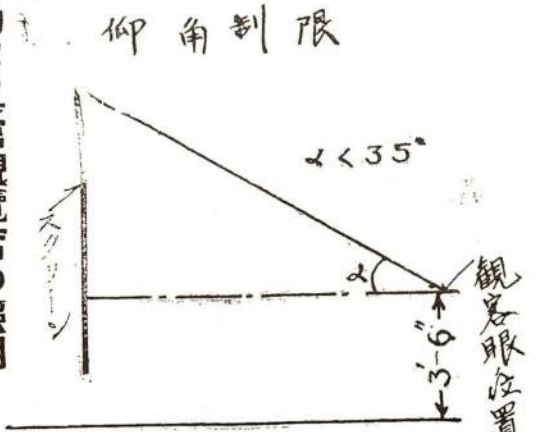
活動寫眞の社會に於ける位置が大に進みまして今や市民に公人としての教育を授くる一機關とならんとして居ります、世界到る處芝居の大部分は活動寫眞館となれる狀態であります、然して活動寫眞なるものは役者寫眞電氣及建築の四者相協力して初めて完成すべきもの◎であつて何れも大切なる要素なること勿論であります、故に歐米の學者は相當に此方面に注意を拂ふて居る樣であります





第一圖

第二圖

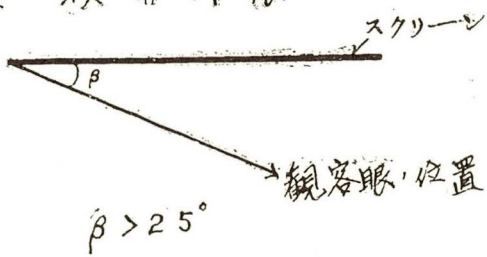


活動寫眞館觀覽席の照明

最新式の活動寫眞館は一般照明としては間接照明を用ひ撮影中と雖も全部滅燈せず一部點燈をなし觀客相互の顏を見得る程度になす、かくして暗

中飛躍の罪惡を未然に防ぐことに努め然も間接照明なるが故に寫眞映畵に對する妨害とならず、觀覽席の照明は40°フートキヤンドル位にすれば映畵に妨害を加へずに相互の顏を見分けることが出來ます、活動寫眞館内の一般照明としては米國最も進歩せる樣であります、又觀客觀覽席を便にする爲めと階段の歩行を容易迅速ならしむる爲め階段の各ステップ中間に第一圖の如くランプを點ずるものもあります。

Ⅱ 横角制限



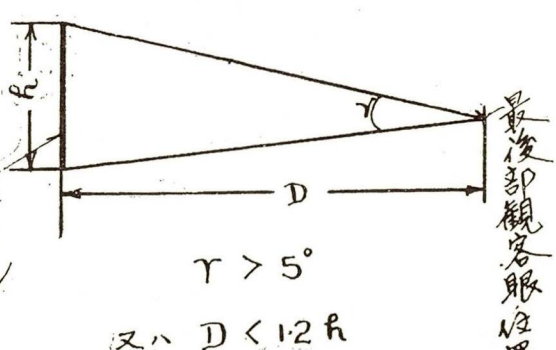
活動寫眞館觀客の眼の衛生に關する調査委員會

英國照明學會名譽理事ガスター氏の語る所によれば照明學會はロンドン市の依囑によりて活動寫眞館觀客の眼の衛生に關して調査委員會を作り、眼科醫師、活動寫眞協會員、照明學會員等の中より委員を囑託したのである、委員會研究の結果として大体下の如き結論に達したのであります。

スクリーンに餘り近く坐席を設け觀客が仰ぐか又は横を向かざれば映畵を容易く視る事能はざるが如きは宜敷くない又餘り遠方に坐席を設けて觀客の眼に苦痛を與へては良くない。

上の條件を充たす爲に第二圖の如き三箇の制限を設くることゝしたのであります。（終）

Ⅲ 最遠巨離座席制限



『設計數量書の提示に就てを讀みて』と題する設樂氏の論旨に對して

日本建築協會終身賛助員　土木建築業　山本辰五郎

私は、私の卑見を叙べて、私の今説かんとする問題の解決點即ち歸結を見出さんとするものでない。

更に、私は徒らに懸河の辨を以て、私の今説かんとする問題を論議せられた先覺者諸士の高説を批判せんとするものでもない。

私は、私の今説かんとする問題の核心に渉つて高説賢慮を欲した先覺者兩氏の努力を仰いで、その歸結點、最善の方法の下に之が解決統一を觀るに於ては、蓋し、私等請負業者のためのみならず斯業界の一進歩として、その解決統一の一日も速かに實現されむことを希望するのであります。

然らば私の今説かんとする問題とは何？、それは、本誌（第三輯第十號）に掲載せられたる『設計數量書の提示に就て』と題する小笠原鉚氏の高説と、本誌（第三輯第十一號）に掲載せられたる、『小笠原君の設計數量書の提示に就てを讀みて』と題する設樂貞雄氏の高説とであります。

本問題は、從來屢々先覺者によつて論せられ而かも未だ何等の解決統一を見ざるだけに重大な問題であります。而して何人も之が解決統一を希望しつゝある折柄とて同一問題に對する小笠原氏と設樂氏の異つた高説を拜讀した人々は尠からぬ興味を感じたと同時に如何にせば之が統一即ち最善策なるやに就而考慮せられたことを推察します。

小笠原氏の高説を總括的に云へば『建築設計書が其設計の意思を表示するには圖面が必要であり仕樣書が必要である如くに數量書も亦大に必要である故に設計書は或程度の責任を有する數量書をも提示すべきを設計本來の順序とすべきにあらずや果して然りとせば斯くの如くにして數量書を提示しては如何』と述べられたものであらう。

飜つて設樂氏の高説は『設計者は圖面、仕樣書概算書を作製するに勉め、數量計算は請負者の負擔とし、契約と同時に内譯明細『數量書』を提出せしめ、監督者は其明細書を調査して契約書に添付し、後日模樣替等の場合に此明細書の單價によつて增減勘定をなし得る樣にして置けば何等差支なきことを信ずるのである』と叙べられてゐる。

換言すれば、小笠原氏は設計者として責任ある數量書をも提出すべきを順序とすべしと謂ひ、設樂氏は別に設計者が提出せなくても請負業者に一任せばそれでよろしい、と述べられてゐる如くに兩氏の高説は相互に根本より相容れざるものゝやうである。この異つた見解の孰れが建築施行上の現狀に鑑み且つ本來の順序として是なるや非なるやは、兩氏見解の異つた中にも自ら整然たる理由を有するので直ちに之が斷定を爲すことは何人も躊躇するところであらう。私は何れも立派な議論であり且つ理由あるものとして拜讀しました。私は茲に於て私の卑見を申上げて、兩氏の高敎を仰がんとするのであります。

——▲▼——

小笠原氏は曰く『抑も建築設計書が其設計の意思を表示するには勿論圖面が必要であり、之に續いて其施行上の所謂仕樣を以て明示する事が必要であると同時に數量書も大に必要なる事と思ひます。殊に數量書に於ては假設の諸設備、運搬、諸雜費、勞役等を一層詳細にする必要があらうかと思ひます。故に私は設計者が圖面仕樣書の外必ず數量書を提示して十分に設計者の意思を施行者に表示する樣にしたいと思ひます。從つて建築士其他一般設計者は、此數量書に對しても相當の責任を以て之を提出する事にしたいと思ひます。』云々と述べられ更に『兎も角も自分に設計を立て之が何

萬圓で出來ると計算した以上、其設計の據て生じたる基本調の數量書でありますから之を施工者に提示するとも公然と或る程度迄責任を以て明示して差支なき樣に思はれます』云々とあるは、實に堂々たる所說にして何人も氏の賢慮に贊意を表するであらう。氏の所說は建築士と云ふ重大任務を最も眞摯に遂行せんとする責任觀念の發露として私は衷心より氏に敬意を表する次第であります。私の如き無識無智のものでさへ、注文者に豫算を明示するには明細書の全きを期せなくてはならぬ單に坪當り幾何だと云ふ漠然としたことよりも、或程度迄の責任を有せらるのが順序ではあるまいかと思ひます。

更に氏は曰く『併前記の樣に數量なるものが却々複雜して居りますから、極めて適確に一本一箇の誤りなき事を斷言し得る程度には到底責任を帶ぶる譯には參らざるかと思ひます。故に之は或るパーセンテージを定めて置いたら如何でしよう』云々と述べられた點も、至極最もと思ひます、何故なれば、如何に卓越せる技術者としても、神ならぬ身の尠少の誤謬だになしとするは困難で、殊に多忙な業務にあつて短時日に急に見積を爲す場合は種々の間違を生じる場合なきにしもあらざるは最もであります、故に數量書には相當責任を有するも員數違ひ何パーセント以內は責任を帶びずとさるゝは公平な見解ではありますまいか。

云ふまでもなく、今氏の所說の如くして實現さるゝものとせば寔に結構だと思ひます。

次に氏は工手間に就てこれを明瞭にしたしとの高見を拜讀しました。小笠原氏の工手間云々は理想として斯くあるべきを至當とし亦理想實現の容易なるに於ては小笠原氏の所說は勿論贊成であるが、これに就而設樂氏は『小笠原君は工手間を數量書に明示したいと云はれましたが同じ仕事を五人で仕上げるものあり十人掛つても巧く出來ない職工もあり此方から極めて掛つても却々思ふ樣には參りませんから矢張り出來得る限り仕樣書を細かに認め、見本を示す等の方法でやつたならどうでしようか、畢竟常識判斷に任すより方法はありません云々』と述べられてゐる、私は斯の點だけ

は設樂氏の言明される如く或は困難にあらずやと惑ふのであります、これに就而私は工手間も或程度まで明瞭ならしむるに就而は之を請負人に見積らせ、設計者は其工手間『は他の既成工事を見本に換ひ』の標準を教示し、例せば、此點は何れの建築物の略ぼ程度にせよとかと云ふ標準を拜見さして下さつたらば好都合にして、それによつて請負人は工手間を大略見積ることが出來得ることを信じます。

——▲▼——

設樂氏は其高說に曰く『此豫算明細書がどれだけ役に立つて居るかと申せば私共の手を離れてから請負入札迄の一週間位のものです此間に於て豫算明細書の計上した標準價格ですから依賴者も大事さうにするが扨て開札して見ると大概の場合には最低價格卽ち一番安札に落札する豫算に一番近い札を決定する樣な事はまづ皆無といふて差支へないのですがそんな風に落札者が決すると此の豫算數量書は反古同樣になつて筐底に葬られて仕舞ひます、幾日間心血を濺いで作り上げた書類は實に慘憺たる最後を遂げるのであります。

茲に至つて如何にも徒勞であつた樣な落膽さを感じるのであります。出來得るならば此豫算明細書を簡單なものにして勞力の徒費を防ぐと』述べられてゐるが、數量書は何時まで經ても模樣替のない限りは狂ふべきものではあるまいかとも思はれます。固より其價格の點に至つては時價に多少の異動を生ずることのありとしても數量其根本は異るべき性質のものでもなければ亦慘憺たる最後を遂ぐべきものではあるまいと考へられます。これは、私としては設計者の明示する數量書を重んじ絕對的に信ぜんとするからだと申さるればそれまでゞありますが。

更に設樂氏は曰く『又一方請負側の方面から考へて見ましたならば既に數多の經驗ある請負者は圖面と仕樣書とさへあれば數量を算出するのは設計者よりも遙に達者であつて、且つ誤謬も少ない筈でありますし又實際さうであると聞いて居ります夫故吾々は此數量書に費すべき腦力を、全然圖面仕樣書に傾注して一點の疑問なき程度にし神でな

い以上は出來得る限りを盡して圖面仕樣書を作成して見たならば責任のない數量書を提出するよりは優れること萬々ではありますまいか。

又實際上數量書を設計書類に添付してをいても嚴格な用心深い請負者は矢張り自分で整算せぬと氣が濟まぬ人もあると云ふ事であります。して見ると此數量書明細書の提示といふ事は大いに研究を要する次第であると思ひます』と述べられてゐる通り、現在としては氏の高說の如く、請負業者は更に整算する場合もあり亦數量書算出に妙を得てゐるかも計り難しとすれど、設計者にして或る程度の責任を有する數量書を提示される曉はこの二重の算出による勞力が省けるかも知れませぬ、斯の點が小笠原氏と設樂氏との高說が全然相違する樞要點ではあるまいかと存じます。

この設計者が數量書を提示するを可とすと稱する小笠原氏の所說と對照して大に考慮すべきことではあるまいか。

設樂氏が現在の習慣性を基調として述べられてゐる高說は、小笠原氏の高說を尤もとすると同樣に自ら一箇の理由を有することは明かである。而して設樂氏は尙ほ曰く『小笠原君の御說の如くに數量書を提示するとして、しかも其內に違算でもあつたら、後日の文句の種となるので設計料の割引してもよいから私は御免を蒙りたいと思ふ程であります』と述べられてゐる。

斯の點に就て私は嘗つて私が本誌第三輯第五號卽ち五月號に有料見積に對する卑見を述べて高敎を仰いだ關係上聊か卑見を述べて見たい。

設樂氏は請負業者に見積らせ幾何の設計料の割引をさへしても差支へさしと言明されてゐる。私は常に此見積問題に就て可成り考慮してゐるので茲に於て氏の高敎を仰ぎたく考るのでは、設計者は自身の設計に對して見積るのである故圖面が明瞭致居隨て其時日も早く拾ひ出し其他總てに亘つて呑み込みが早いものと考へられる。されど、請負業者は他人の設計せる圖面に就而見積るのであるから、設計者自身が見積る如くに容易でありませぬ。殊に拙なき手腕を有する我々は見積時日も相當に要しますので、若し請負業者に見積らせる

とせば見積日數卽ち見積日時の猶豫を與へられて欲しい、最も、設樂氏の云ふ如く、請負業者に見積らせる時は自身で拾つただけ後日施行する上に幾多の利便を得られるといふ特點がある。又設計者の調製したる明細書に單價小計を記載せば設計者及注文者が豫算書と對照し調査が致し易いのである然ながら請負者の見積手腕を視る事が至難である譯である。而して、この請負業者に見積らせるとの可否如何は姑く措くとしても、從來、請負業者は或る工事に對して見積を命ぜられし場合は可及的自身に、請負契約を締結せらるべく晝夜の別なく全力を注いで遺漏なき見積書を作製するのであつて、この見積書を作製するまでの苦心は全く想像以上である、今設樂氏の言明されし如く、『設計料の幾何を割引しても』と稱せらるゝ如き復雜にして精緻を要する見積書を作製することは、請負業者は設計者より以上に一層の努力を要するのである。而も競爭入札によりて他に落札せんか折角幾多の勞力を賭して作製した見積書は、それこそ慘憺たる最後を遂げなければならぬ。其努力の結晶は哀れ筐底に葬られ、幾多の心血は徒勞に終るのである。これは公平なる見地からして、其當を得たものではあるまいと考へる。されば之を如何にすべき、卽ち有料見積たらしむるの一途あるのみである。

設氏樂の言說によれば、此有料見積には、贊成かの如く推察せらる。

——▲▼——

以上述べ來れる如く、今後の數量書提示問題としては兩者孰れも御尤もなる御說故小笠原氏の方針を妥當とするや、將た設樂氏の方針を可とすべきや。二者何れを執るに策の得たるものとすべきかは、先覺者諸士の賢慮を仰いで解決統一を得たいものと考へる。固より小笠原氏の方針の一般に採用せらるべきことを頗る妥當とすれば、然らば果して如何にせば實現し得らるべきか。設樂氏の方針を墨守するに於ては、私は同氏の說に甘へ請負業者の見積を有料見積に決定して亦妥當かと愚考するのである、私は以上の諸項に就而先覺者の高敎を俟ちて最善策の統一を一日も早く實現されたい希望を有するの餘り、敢て愚見の一片を述べたのであります。妄言多謝。

使はる、人と使ふ人

〔中〕

═ わたくしの事業に携る人に就て ═

日本建築協會
終身賛助員　有山福重郎

× 一絲紊れざる秩序と命令

雑然と取り亂した作業場に入つたとき、人はまづ何から手を着けて好いかに迷ふ。順序なく、秩序整然としたところがないと工程の上に大なる困難を生ずる。秩序を整正することは、直ちに事業の成否に關することが大きい。

事にはそれ〴〵順序があり、階梯がある。そしてこの順序と階梯とは、事を完成に導く道程であるは云ふ迄もない。今これを粗の組織上より觀察すると、その大小によつて、もとより一律にする譯には行かないが、組には夫々責任者あり、亦組長あり、或は一部の現場の主任者があつて、各これに從屬して組のために努力盡瘁するのである。

併したゞ漫然と、秩序を正さなければならぬと云つても、如何にすれば、秩序を正し得るかと云ふことを説明せねば、理解に苦むかも知れない。それには、色々の方法もあらうが、先づ第一に念とすべきは上司を尊敬し、且つその言葉に服從することである。如何に優れた學才があり、秀でた技能があつても上長を蔑視したり、或はその命に反抗したりしては組の統一を缺き、事務の運行を阻礙せしめるのである。

職を我組に奉じ、それによつて、自己の生活を保證される者は、殊にこの職責を盡さなければならぬ。組員として、職責を全ふしやうと思はゞその念頭から尊敬と服從の精神を離してはならぬ。若し上司の命が下に行はれない事があれば、恰も

四肢の痔痺した者も同様に活動を期することが出來ない。

職務權限も亦さうだ。與へられた權限を超へて擅にその下受材料やなどゝ職務の範圍外に出で、放漫に事務を處理するなどは、最も戒めなければならぬ。夫れがため仕事上工程に色々な行違を生じ、組の事業が、一律に出來ないやうになることが受合。即ちこれ等の秩序を正し、その規律節制に服することはやがて組の脈絡、系統を整正せしめて、一絲紊れない體容を、備ふることになるのである。

× 急がば廻れ

一ッの工事を請負ふについてもよく其仕事の難い利の有無は言ふ迄もなく、苟も其仕事を處理するには一定の方針を有し、亦自ら順序がなくてはならぬ。若し一定の方針を定めず、漫然として事に當り又之れが處理の手順を誤まつたならば工事の中途に至つて取るべき方向に迷ひ、或は又錯雜して完成を期することが出來ない。事に當つて手順を定めないのは、恰も航海に際し、豫め寄港の地を調べずして、かじなき船を出すやうなものである。

また事務について方針を定めないのは、航海に際して羅針盤を持たないと、等しい暴擧である。これ等は時間と勞力を空費した上に、目的地點をあやまつたのであるから、惡くすると、自ら死地に陷らないとも限らないが、これに反して、

如何に仕事が煩雜であらうが、方針と手順とを定めて仕事に着手し、而して其の處理を簡潔にするならば、事業の整正を期することが出來る。如何なる大手腕家であつても、事に臨んで無方針の遣り方をする者はない。否、大手腕家であればある程、この間の妙諦を知悉して、能く手順及方針を定めるのである。左れば仕事に忠にして、事の處辨を早からしめ、以て手腕を發揮しやうと思へば、一層嚴密にその手順と、方針を定める必要がある。

現代の社會は煩雜である。しかも世の中が進歩すればする程、あらゆる工事は一層の繁忙を極め

て様々なる仕事が、一時に輻輳して來るの傾きがある。この間に處して、快刀亂麻を斷つ如く、山積せる仕事を處理し、緩急煩簡のよろしきを得て進行を計らうとすれば、何うしても、正しき秩序に俟たなければならぬ。若し一度び秩序をみだし手順をあやまらば、海波の寄する如く、次ぎから次ぎと蝟集して忽ち累を及ぼし殆んど手を着くる餘地なからしむるであらう。

事に臨んで功を急ぐの餘り、一擧にして全果を收めやうとし、或は煩はしき餘り、之れを終らない中に他に移り、更に又他に轉ずるが如きは、之れ組織的頭腦なき者の行爲で、到底滿全の功を期する譯に行かない。

それで徐ろに秩序を履み、手順に從ひ、指示する方向、表明する工程に依つて進めば仕事の完備と、整頓を見るに至るのである。言ふまでもなくこれ等は、一つとして秩序の整正に基かないものはない。「急がば廻れ」の一語は、事務の手順と、秩序を正くすることを道破した、格言である。

× 組員の接客法

親が子に對する愛情に厚薄のあらう筈はないが從順なる子は愛せられ、反抗する子は嫌はれる、之が人情の自然である。之と同じく使はるゝ人は常に上長に對して、從順でなければならぬ。若し上長が指圖せば、使はるゝ人は、直ちに之を行ふだけの事である。指圖の當否、態度の善惡の如きは、敢て使はるゝ人の問ふべき事でない。

なほ組には組の一員として、職務上守るべき事項がある。秘密嚴守の如きその一つである。若し組の各員にして、責任の重きを思はず、一度び之れを漏洩するに至らば、意外の惡影響を他に及ぼし又は組に損害を與へて、信用を失墜せしむる事がないとも限らない、且つ諸般の事業は必ずしも一定不動でない、或は季節の關係によつて、繁忙を生じ若くは不時の突發的事件に接する事もあるから、平素これらの場合を豫想して、準備的考慮と措置とを全ふするは、洵に責任を重ずる者の當然守るべき行爲である。この準備にして完たけれ

ば、假令俄かに事故の大襲來に遭遇するやうな事があつても、これに避易して、動搖を來すやうことなく、直ちに迎へて處辨することが出來る、否反つて之をして組の力量を示し、併せてその發展を圖る絶好機會を作ることが出來るかもしれん。

×運、根、鈍、

組員が「私は此のやうな仕事は、とても出來ない、此のやうな業務は、なか〳〵實行ができない」と云ふて其の仕事を放棄したり、失望したりするのは、畢竟その個性に、粘着力が乏しいからである。昔から困難の伴ふ事業を就成して、その美名を後世に貽した人々は、孰れも非凡な粘着力の強い人である。粘着力の強い人は、一度びこれと云ふ目的を定めると、如何なる困難とでも戰ふて、その最初の目的を貫徹するのである。工商業において成功するのは、如何なる困難とでも健闘してその目標に進むところの粘着力に富んでゐるからである。

「轉ぶ石には苔つかず」で、人間があちらこちらへ、仕事を變へるのは、失敗の基である。人間は輕佻浮薄では不可ない。一つの仕事に着手したらそれを何處までも行り拔くといふ勇猛心がなくてはならぬ。約り建築家には、粘り氣と執着心が必要なのである。然るに一寸した感情に支配されて店員を罷め會社役所入をしてみたり、また何年精勤しても、上の人が眼を明けて呉れないからと云つて、不平を鳴らしたりする者がある。此樣な氣分であては、迚も自分の希望する如くに昇進するものではない、譬へに「運、根、鈍」といふ言葉がある、此にはなか〳〵深い味ひがある。運とは求めで得られないものゝ樣だが、人間平素の心懸け一つで、贏ち獲ることの出來る運命を云つたもので、鈍とは、遲鈍を意味するので、何處かに重みがあり、世間の毀譽褒貶に頓着せず、自ら信ずる所に向つて進み、向つた方には萬難を排しても之を遂行するといふ、精神の現はれを言つたもので、根とは、物事に根氣よく、徹頭徹尾やりぬくといふ意味である。何人でも此の三つが揃つたら一身の榮達疑ひなしである。

だからどんな悪い位地でも孜々として精勤してゐるならば、遂には事務に熟達し、精通して自ら成功の門が開けて來るのである。「待てば海路の日和」とは此所である。豊臣秀吉は織田信長に仕へて草履取の賤しい奉公してゐたとき、常にその草履を、自分の懐に入れて暖め、それを信長の出入のときに差出したのであるが、信長は之を履き、如何にもその草履が暖いので、氣持がよかつたといひ、秀吉の氣轉を非常に感心し、竟に之を信用して、段々と重い位置に登用したのである。秀吉は草履取りをするときは、草履取りの職分に全力を注いだから竟に天下を治めるやうな豪傑となりたのである。誰でも其の與へられた仕事を忠實に爲し、其の位置を大切に守るならば、累進して立派な位置にまで到達し得ることは疑ひない。

× 向上心の扶育

國民に進歩がなければその國は亡び、組に向上的精神がなくば、その組は衰頽するのである。之と同じく個人にも、亦向上心がなければ、進歩の見るべきものなく、常に後進から追ひ越されて、劣敗の憂目に遇ふであらう。故に大なる運命を造らうとすれば、何うしても向上的精神がなければならぬ。

多數の組員の中には、人の位地の昇進し、給與の漸次に增加してゆくのを見て、無能にして、用ふるに足らない自己の事を思はず、たゞ一途に、人の幸福を羨み、之を嫉妬し、煩悶して業務を等閑に附し、果ては自暴自棄の行爲に出づるやうな輩がある。ある人曰く「嫉みは骨の腐れなり」と。斯る人々らは最も慨むべきである。吾々は人のことを嫉妬せず只自己の本分を忠實に守つておれば宜いのである。

又ある人は青年に向つて、「飽まで抱負を高くせよ、自己の從事する方面の王たるべし」と云つた。抱負は何所までも高くなければならぬ。自分の從事してゐる方面で、人後に落ちるやうでは、到底立身することは出來ない。だから如何に繁劇なる執務であつても、それで自己の技倆を鍛ひ、自己の技術の進歩をはかり、同時に、自己を戒飾して

その品性と人格とを高めなければならぬ。斯くして從來に鍛練し、人格の修養ができ、如何なる任務にも、堪へ得る能力を、具へるに至るであらう然し平素この心懸けなく、修養を怠る人は、何時まで經つても、同一の地位に居り、學ぶところ、進むところ自發するところが無くして、一生を空しく終るかも知れない。

使はるゝ人としては、丁寧親切、温良恭謙、または着實勤勉の如き、諸德を具へることが必要である。然しこれのみでは因循姑息に流れ、又は保守的に陷るの、危險がないともいへない。

故に執務家としては、何うしても精力旺盛で、元氣潑溂として、活力に富み、しかも進歩發展して止まぬ、向上心ある者でなければならぬ。向上心は低い理想や、小さな抱負の中から、生れないから、高遠な理想と、博大な抱負を有ち、自己の天職に對し、その全力を傾注して、奮勵せなければならぬ。

× 業務上の興味

自己が從事してゐる業務の、能率を增進しやうと思へば、深甚な興味を有たなければならぬ。能く責任を感じ、義務を重んずる事によつて、事務に熱心にはなり得るが、而かも之に因つて、必ずしも興味は生せない。然らば、何うしたら興味が生ずるかと云ふと、それは常に能く精神的に、自己の執務に就て、研究し、苦心するのである。假令その結果が著大な効果を齎さない迄でも、絶へず物事に注意し、研究して倦むことなくば、遂に其仕事に對して親みが深くなり、愛着心が生じて興味油然と湧き騰るのである。

そこで興味は如何にして、之を起すかと云へば其の培養法は、どうしても熱心、注意、研究による外はないのである。「この事は何うしたら宜いか」と、樣々に工夫を凝らした仕事と、何等の研究も、注意もせずに行つた仕事との間には、たとへ結果が同じであつても、興味の程度において非常なる相違がある、これは人々の既に親しく經驗するところであらう。熱心がなければ、事務と同化する事が出來ない。事務との同化が出來なけれ

ば成績が上らない。好成績が擧らなければ、愉快を感じ、勇氣を振ひ起し、興味を覺へることは、到底望み得られぬ。

どんな仕事に對しても、自己が最適者である、優勝者であると自覺しなければ、捗々しく其仕事を、成遂げらるものでない。「とても出來ない」、「難かしくて手が着けられない」といふが如き嘆聲は、仕事に敗けた人の言葉で弱者の繰り言である人は仕事に呑まれては不可ない。どんな複雜な仕事でも困難な仕事でも、此方から呑んで懸らねば甘く出來るものでない。仕事は何でも、征服してかゝれば易々として運ぶのである。斯くて一瀉千里式で運行して行けば、それがため更に前途に光明が輝き、從つて興味も加はり愈々進んで如何なる劇務にも、身を投ずるの勇氣を生じ、絶へず仕事に對して快活な、精神を有つことが出來るのである。

上述の如く、常に仕事に對して忠實であり、熱誠であるならば、其仕事の効果の良好であるのは勿論のこと、執務に就て胸中限なき快感を有つに至るのである。茲に於て價値なき不平不滿の念は忽ち雲散霧消する。然れば、使はるゝ人は、如何なる困難に遭遇しても、嘆聲を發せず、不平を漏らさず、煩悶せず、進んで渾身の勇を鼓し、博大な希望を懷きて、事に當り、竟に成功の月桂冠を獲なければならぬ。

×仕事の段取りと手順

水を防ぐに方り、先づその源を防がずして、下流を防いだならば、如何に強固な堤防でも、忽ち決潰するに至るのである。仕事をするに當つても本末を誤り、前後を謬るなれば、如何に多くの時間を費し、如何に多大の努力をしても、見るべき効果がないであらう。故に何事をなすにも、事の順序を考へずして、漫然と著手しては不可ない。初めに著手せなければならぬ事を、後に著手し、事務が混亂して、手の著けやうもなくなるのは、多くの場合、物の本末を顚倒するからである。之は秩序の觀念なき、粗漫な人々のしば〳〵經驗するところであらう。

物には夫々順序と次第がある。故に仔細に事物を研究して懸れば、何事でも、手順よく運ぶものである。仕事を取る上についても、必要なる人の手配、器具の配列、材料の配置を都合よくなして順序正しく仕事に着手すれば、如何に困難な事でも、澁滯せずに、處理することが出來る。仕事を手順よく爲す人は假令經驗に乏しくても、仕事の手順、段取の拙い古參の人をも、熟練家をも凌ぐことが出來る。斯の如き人は、實力において優勢を示すから、竟には上長の信任を厚くし、自ら望ますして、立身の緒端を開くのである。

執務するに方つて、平素索心なる注意を拂ふ習慣を作れば、自然に工夫の力も出で、順序、次第をも發見して、過失なく自己の能力を發揮し、然かも大なる効果を産出するに至るのである。然れば一事をなし一物を取扱ふ毎に、必ず先つ手順を定めて、自己の經驗と智識とを、都合よく開發せしめなければならない。尙ほ建築家は、時間と勞力とを最も巧みに使用するといふ、經濟的の觀念を忘れてはならぬ。仕事の手順を決め、段取を宜しくするは、主として此經濟的觀念が、その根本をなしてゐる。彼は手腕家なり、敏捷家なりと云はるゝ人は、大概勞力と時間との、經濟的觀念に富み、その手順段取の宜しきを得てゐる人である斯の如き人は、その仕事の遣り方が如何にも巧妙なため、卓越せる手腕と認められて一般の稱讃を博するに至るのである。

× 氣位の高い人は商人に不むき

四五年前迄學校出の青年よりは、小僧上りの方が、實際に間に合ふて、使ひ易いのであると云はれていた。學校出の人は、教育があるから、書記役としての申分ないが、商賣になると經驗がないから、小僧上りに及ばない事もある。夫れに學校出の人は、希望が高いところより、一つの商店に腰が落付かず、どこか良い口があれば、乘變へようと云ふ考へがあるのと、何うも氣位が高くて、自分の知らない事を、古參の人に問はない癖がある。これ等が主に商店で常に問題視される理由である。

物事に當つて、自らその方法を考へ、その筋道を發見しやうと、苦心するのは惡るくない。人間には、自分の事は、自分でするといふ、自治の精神と獨立心がなければならぬ。然しながら、自分の知らない商賣のことなどは、百も二百も承知してゐる古參が控へてゐる場合に、此人に聞けば早解りがして、自分にも便利であるし、商店としても利益なのである。斯る場合に我を張るのは、最も宜しくない。個人的のことなら、痩我慢を張らうが、獨斷的な事をしやうが、夫は個人の利害得失で終るのであるが、組になると、一人のした過失が全部に波及して、その損害は少くないのだから、此邊を熟々考へて、他に損失を懸けないやうに「問ふは一時の恥、知らぬは一代の恥」である。實學はむしろ社會に有ると云ふ意味に於てよろしく謙虛担懷なことでも古參の店員、小僧に迄も聞いて、事務に萬過ちなきやう、心懸けねばならぬ斯くすれば、事々に新智識を得ると同時に、他方には事務の進行を迅速ならしめて、完美せる効果を奏するに至るのである。之れ智者の行ひで日々斯の如くして、仕事を知つて行くならば、その智識は經驗と共に豐富になり、やがて優秀なる技能を發揮し得るに至るであらう。

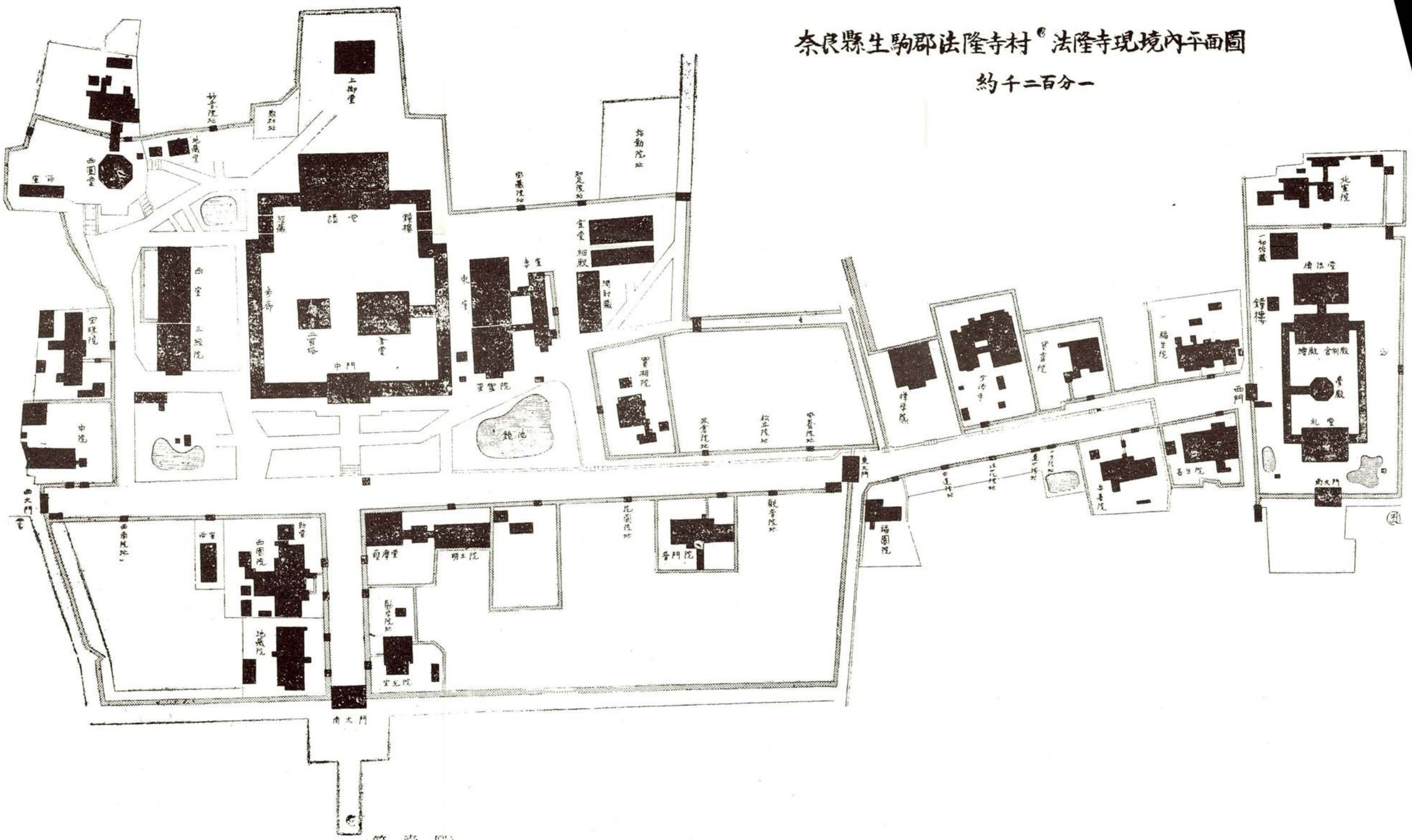
要するに、學校出の人は、「世界は大學校なり」といふ、格言を實地に行ふて、商店に入れば小僧の心になり、新參者といふ氣になつて、是から漸々經驗を積んで、豪らい者に仕揚げて行くといふ謙遜な向上的な精神を有てば善いのである。其れを當世流の「自己表現」などをしたら、夫こそ大なる失敗であると思ふ。（つゞく）

衆人の奴となり能はざる者は、衆人の主となる能はず。

（カーライル）

奈良縣生駒郡法隆寺村 法隆寺現境內平面圖

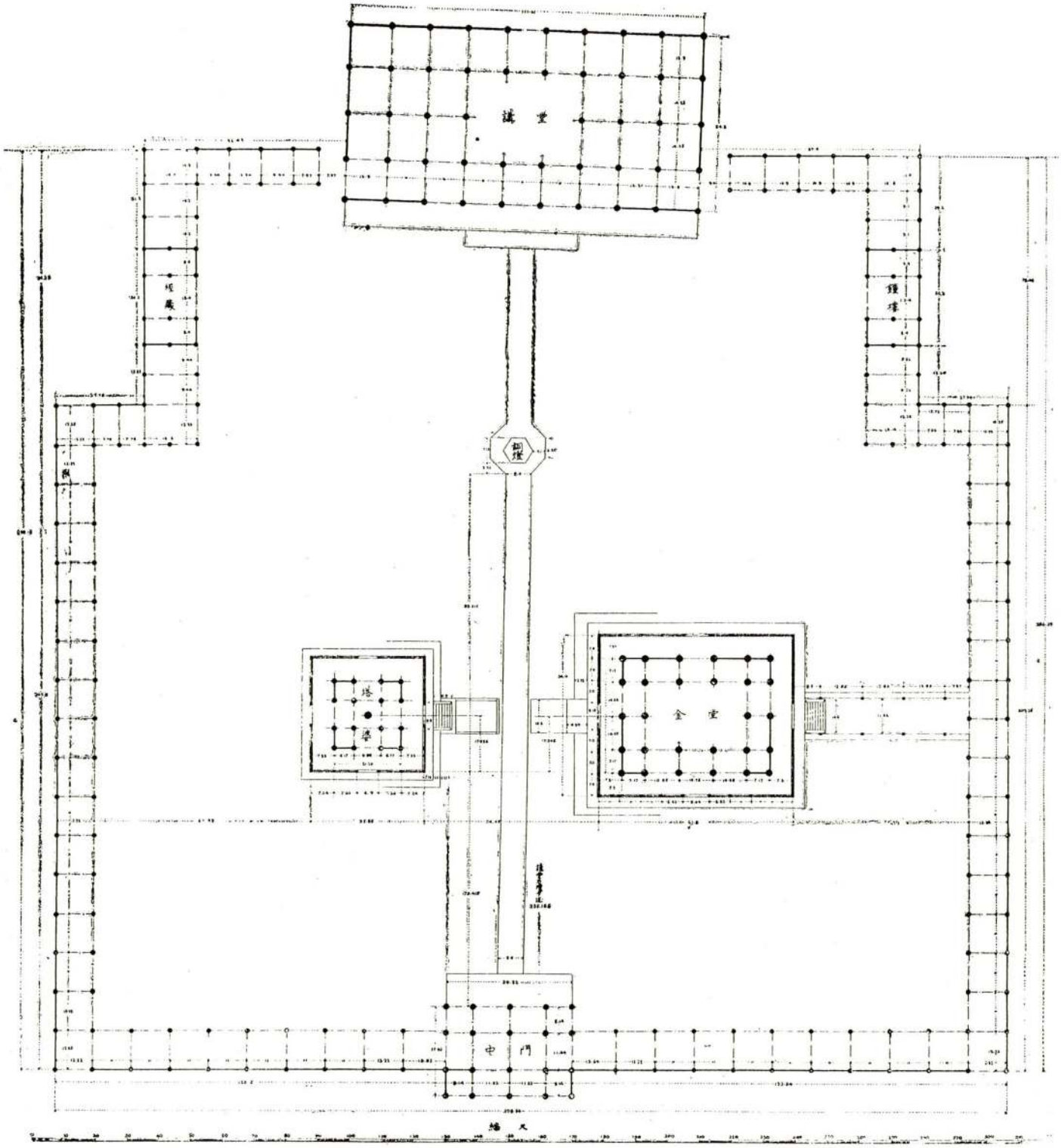
約一分百二千一



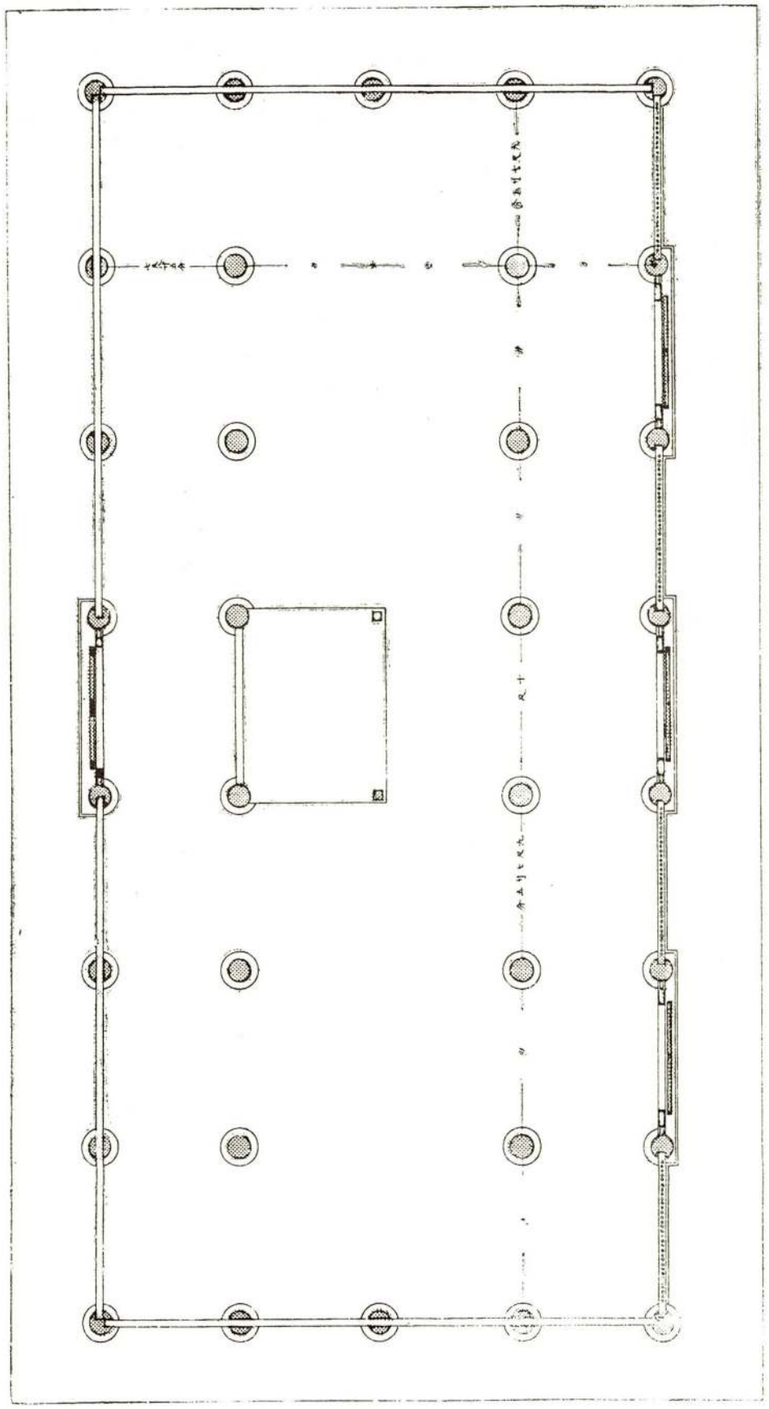
（第壹圖）

（第貳圖）

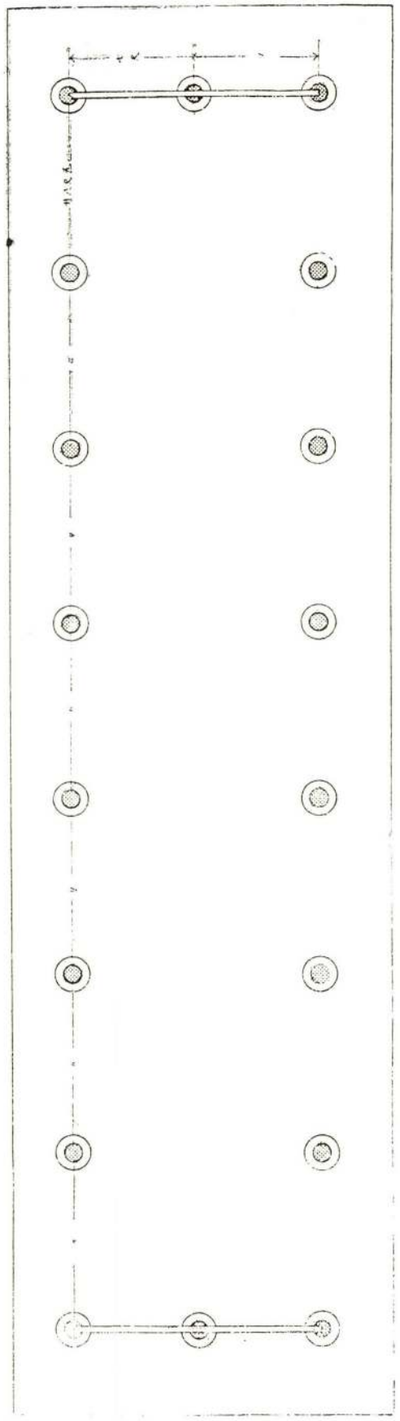
法隆寺西院伽藍平面圖



法隆寺食堂平面圖　縮尺五十分之一



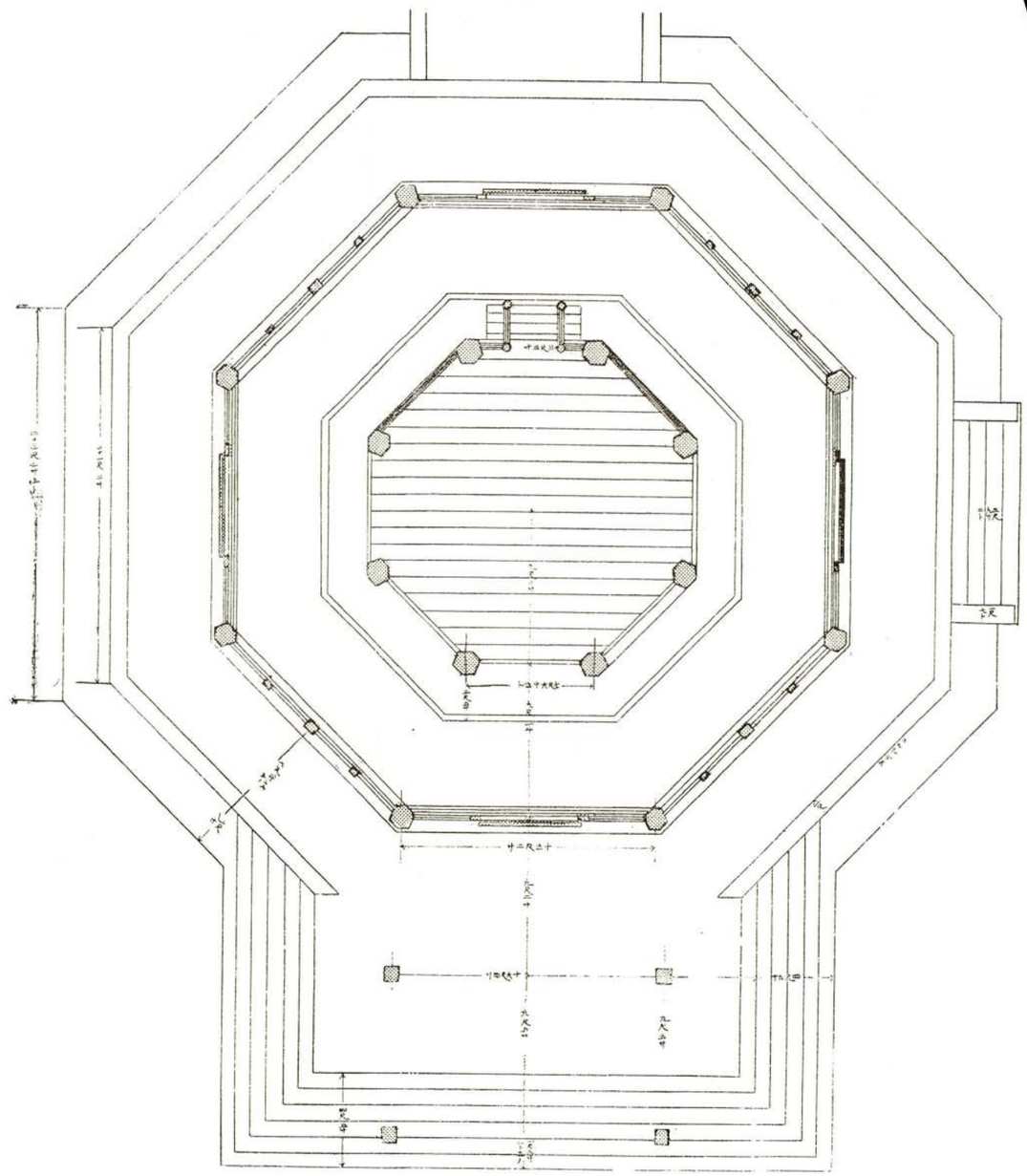
同細殿　縮尺同上



（第參圖）

法隆寺西院八角堂（西圓堂）

縮尺五十分之一





研究

法隆寺古建築に就て（上）

工學博士　天沼俊一

本編は、曩に博士が我日本建築協會の爲に講演されたる筆記に係り、博士の校閲を經て掲載せるもの也―記者

先づ順序として建築史上に於ける法隆寺の位置を一言申します。日本の建築史では、佛教渡來以後現今に至る迄を、飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・桃山・江戸・明治の八時代に大別しますが、法隆寺は此の内の一番古い飛鳥時代に入るので、卽ち、推古天皇の御世に建てられた寺の一つであります、そして飛鳥式の建物が今日でも尚四棟殘つて居ります、此附近に法隆寺・法輪寺といふ寺があつて、こゝにも夫れ夫れ樣式上此時代の三重塔婆が一基づゝありますが、四棟もあるのは他にありません。

佛教渡來以前には建築らしい建築はなかつたのでしたが、欽明天皇の十三年に表向き佛教が入り幾多の波瀾はありましたが結局上下の尊信を得、殊に厩戸皇子や蘇我氏が第一の信者になりましたので、佛寺建築が盛になり、從て建築の中心とな

るものは寺許りでありました、かくて多くの寺が建ちましたが、今日に至る迄で一千三百年の間、當時の建築を存し其俤を傳ふるものは、獨り法隆寺あるのみであります。

これから案内を始めますが、先づ第一に平面に就てお話を致しませう。**第一圖**に於いて、一番下の方に**南大門**があります。此門を入つて眞直に行くと道が十文字になつてゐて、其突當りが**中門**です。中門の兩側から步廊が左右に出てゐて、夫れが北方へ曲り、更に曲り曲つて凸字形をなして**講堂**に續いてゐます。其一廊の內に、右手即ち東に**金堂**、左手即ち西に**五重塔**があります。

金堂は所謂本堂であつて、天臺宗では中堂、禪宗では佛殿、其他の宗旨では金堂と呼び、本尊を安置する堂で、加藍建築中の最重要な建物の一つであります。夫れから**塔**には多くの場合舍利（シャリ）を一番上の寶珠內に納め初重內部には釋尊の一代の出來事を形に現はして祀るのですから、此亦金堂に匹敵する建物であります。ですから其重要なる點に於きましては、此二つは殆んど同等であります

此時代に建立された寺で、此等の位置が反對になり、金堂が左で塔が右に建つてゐるのもある。或は塔が前になつて金堂が其後方に一直線上に配置されたのもあります。當市の有名な四天王寺の樣なのが卽ち夫れで、建物は皆新しいけれども、其置配は當初の儘であります。

此の樣な主要建築が左右又は前後に並んでゐるのを一口に百濟樣と申します、卽ち百濟直輸入の配列の仕方といふ意味でせうが、百濟に限つた事もないからまあ朝鮮輸入式の伽藍といふ位の所でせう。

飛鳥時代に次で奈良時代になりますが、便宜上前期と後期とに分けます、前期は飛鳥から所謂天平時代への移り變りの時代で凡そ大化改新頃から平城遷都迄でを含みます、一に白鳳時代といふ。後期は平城遷都から平安遷都迄で、總ての藝術の黃金時代でありました。此奈良時代は唐の直寫時代でありまして、伽藍建築に於きましても、最早飛鳥時代の樣な配置法を採らず、而も塔は東と西とに一基づゝ合計二基（卽ち東塔と西塔と）建てたのです、で

斯様な配置は最早百濟式ではなくて唐式です、詳しい事は只今必要がありませんから申上げません

扨て元へ歸りまして、中門の左右から出た歩廊の二度目と三度目との曲りの間に、右に鐘樓、左に經藏があります、併し是は最初に建つた時はかういふ風ではなかつた、圖でみると講堂の前に六角形のものがあるが、此は燈籠であります、で初めは丁度此邊に講堂が建つてゐたので、今の講堂の位置には北室（キタムロ）がありました、卽ち右の方の東室（ヒガシムロ）（今其南端は聖靈院）と左の方の西室（ニシムロ）（今其南端は三經院）と、此北室（キタムロ）の三つを合せて三面僧坊（サンメンソウボウ）と呼びます。其北室は延長三年（今を距る九九六年）に雷火でやけ、同時に講堂も燒けたゝめ、正暦二年（今を距る九三〇年）京都の普明寺の堂を移して今の講堂にした時に、原位置卽ち今の燈籠のある址よりもすつと引下げて、北室の燒け址へ建て、同時に歩廊も延長して現在の樣に鐘樓經藏を取り込んで了つたのださうであります。

そのほか未だ此附近に澤山の建物がありますが夫れ等はあとからお話をする事にして此西の一廓を西院（サイイン）と申しまして、法隆寺の重要な建物が集つてゐます、西院の右に少しはなれて又一群の建物が澤山建つてゐる、西院に對して此一群を東院（トウイン）と言つてゐます。

東院の地は、元とは聖德太子の宮址でした。聖德太子が、推古天皇の御世に斑鳩（イカルガ）の地を撰び宮を建て創め、落成をしたので此宮へ移られました。後に蘇我氏の亂で上宮王家は滅び從て宮も自然荒癈して了つたのを、天平十一年になつて法隆寺の行信といふらい坊さんが、いろ〳〵骨を折り此宮址へ伽藍を建て、其本堂として八角圓堂を造りました、此が卽ち今の夢殿（ユメドノ）であります。其圍りには廻廊があり、其他多くの重要な建物があります

斯樣に此寺は東院・西院に分れてゐて、時代もちがひます。西院の方は飛鳥時代、東院は奈良時代、古さに於いてはざつと二百年許りの差があります。

次に各建物に就き、一つ一つ要を摘んでお話を致しませう。

最初に寺の總門たる

南大門　から始めます。寺は常に南面するのが正則で、其正門は南を向いて建つてゐます、此門も矢張其通りで、門前の少し離れた並松（ナンマツ）といふ部落から直線の松並木の道がある、此道を此門に向て歩いてくると、此門を透して遠方に中門の一廓が見れ、飛鳥時代の氣分が漂つて居ますから、何ともいへない一種の感が浮ぶのであります。

此門の創立に就ては確實な証據はありませんが苟も寺の正門ですから、無論當初に建てられたのでせう、其後は不幸にして屢々火災に罹り、最後に永享にやけました、そして間もなく建てられたのが今の建物で、永享十年に出來てゐます、永享の火災は其六年か七年かで（確かな事は判りません）、再建するに就きましては八年頃から準備をし、足掛三年かゝつて落成したのです、記錄はまだ私は見出しませんが、屋根の瓦に永享八年の銘のあるのが澤山ある、同十年のも隨分あります、かく八年と十年と二度に瓦を焼き、其他の準備漸く整ひまして、同年に無事出來しました、此事は棟木に墨書してあります、併し其棟木は腐朽して最早用ひられないから、字の書いてある所丈けを切り取つて箱へ入れ、門の天井上においてあります、此は當時の字で書いてあるから確かであります。

此屋根の瓦を造つた人は、當時大和一の瓦大工で、壽王彦次郎橘吉重、天授四年（北朝永和四年、今を距る五四三年）の生れですから、多分彼の有名な唐招提寺金堂東側の鴟尾を造つた壽王三郎大夫正重の孫位に當るのでせう。最近の修繕に至る迄、屋根は殆んど昔葺いた儘でしたのは、吉重が餘程入念に瓦を焼き屋根を葺いたからでせう。尚ほ鬼瓦も鳥衾も皆永享のもので、一々銘入りですから確かです、而も銘は何れも吉重の自筆ですから一層感興を惹きます。此等の沿革を取調べる上に於いて良い參考品であります。

此門は室町時代の建築物として、現今に遺つてゐる八脚門中、大さと立派さとに於いて有數のものであります。柱以外大部分は松材を用ひてあるが、伐り時がよかつたせいか殆んど腐つてもゐず虫も喰つてゐません、松でもかうなると隨分壽命の長いもので、立派に建築材料になります。細部（ディテール）

としては頭貫鼻の彫刻●花肘木●妻飾の笈形(オヒガタ)付大瓶束等は注意する必要があります、殊に花肘木は中央の間に用ひてあるのと脇の間の夫れとは、極く僅かの點で異なつて居ります。

南大門を入ると、直く左に塔頭(タッチウ)地藏院の門が珍らしく。

上土門(アゲツチモン)の樣式です。一体上土門といふのは、今では繪巻物位で見る外に、實物は皆亡くなつて了つたが、我が法隆寺には幸に遺つてある。遺つてはゐるが土は上つてゐないで、代りに檜皮で葺いてある、夫れでは上土門とは言へないとの抗議が出るかも知れませんが、其樣式は全く左樣ですから、屋根の材料等は深く問題にするに當りません。今となつては實物の上土門は此處でみるより他にないと思ひます。

此れから三つ目の門を入ると事務所で、此奥の室から廊下續きで

新堂 といふ瓦葺三間四面入母屋造の小堂がある古記錄に

堉、地之北浦在新堂、萱葺云々

とありますが、舊位置は今確實には判りません、今のは弘安七年(今を距る六三七年)に橘國繼といふ大工が建たので、其時の棟札が寺に遺つてゐます。木割は隨分纖細ですから、初めは記錄通りに萱か又は檜皮で葺いてあつたのでせう。弘安建立の後何度も修理されてゐますが、大部分其時の樣式が遺つてゐるから、時代は確かな上に、棟札があるから最早疑ふ餘地はありません。

堂内へ入ると、小組格天井●須彌壇●勾欄●羽目板の格狹間等は最もよく時代を現はしてゐます勾欄の寶珠柱は節が二つで却々よろしい、本尊の藥師三尊●四天王等美事な彫刻が安置してあります。

新堂を觀たらば、前庭の池の西北隅(堂からいふと東北隅)に建つてゐる石柱を御覽なさい。元は塔頭與善院にあつたのですが、五六年前に此所に移したのです、惜しい事に上の石盞と寶珠は亡くなりましたが、建武元年のもので、大きな字で陰刻してあります。

池の北側には貞治二年(南朝正平十八年、今を距る五五八年)の鐵燈籠

があり、鐵の部分と青銅の部分とがありますが、鐵の方が古いので、青銅は後の修補であります。以前から庭にたてたのではないので、夫れは竿の銘に

奉施入

法隆寺上宮王院 □□燈爐

? ? ?

貞治二年癸卯卯月十八日

大願主播磨守赤松

前彈正小弼源氏範

とあるので分ります、陽銘ですが却々讀みにくい尙も一つ寺務所の東庭の南手、椽に近く石の露盤が置てある、此れは今ひつくり返して、擦の通つてゐた孔を埋め、手水鉢にしてあるが、質は凝灰岩（ツフ）、形は藥師寺東塔の夫れの樣で、原は法輪寺（今郡富郷村大字三井）三重塔のものであつたといふ傳說です

寺務所を出て北へ眞直に行くと、突き當りは、**中門**ですが、此は詳しくお話しないでも、既に**充分御承知**と思ひますから略しますが、觀る時の注意事項丈け擧げておきませう。

一。柱は下から全長の⅓位の所が一番張り出してゐる。

二。大斗に皿斗がある。

三。雲斗・雲肘木が用ひてある。

四。勾欄の形・腰組三ツ斗間の割束。

五。棰が一かわ並び即ち一軒。

六。妻飾は當初のものではない。

等で、門全体としては

七。四間三面。

である事です、此門の兩方から**歩廊**が出てゐるのですが、其内にある二つの建物（即ち金堂と五重塔と）は、申す迄もなく堂の方が塔より正面が廣い、だから歩廊の長さを左右同じにしては右の方が左より多少窮屈になるからでせうが、右即ち東の方を一間（ヒトマ）丈け長くしてあります、今なら岐度左右同じにするのでせう、昔はそんな事はどうでもよかつたので、洵に自由なやり方です。

（第二圖參照）



「都市」

將來の『市加古市』(8)

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Z Y 生譯

第七章　公衆

（一）

民衆を鼓吹して活動せしむるは、驚く可きことである。

道徳的勸說の力此の物は精巧なる科學の表現といつていゝ。

成功した時の快樂の半は、如何にして之れが成就したかを正しく知ることから生ずる。

或人は『靈力（ソール・パワー）』ということを言ふ。例へば頑固な圖躰を事實に於て支配してしまふ聖職者又は宣教使の場合にある樣に、此の靈力を所有する者には或程度に他人を駕馭してしまふことの出來る力がある。他の人はこれを『心勢（サイキカル・フオース）』とも記してゐる。だが重要な點は斯くの如き能力に、如何なる名を附與するかということでなく、他人の眼を開き、勸說者の見地を自己の見地とせしむる之の事實に

ある。

民衆を動かす力は自ら之れ自身を創造することは出來ないのであつて、此の力を引出すには先づ困難な又思考を費さねばならぬ仕事が横はつてゐる。皮相的な智識や俗受けをそゝる方法でもつて永遠的生命を有する何事も創造することは、不可能である。此事實を輕視することが、そも〳〵失敗の理由になるのである。他人を動かさんと欲する者は、先づ自らが斯の點を十分に理解して掛らねばならぬ、唯努力を繰返す丈けではいけない。

こゝに第三の要因(前節に述べた)が必要となるので、之が當然他の要因以上に重要とならねばならぬのである。即ち動かす丈けの價値あるもの——これである。若し斯の物が努力するに足る丈けの價値がないものなれば、旅行に發足す可く漸く準備が了る迄に、旅行計畫は空になつてしまふ、若し鼓吹者が鼓吹する爲に何をなしつゝあるか又鼓吹するに何が必要であるかを自ら理解しないならば、彼は旅立ちて一里塚迄も行かぬ中にいちけてしまふにきまつて居る。

「基本的材料！何故に之れが初歩か」と或人は叫んだ。都市計劃を完就するに、最大の挺として公衆を論ずるが、基本的なものであるといふことに就ては二の理由がある。即ちその第一は合衆國内に於て都市計畫を企てた都市は殆ど二百あるが。その中眞に進歩しつゝあるは十二にも足りぬこと。第二に都市計畫に於て振興法が根本的價値あるものたることが、全然認識されて居らぬとも考へられるし、又左樣でなくとも唯その必要が極めて微に考へられてある丈けであること、これである。

都市計畫に於ける夥しい箇條——殊に專門家のそれが——私の注意を惹く。彼等は斯の問題を博學に取扱ふが、併し如何にして之れを始む可きかに就ては一言も言はぬ。都市計畫と關係ある都市事業を進歩せしむるために、刊行物が發行されてゐるにも拘らず、刊行物は都市計畫を成就せしむる要因たる、振興法的科學を全然無視してゐる。書物も書かれたが之れらも正當なる教育法の必要を代辯もせず、又振興法の必要なることに就ては何等述べてゐない。これ頑固のためか無識のためか淺



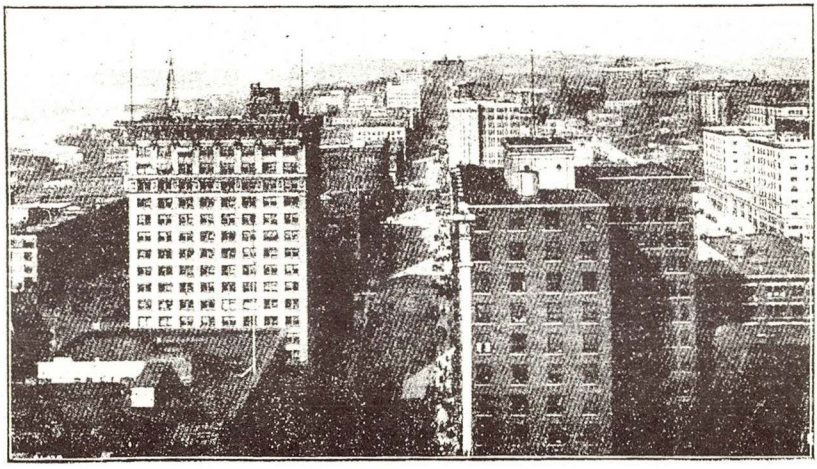
オハイオ州デイトン市・一九一三年の大洪水財産人命の大部分を失ひ之の額パナマ運河の鑿開に匹敵し市俄古市都市計畫案の全額を優に支給し得。



サー・クリストファー・レン・一六六六年の倫敦の大火後同市再建築の案をたてた大建築家・同案は市會にて採用されしも・大火損害激甚のために實行を見ざりき。



デンバー市自一八九八年至一九一八年間に人口百七十八パーセントの増加率を示せり



シヤトル市北米のナポリ・アラスカの關門・市の年齢一九一八年に五卅に達し人口三四八・六三九人。

薄なためか何れかであらう。ことによつては嫉妬のためもあらう。

（二）

編輯者の求めによつて、紐育の有名な雜誌に、斯點に觸れた一文を寄せたこの時敏感で己の職業に精を出して居る一人の人が私に「尠しは斯の問題に觸れておけ」と言ひ、且つ「力一杯目的の貫徹に努めよ」とつけ足した。自分の文章が雜誌に現れたのち、彼は書いてよこした。「此雜誌が都市計畫の問題に就て掲載した文章中、かほどに深く堀りかほど迄の興味を惹起したことはなかつた、此一文章は己の意見に好意をもたすに到るであらう」と。

市俄古都市計畫案が既に公にせられんとする際―市俄古市の各新聞の日曜附錄に圖表せられて居たものと本質的の或物と殆ど同一の最初の公表の後―計畫委員たるチャールス・エイチ・ウエイカー氏は私に言つた「民衆と共に市俄古市の案を樹立せよ。これ企つべき最大の事である」と、自然都市の目的と利益とを進歩せしむるに必要なる宣傳の種類も、計畫案の範圍、市の廣さに幾分の關係がある。若し計畫案が制限せられた斷片的のものならば、敎育的宣傳法も之れに適するものであつてよい。併し若し之れが全市に亘る濶大な案であつたならば―之の中の各分野が全躰の合成的部分を形づくる如き―同計畫案は時々に一歩々々進むる具合にして全完成には多年を要する―左樣いふ場合には又連續的な變化の多い遠大な宣傳が是非必要になる。而して出發の始めからして全計畫を、民衆に知らしておかねばならぬ。こういふことは官權や狹い範圍内の有力者の一片の布告位ではいけない不斷にたゆまず市のあらゆる部分の民衆に該案を呈示せねばならぬ。樣々な紹介の手段が必要である。こういふ風に土地を耕し該案の特別な方面を勸めておいて後に、之の實現のために短期の而して集中した戰爭をやらねばならぬ。

（三）

斯點に於て新聞は最も價値ある仲介者となる。新聞發行者が己の最良の友人なるを忘れざる都市計畫者は幸である。編輯者、報道者、諷刺畫家凡

て他の市民と同樣に普通の人間である。その市の幸福のために、他の人と同じ風に、取扱つてあらねばならぬ。角ばつたものを凡て圓く取扱ふのは賢明な道であり、又確に善き結果を齎らすものである。私は曾て己の市の都市計畫上の努力を非常に誇つてゐる大都市へ講演に行つたことがある。到着後その場所を檢分してから、私は用意の講演の計畫を變更し、普通にしつらへた演壇に上ることを中止して、聽衆の眞中にこれをもつて行き熱心に語つた。而して法外な結果を得た。突然私は叫んだ「どの方面にも斯の計畫を實行してはならぬ。諸君の出發點は正しくないから」と、翌朝同市の主要な、古い、保守的な日刊新聞は一面の四分の三の欄を集會の報道で埋めてゐた。併しこれは重要なことでない。重要の事はあとに起つた。或市民、中には私を招いた人も加つてゐたが、甚しく激してゐた。新聞は余の勸告的の叫を見出しに用ひて居た。或理由によつて都市計畫の群集と同一に見ない右主要な實業家の一群が私に言ふに新聞面に都市計畫の記事が揭載せらるゝ如きは、都市計畫始まつて以來廿年の空を打つ如き努力を重ねて以來、初めての事であると。「オウ若しも貴下が最初に我々の許に來たのであつたならば、我々は貴下がなしたよりも更に困難な者を打ち得るための位置に貴下をおいたであらう」と。

想像せよ。廿年間の都市計畫。而して之れが新聞の一面に之れに關する記事を得ることさへにも値ひしなかつた事を。これは何のためか、答は簡單である、即ち計畫は正しかつたであらうが、之れを遂行する企に根本的に惡い處があつたのだらうと。新聞記者以上に迅速に之の手順の缺陷を發見する者はあり得ない。主要な出來事を取扱ふことより生じた廣い經驗は、彼等を或提案の方法の弱點、皮相、惡しき點を看破する專門家たらしめる。賢明な都市計畫家は、己の限られた經驗のみで活動せず、何を置いても先づ第一に彼等の助言と協力とを求める樣にする。勿論其事業の成否如何は計畫案それ自身に大に關係する—即ち斯の案が有力な專門家によつて實行され、團躰の堅實な實業家に推薦し、市全躰に之の利益を齎らす可き

健全なるものなりや否や、或は一階級一小徒黨の利益のために案出せられたか否かによつて定まるのである。若しも後者であるならば、之れを援助するは全然新聞の使命でない。

計畫案は正しいとして、此の次に問題となるは案の背後にある人物如何である。若しその人物がその名聲その位置を占むるに足る價値ある上、加ふるに、堅實にして智慧あり無私の人であるならば、新聞に近くの道は明に容易である。だが、計畫案が正しゝ、背後の人物が正しいにしても、尙ほ新聞關係者には斯の主張を說きこれを認識せしむるの必要がある。併し彼等から都市計畫者よりも以上の何物かを與へらるゝものと期待するならば大なる誤である。或は時に何物をも與へられぬかもしれぬことを覺悟す可きである。就中新聞關係者は神秘的なものではない。彼等は魔法使でも先見者でもないのだから、彼等の同情も後援も他の市民の之れを獲得すると同樣に、求めてあらねばならぬし又さうして得らるゝものである。

若し都市計畫者が、自身公然と進むに重大な或物をもつて居て、新聞社の當局者に會はうとするならば、又彼が彼等に面會するに便宜を得る迄忍耐して居るならば、そして自分の提案を率直に又自由に「場合はかう」である。—貴下の援助を確に得ることが出來ないならば、自分等は之れを始めるに先だつて中止せねばならぬかも知れぬ。我々共の手は縛せられてしまふ。貴下の援助なくしては何事もすることが出來ぬ」といふ風に述べんと欲するならば、而して彼が之れを眞理と信じて固守するならば、而して彼の計畫が正しく、それを成就すれば公の利益を進むるものであるならば、—私は更に言ふ彼が右の樣な風に、又右の樣な高壇から出發するならば、確に新聞の後援を得られるに相違ない。又此の計畫を進水させんと欲する時に斯の目的を進ましむるに、公衆の狀態が都合好きか否かをも知らねばならぬ。ポプ・ファーデット曰く「時恰も嬰兒がボタンを呑んだり、又臺所で燔肉の鍋が燒けてゐる樣な時には決して婦人に外國傳道に行つて呉れなと、懇求してはならぬ」と。此福音は外國傳道と同樣に、都市計畫に向つ

て正しく當を得たものである。

（四）

公共的企圖を進歩せむる責任を帶べる人々は確に新聞が彼等に贊成する雅量の缺乏して居るのを見て狼狽する。彼等が熱心に二欄位の記事を望むで漸く二段位を出してくれる。大に報道の聲援に努めてくれると確信をもつて期待してゐた、彼の熱心な考察が見事に外れてしまふと、煩悶し失望し不快になる。「なぜ公衆の利益のために集中す可き廿頁又は廿五頁といふ大新聞が、民衆に致命的に關係する處重大なる使命を無視し、全頁を嘔氣を催さしむる樣な誹謗に費やすのだらう」と嘆息し乍ら叫ぶ。斯の點を私自らも怪しみはするが狼狽する樣なこと一時に勿論失望はするが——は止めた。今は經驗未熟であつた時よりも、もつと道理にかなふ樣にふるまふ。而して、私の興味を抱いて居る事業に、實際集中してくれる記事の量を檢査する時に、概して之の寬大な取扱を感謝せずにはおられぬ。私は日刊新聞には簡單に陳述しては居ない。併し普通大都市の新聞は一年中毎日、印刷の場合には夥しい材料中から先づその殆どを取捨てゝしまふのであるから、或價値ある材料もときには沒書箱の中に投ぜられて、取上げられないのは當然のことゝ言はねばならぬ。大新聞は甚しく繁忙で、又魅せらるゝ程に畫策の甚だ夥しいものである。寧ろ實際の新事件を必要ならぬ特別の事項、特色ある話、喜劇の幾群、諷刺畫を餘に多量に印刷して出すを驚くくらいである。不斷に活動し殆ど失敗なく正確に配達して居る合衆國の郵便物の如く、驚く可きは日刊新聞がかくも匆急に材料を集め世界の新聞を印刷するに比較的誤謬の尠いことである。人々は新聞の誤れる引用や「亂暴な確信の公表」と彼等の稱する、嘲笑を聞く。話好きでしかも如何に語り何を語るかてふことに注意しない人々は、いつも、正當な取扱ひを受けないことを不平にする。彼等自身の主我主義、偏見怨恨、私心が左樣いふ取扱を受ける原因になるのである。新聞はかゝる病氣に罹つて居る者に對しては、聞くことは澤山聞いてまね程書いておく。何等かの形に於ける人間の弱點に對する最良の診

斷者新聞である。

新聞と交渉ある十一年間の公共事業生活の間、私は虐待をする様な新聞の不都合を一回も見出さなかつた、却つて眞に價値ある主要な敎育上の仲介者として新聞に對する深い尊敬をもつてゐる。面倒の生ずる原因は各人が自らの仕事にのみ集中して、他人の仕事を諒解しない點にある。自分の領分丈けが認識せらるゝならば、外のことはだうでもよいと思ふて居る者もある。新聞は毎日萬人に對して新事件を印刷するのが役目である。一般の嗜好に投ずると信ずる特色ある記事や、寄書を印刷するのが發行者の目的である。斯點に於て新聞は何程か活動寫眞に似て居る、正確な見物出席者は眞誠の戲曲的作品を求めて來て居る者に對して、觸れもせぬスコットランド人の舞踏抔を見せるのだらうなどゝ怪しむ。併しこういふのは、活動寫眞に來て居る者は小供をも含む全階級の人々であることを忘れた言葉である。一人の人には觸れぬ記事でも、他の人には觸れるのである。

或都市では地方緊要の事柄に對して新聞の心からの協力を得て居ないのは非常に不幸なことである。反對はしないにしても援助を與へない。これ他の都市に於ける都市事業指導者からしばゝ聞く不滿の聲である。調査して見ると斯の缺點は必ずしも新聞側ばかしにはなく、賢明に新聞と協力をすることをしない指導者側にあることを發見する。

市俄古市の都市事業の最大の財産は日刊新聞である。新聞は擧つてバルチザンたると非バルチザンたるとを問はず一市俄古市に幸福を齎らす事業に對して、之の聲をあげ混聲して居る。彼等は都市の進歩に於ける第一の感化力である。

（五）

市俄古市都市計畫委員會の議長が「民衆と共に計畫案を樹立せよ」といつた時「最も良く進歩せしむるために如何なる出發をなす可きか」てふ頗しい問題が起つた。委員會の財源には制限がある明に大なる財團を起すことが緊要であらう。商業クラブ員（全部で百名）に懇へたのが第一歩であつた。殆ど一二週間の間に此等の公共的精神の人々

によつて殆ど十萬弗が寄附せられ、而して其創むる計畫を、彼等の財力をもつて後援しようと申出た。既に市の重だてる實業家の此小團躰から一部分の事業、一寸した專門の仕事、市俄古都市計畫案の報告發行等の費用に、八萬五千圓の寄附をうけた。報告は美しいオクタヴオ（一葉八折版）の冊子であつて—印刷組合職工の最も美事なもの、見本であつて、百六十四頁に百卅四葉の圖形地圖寫眞、又有名なる藝術家ジューレス・グェリンの描いた十五葉の全頁中六畫の彩色ある繪畫を含んで居る。豐富なる色彩の一頁大の寫生圖外に、彩色ある小說明圖、百五十四項のインデッキスもある。最も撰擇せる言語を專門的の用語をもつて書かれた威儀あり皷吹的な此書物は、定まつた勸告といふよりも寧ろ一箇の提案である、發行せらるゝや直ちに全世界の專門家から、曾つて產出せられた都市計畫案中の最も美はしく包括的のものといふ讃辭を受けた。

同時にこの如き立派な書物　國民の最良の文庫中へ又市制文書に重要な貢献はしてはゐるが—一般の宣傳事業には全然不適當である。定價も非賣品同樣で—一冊廿五弗—印刷したのも二千部に過ぬ。市俄古市民への贈物として市當局に呈した事と研究と振興とを托する市俄古都市計畫委員會の任命に及ぶ間の一年間以上の中間時代、全國の雜誌や新聞の大部分が市俄古都市計畫案の報告を抽出して發行した。市俄古市の日刊新聞には、之れらが一頁、時には二頁の特色ある話となつて附錄にせられた。

さうこうする間に反動が起つた。無闇に此の大計畫を話す、新聞にはきまぐれにしか書かれなくなつた、此一般的思想に反對する煽動者は、己等の說に人をして耳を傾けしむる力をもつ樣になつた。該案に幾度も嘲笑が向けられた。該案の最もユートピア的方面—一代の中に實現し之の福利を發揮せんとする理想—遠き將來にのみ成就され得る改善—が特に拾ひ上げて攻擊せられた。要するに不平と誤想との鳴動が聞こゆる樣になつて、該案は現在の恐る可き市の缺陷と未來の改良とゝもに—粉碎され破壞と誤解の岩に衝突せすとする樣

な危險に瀕してゐた。

かゝる類の危險には凡ての價値ある計畫案が初めにいつも遭遇するのである。凡ての市民に福利を齎す可き眞面目にして健全なるものは、常にかゝる嵐の中から殘存して行く定めをもつてゐるものである。市俄古都市計畫案も殘存した。

本案は公に採用されてゐる「市俄古市の都市計畫案」てふ實際的の名で知らるゝに到つた前には「美はしき市俄古市」てふ名で知られて居た。「美はしき市俄古市」なる綽名廣く有名となり、同時に多大の誤解を生んだ。委員會にて征服してある可き困難に一層の困難を加へた。案の反對煽動者は早速に「美しき」なる言葉に急いで「美はしき丈けで實際的でない」といふ彼等自身がこしらへた案によつて鋭い批評の駿馬をおどらして來た。不適當な名を選んだために招く誤解が如何に大であるか、それは驚くにたゐたものである。常に疑と混亂と錯誤に終る。全市に廣る憫然な市制の不秩序に面して公衆の心に起る計畫案の理想と實際的進歩の間に横はる表面の空隙を指をもつて計るは唯神の攝理がなし能ふのみである。この點を知つて敵は嘲笑的に該案を「無益な夢」といひ「書餅的計畫案」といひ「舌の上の案」と稱へる。

委員會は斯の點から其事業を始めねばならぬ。賢明な斷定をする、卽ち民衆といふものは先づ出發點に市の最惡の部分を先づ一つ改善して見せてある可きである。要部の最も充血した部分を横斷して居る十二市街を其手始めに選んだ。此一區域の大道は廣大な扇形の線路工場地域を通じて走り其商業地住宅地に於て混成せる外國人々口に接して居る。併し是れは市俄古市の最も重要な市街であり、市俄古市都市計畫の戰略上最大の意義ある市街の一つであるとはいへど、市の遠い部分に居住する民衆は其存在を殆ど知らず、其重要さを余り認めて居ない。併し同街は遠からず花滿開の時代に遭遇する定めをもつて居る。計畫委員會が全市に亘る敎育的事業を始めてより一年を經ざる間に煽動者が全盛の時代であつた頃、此改善事業の費用の市の負擔を支拂ふ爲に、公債を發行する布告は、全民衆の市民的決議投票によつて、二萬一

千票の大多數をもつて通過した。混沌の狀態から此秩序の生じたのは、完備せる計畫と遺漏なき公衆に對する戰爭の結果に外ならぬ。此方面に働かした第一のものは、一小冊子である。百六十五冊發行されて一萬八千弗の價格で配布した。市の各財産家並に一ケ月廿五弗の賃貸を支拂へる者に對して配布された。此發行の基本になつたものは商業クラブが發行したデルユックス上製の市俄古都市計畫案書であつた。この親本の中にある圖表も小本の中に收めてある。『市俄古市最大の收得—公案』といふ題名であつた。その九十三頁—市生活の各方面を代表する三百廿八名の委員會員の—單純な平易な日用語でもつて、全民衆に市俄古都市計畫案の話を記して居るのである。先づ第一に市俄古市は全市民の所有である事と、此場合公共財産が四百二千萬弗であることを示し、市俄古市の幸福に關し、市民の財政的個人的責任を喚起する樣、普通人に印象を與へる點を狙つた。而して次には市俄古市都市計畫案の創造を語り、要點々々一章より一章、全公民に對し該案の健全と智慧あるとを憩へて行つた。確なる一擊は影響を生んだ該書の記述が一欄、市の新聞に現れた。かくして第二の大にして價値ある公衆の心を廣く獲得した。新聞の注意は該書の勢力を一層大ならしめ配布範圍を擴大した。

『市俄古市の最大の收得』は文明世界の凡ての要求に從つて發送せられた。十二市街改善の覺醒によつて、直ちに他の計畫案が續いて起つた、而して公衆に對する戰爭がそれと相並んで若くは之れに先だつて起つて來たのである。（つゞく）

名を去る者は
憂ひ無し
—蕉子—

都市計畫史上の最初の一つの出來事

東京にて會員　大川多磨夫（假名）

郊郎さん。

大東京市都市計畫の第一類線として、東京驛の東口から京橋區龜島橋に通ずる幅員廿八間の道路即ち槇町線問題に於て、京橋區民と日本橋區民との關係者が、各々自分達に好都合の結果を得る爲めに猛烈なる運動を起し、遂には明治神宮に委員一同が業々しく祈願を籠めに出掛けるといふやうな騒ぎが、大分此頃來の新聞を賑はした事は御存じで御座いませう。日本の首都たる東京に於て、しかも都市計畫なるもの、實行に、第一歩を踏み出そうとした、云はゞ大切な大切な事業の出鼻に起き上つて來た一つの事件として私共は多少考へて見ねばならぬのではありますまいか。私は此際何れが悪るいといふやうなことは申し度くはありません。たゞ事件の顛末を繰返して稍系統的にお知らせして、お互に現在都市生活をしてゐる人々の計畫其物に對する觀念と云ふやうなものを研究して見たいので御座います。

郊郎さん

抑々此問題が東京市參事會の議論に上つたのは大正八年十一月の事でありまして、當時の決定は京橋區久安橋通りの北側を取拂つて、東京驛の東口から龜島橋に出る新道路を造る事になつたのであります。即ち原案は『日本橋區上槇町廿一番地先から京橋區松屋町一丁目を貫き水谷町三番地に於て一等大路第三類線を横切り龜島川新架橋に到る幅員廿八間の線』なのでした。

處が此以前に日本橋の北槇町に約七百坪の土地を買收した日米信託會社といふのがありますが、此參事會の決定案が實施されることゝなれば、折

角買收した右の土地を取られる事となるので、此事を免れる一方又更に右の土地の裏側を新設計畫道路に面接させやうとの野心を起して、卽ち其裏通りに當る舊八重洲橋通りの南側（京橋と日本橋の境界線道路）なる京橋側を取拂つて新道路を作る樣に當局に運動し出したのだ——とまあ京橋側の有志の話です。

郵郊さん。

これでは只一會社の利損問題のやうですけれども、もし此運動が成功すれば、八重洲橋の北側通り、約り日本橋側は少しも犧牲を拂はなくとも宜しくなる許りか、當然新設道路に面接し得るのですから、此沿道の日本橋側有志はさあ忽ちにして會社と提携して大々的の運動を始めたので御座います。

斯うなつては、如何して京橋側が默つてゐませう。原案が覆るやうな事があつては、第一當局の威信が無く成つて、公安を害するといふ次第で、腹の底では要するに利損の打算問題なのですが、原案が原案だけに、決して是を覆すやうなとの無いやうにと、堂々たる旗印を立てゝ當局へ運動を始めました。一方は新しい原案と異つた案を立てゝ迫り、一方は原案を固守する事を主張してゐるものですが、新しいものは常に必ず良い事でないと同時に、古いものもまた常に必ず良い事ではないのですから、問題はいよ／＼面白くなつて來たやうに私共には思はれました。

郊郵さん。

大正九年二月に成つて御承知のやうに都市計畫問題は內務省の都市計畫課に移つて、大きな計畫に取掛かり、東京驛東口問題は關係各町內に就いて、充分なる取調を行ひ、審議に審議を繰返した結果、約六箇月を費して、八月六日に開いた常務委員會は、今度取拂ひ起點となつてゐる東京驛東口開設の將來に於ける雜踏交通の頻繁と、取扱ひ起點である處の龜島橋が、將來東京灣築港の起點となることなどの關係から、更に東京市參事會決定案を改めて「東京驛新設東口の中心點から楓の河岸卽ち本材木河岸迄は日本橋側を收用し、河岸から龜島河岸迄は京橋區內を收用して幅員假りに

最少限度十八間の新道を設けること」と決定しました。只道路幅員については隨分區々の議論も出たとの事ですがとにかく十八間と定めたのであるそうで御座います。

郊郎さん。

さあ斯うなると、日本橋はまたも大層不利益な事になりました。日米信託が運動を始めた時にその尻馬に乘つた人達は、流石に狼狽したと見えて京橋のある有志の話によると、實地と相違した圖面などを作つて當局委員に差出して頻りに陳情したと申します。

有志がこうした運動をやつてゐる一方では、また更に日米信託が、事實に於て、市參事會案の久安橋通り北側取扱ひに反對して、成功したやうな結果になつてゐるに拘らず、目下社屋の建築中である買收地の裏手を新設の大道路に面接させやうといふので、日本橋有志に、此度は此方から加擔して、其中央なる京橋側取拂の運動を始めたとは一般の評判です。京橋側は茲でまた一騒ぎ湧き立つて、圖面の良い加減であることや、夫々敵手の魂膽を列擧して二度目の原案維持運動を繰返しました。

郊郎さん。

京橋側の原案維持主張が勝つたのが、日本橋側が負けたのか、其處のところは存じませんけれども、兎に角、去る十一月六日の常務委員會では、例の八月六日に決定した原案を確立する事と成り且つ幅員は廿八間と確定したので御座いました。

實を申しますと、日本橋側は勿論京橋側も、八月の原案決定以來、互に隨分苦しい目をして此九十日間に渉る運動を續けたのですが、こう決まると、日本橋側では、此後に於ける示威の爲め、同十三日には町内の人達を集め、自動車に分乘して東京府廳やら市役所やらに押掛け、一生懸命の請託を行ひ、更に翌十四日には人數を增して旗差物賑々しく主張宣傳ビラを撒き散らし、京橋側の有志の軒先には山程も投込んだと申します。

更に都市計畫地方委員會當日の十五日は大擧して、市廳及び勿論內務省に寄せ集り物々しい運動振りは、まだ耳新しい事ですから詳しくは申上げ

ませんが、此十五日の地方委員會は本問題と云はず全議題に對して愼重研究するといふ理由で委員附託と成りました。

郊邨さん。

この委員附託に就ては實は色々面白い挿話があつたので御座います。私共は、もし委員附託になれば結局日本橋側の勝利と成るであらふといふやうな噂をしてゐました。京橋側では卽決で原案通りに確定されることを望みましたが日本橋側の運動は却々熱心で、此日に卽決を主張した一委員の實話によりますと、「到底も運動員がうるさくてやり切れない、朝と云はず夜中と云はず違慮會釋もなくやつて來る上に、所謂かれこれ運動屋迄が立交つて滔々とやるので、此上委員附託にでもなれば、彌が上にも運動するから我々は取殺されて仕舞ひ、家族は皆んな睡眠不足で神經衰弱になるから」といふやうな事を申してゐました。

委員附託が、此際に日本橋側の唯一の勝利の手段であらふと、私共無關係者が思うてゐたやうに當面の人達は極力それに力を注ぎ、ある市會方面から出てゐる委員達の中誰と誰は委員附託說を持出すといふやうな事は前日から、多少事情の解つてゐる人達の間には話されてゐました。

郊邨さん。

私はこゝで、受身の位地にある京橋側と、猛烈な運動をしてゐる日本橋側とが、互に原案に對して主張した要點をお知らせしてあなたの考にも供する義務があるやうに感じます。

◆日本橋側としての主張

1、飽迄も原案を實施するとすれば、それは都市破壞計畫である。

2、東京驛中央の高塔から北に偏した日本橋側を取れば、外濠に架ける橋は當然斜の通ひとなり正面に仰がれないから都市の美觀を損ねること夥しい。

3、右高塔は陛下の御昇降遊ばさるゝ處であるからこれを眞正面に仰ぐのは卽ち京橋である

4、京橋側は川流の跡で宏大なる建築物は永く維持し得ないから道路とするのが一番得策である。

5、道路廿八間は廣過ぎる。

6、十八間でも交通に支障はない、廿八間は暴論である。

7、十八間を妥當とすれば京橋側同殘地利用上適當。

8、取拂によつて苦痛を受ける人數は日本橋側が多い。

9日本橋は總べて四五割は高價であるから京橋側買收費は五百萬圓、日本橋側は八百萬圓、此二百萬圓の差額を負擔する市民は大苦痛である。

郊郎さん。

これに對する京橋側の意見が却々面白いものなので御座います。

1、都市破壞計畫などいふものは自分勝手な暴論を通さんとする血迷ひ言で內務省當局は勿論委員諸氏を侮辱する非禮の言である。

2、原案を實施すれば外濠に架ける橋の袂から正面に見得る許りでなく將來東口設備が完成すれば其建築物の美觀によつて高塔は問題ではない。

3、東京驛との關係は既に原案に於て種々調査しあり、斯る一路線問題に皇室を云々するが如きは恐懼措く能はざる所である。

4、川流の跡でも何んでも現在宏壯な建築物が完全であり、殊に日米信託の如き五六層の高樓を普請中である事が論より證據ではないか

5、廿八間は決して廣くはない。理由は次の通りである。

(一) 日本橋京橋大通りは交通上事故頻出の爲め荷車の類は一切通行を禁じ左右仲通を以て荷車副道とした、大通り十五間、仲通り各六間合計廿七間である。原案はこれに一間を加へたもので一層理想的であると云はねばならぬ。

(二) 原案道路の歩道左右五間は廣過ぎるといふものもあるが、銀座大通りの歩道は各約四間、日本橋大通りのものは約三間である上に、街燈街路樹の配置があり、雨天は殊に傘が錯雜して困り、祭日などは到底歩道だけでは通り切れぬ、これを見たら何人も五間の理想的な事には異論がない筈である。

(三) 大阪梅田驛を起點とした主線關門道路でさへ廿四間ではないか。

(四) 東京驛西口即ち正面道路の四十間に順應する東口道路

として二十八間は決して廣くはない。

（五）繁華な中心地に二十八間の道路を設ける事は一寸見たところ非常な損失であるやうに思ふが、今は土地の利用は平面から立體に移つてゐるのであるから、少し許りの土地を割くも五層六層の建物を以て却つてこれを廣濶に利用することが出來るのである。特に此幅員は地下設備に資するに甚大の便利がある。

（六）上野驛が田端に移轉した後では、中央驛と將來東京灣築港完成の上は海外出入の大玄關とを連絡する關門道路として且つ帝都の商業中心區域を貫通する首腦道路として二十八間は決して廣くはないのである。

6、十八間說の如きは言語に絶した愚論である

7、廿八間とすれば日本橋側を取る方は便利で經濟的である。

8、却つて京橋側の方が多い。

9、日本橋が四五割高價だといふ說は誤つてゐる。從つて二百萬圓などいふ差額を生ずる譯が無い。

郊郎さん。

とにかく斯うして並べて文字に現して見ると、子供の喧嘩見たやうな感じが致しはされませんか私は何んだかおかしくて堪らないやうな心地がしてならないのです。

お互に甘い事を云つて居ります。兩方の人達と話して見ても、成る程と思ふやうな事許りを云つてゐます。ですから私は此際孰れが是、孰れが非とも申しませんが、原案によると京橋と日本橋兩區を公平に削除する事となるやうです、都市計畫の原則とでも云ふべき直線の道路を得る利益もあり、且つ道路の起點も、最も東京驛に近く且つ同驛の東口空地は、北の方に擴大してゐますから原案によるときは東口の諸設備も完全となり、東京驛中心から直角に見る時は原案の起點中心に符合するやうで御座います。其上幅員廿八間として日本橋側の一廓を收用するときは殘地整理の必要もありませんし、從つて地帶收用の繁雜も無く、單に廿間の一廓を取扱ふのみで左右道路を利用して廿八間を得る事になりませうから、此方が素人の考としては先づまあ良いやうに思はれます。

郊郎さん。

此問題は隨分永い間こた〳〵してゐましたが愈々十二月十一日に內務省內の、東京地方委員會の

市部特別委員會で愼重審議の結果は、日本橋が必死の運動をした事が何れも水泡に歸したのはお氣の毒でしたが、遂に原案通り槇町線道路幅員廿八間と決定し日本橋區上槇町廿一番地を起點として龜島橋に到るものと成りました。只こゝで條件として原案廿八間の兩側を適當に地帶收用するといふ事が附帶されたのでありました。

これによりて當然日本橋側が取られる上に更に地帶收用で、京橋區より以上に其方が取られはしまいかと申してゐたやうでした。先づまあ良かれ惡しかれ斯う定まれば物事一段落と申す譯です。附帶條件に就て改めて內務省で成案してから總會で決める事に成りますが、此日朝から詰めかけてゐた日本橋側の運動者は非常に色めき立つて歸つて行つたといふ事が新聞に見ゐてゐましたから、最後の土壇場たる地帶收用でまた如何なります事やら、兎に角面白いぢやありませんか。

大東京市に起つた都市計畫史上の一つの記憶すべき出來事として、遙かにあなたの御手許へメモ代りに報告の一文を認めたので御座います。

新しい試みの一とつ

美しい光りに輝くロスアンヂエルスに住む某が最近新築されたコロニアル風の家を買つたのでしたが其の庭にはガレーヂへ通じる車道も又玄關へ導く歩道らしい歩道もなく家の前面は只一面の運動場のやうに廣々としてゐたのでした買主と云ふのは大した富豪でもない上投機で幾萬の損失をしてもう此の上高い勞銀や材料を以て其等の道を設けることは可成りの苦痛らしかつたが到底そのまゝでは濟まされず種々と苦心し窮した揚句全く新らしい歩道兼車道といふやうな工夫を經濟上から案出したのでした間もなく寫眞に見るやうな蹴上の底いそして踏面の二尺五寸程もある階段が兩側へ等分された弛い傾斜の車道に繰取られて完成せられました材料は凡てセメントのブロックで階段を上りつめた處からは狹い歩道が右に別れてポーチに終つてゐます。

簡單に而も實用經濟の三つを具備した此の新案は此家の主人の得意の一つださうです



「住宅」

住宅研究（一）

葛野建築事務所主
會員 建築士 工學士 葛野壯一郎

住宅研究の今日最緊要で有ることは改めて論ずる迄も無いが、一口に住宅と云つても是は餘程弘汎な問題で有つて、單に其一部分を述ぶるとしても多數の紙面を要することであるから、況んや全体に通じて述ぶることは到底此小編のよくするところでは無い。仍で實は什ういふ點を述べたら參考になるで有らうかと種々考へたが、一般的の事であるならば就いて觀る可き出版物も相應にあり讀者は最早充分研究になつて居る事と思ふ。只私は、是を實際問題として私の氣付いた點や經驗した事、或は特に參考となると考へた諸大家の說等を掻い摘むで述ぶることゝしよう。

仍で先づ研究の荒筋卽ちプログラムだけを決めて置かねばならぬ。家を建つることは一番先きに敷地が大切なる故に、先づ住宅建築より觀察したる「土地」といふ事に關して述べよう。次には住宅としての理想、卽ち所謂理想的住宅の條件や要項に就て述べ、第三に現代住宅として、一般住宅と

いふ標準から如何なるものが適當するで有らうか勿論一律に云ふことは難しいが、世界的と云へば大邊問題が大きく聞ゆるけれど、とにかく廣く其標準規範となる可き要領を述べ、尙其上紙面に餘裕があるならば、社會的に觀たる住宅或は和風住宅の改良如何と云つた樣な事にまで論及しようと思ふ。先づ

第壹　敷地の問題

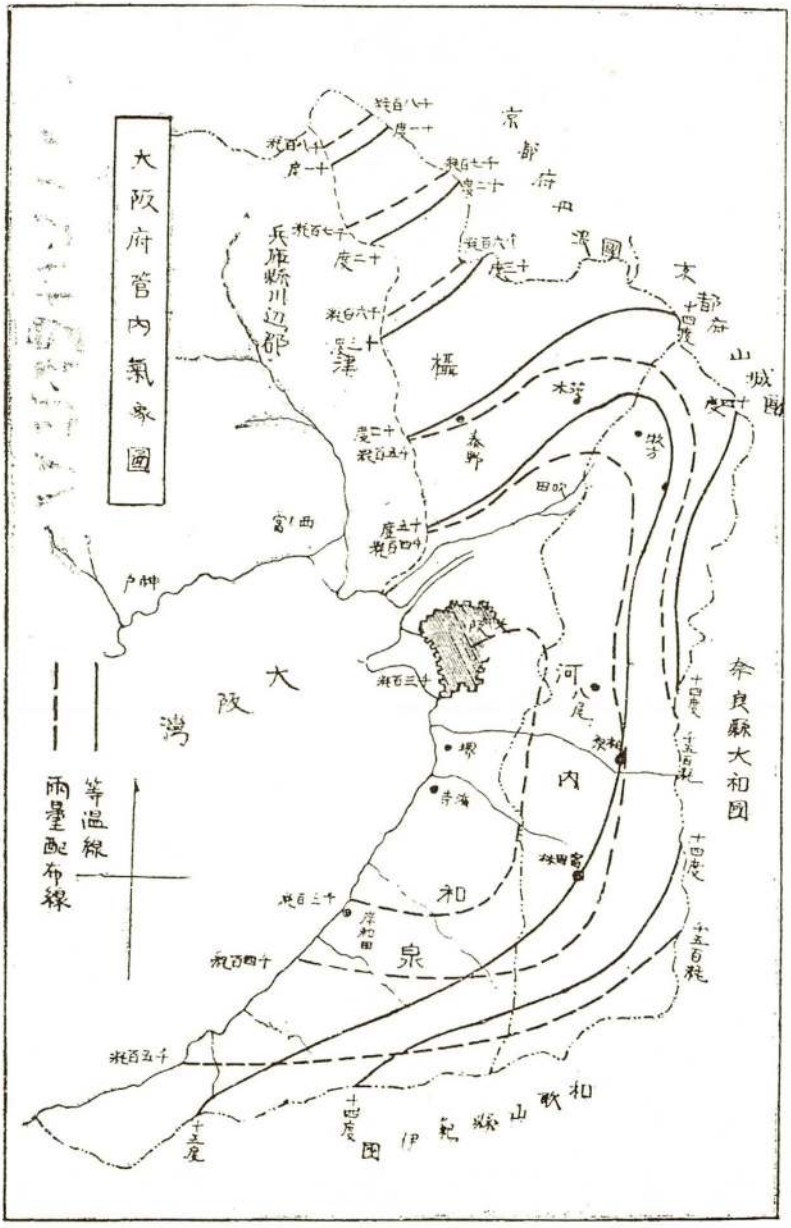
であるが、是は讀者の多數が常に經驗せらるゝ如く、建築設計家が住宅の設計を依囑せらるゝに方り、普通には其敷地の選定に就て相談を受くるといふことは殆んど稀な事柄で有る。敷地を何れに決定す可きやといふ最初の問題から相談を受けるならば、實に結構であるが、最普通の場合として設計の依頼を受くる時には最早其敷地は決定した後であつて如何とも出來ない。是は必ずしも日本だけでは無い、歐米でも其んな例が多いと觀へて同樣の事を建築家がコボして居る。此樣な事情から一般建築家が、兎角敷地に對する研究を怠りがちで、土地に對する完全な了解の無いために、建物と環境の不調和は勿論、氣候や地形から來る色々な障害も、多くは後から氣が付くと云つた場合最多いので有る。

全体住宅の敷地としては、如何樣なものが可いのか、其條件如何といふ事を研究する必要がある是れに關して私はバニスタア・エフ・フレッチャー氏が、建築衛生に關する其著サニタリー・サイエンス・アズ・アップライド・ツー・ビルデングスに述べて居る土地選定の條項を、一例としてあげようと思ふ。フレッチャー氏は讀者の識らるゝ如く、今は故人であるが、ロンドン・キングス・コレッヂの建築構造學の敎授で、また比較建築史の著者として知名の建築家である。敷地選定の條件として氏は八箇條を擧げて居るが、是を順次詳述することにせう。

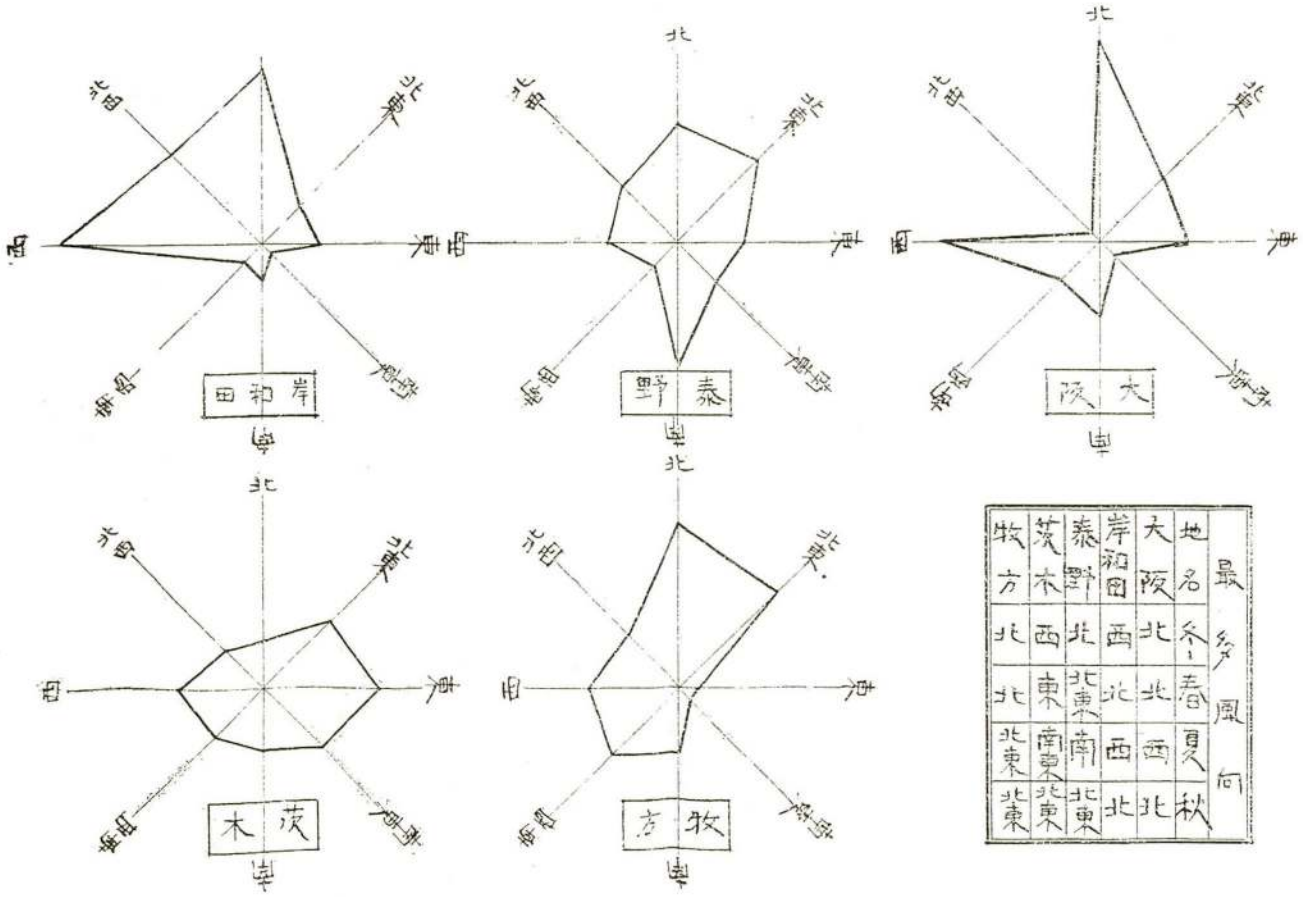
第一條件　其土地の氣候が健康に適せねばならぬ事

住宅建築の樣式や構造に樣々變化を與へる因子の最主なるものは其土地の氣候である。溫度濕度

第壹圖



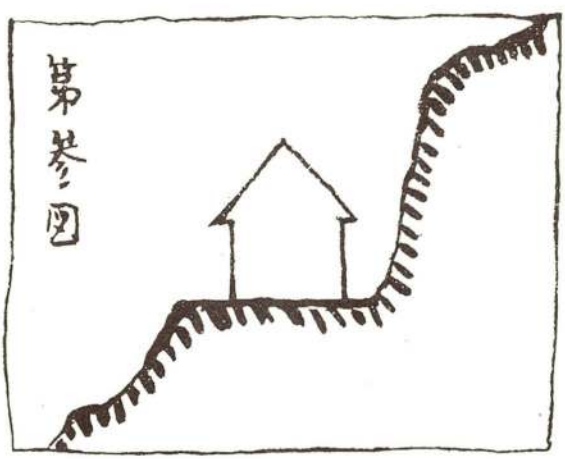
第二圖　大阪府管内風向



地名	最多風向 冬	春	夏	秋
大阪	北	北	西	北
岸和田	西	北	西	北
泰野	北	北東	南	北東
茨木	西	東	南東	北東
牧方	北	北	北東	北東

の高低、雨量の多寡、風位風力の狀態等氣象に關する其土地の模樣を明らかにしないで建築に着手する事は、非常な冒險である許で無く、それが日夕居住者の健康と重大の關係を有つて居る事は論ずる迄も無い。大阪府下について觀ても大阪府管內の地形は、狹いところでは有るが、南北に延びて居るだけ、氣象の上からは大分の相違がある。圖に示すが如く、大阪市よりは寧ろ堺市が中心となつて、地形相應の變化が認められる。平均濕度の如きも、土地によりて攝氏四、五度の相違があり、雨量の如きも場所によつては、千三百粍から千八百粍を上下して居る。大正七年の測候所年報によると、濕度の如きも、岸和田の六十四を最低とし、妙見山の八十九を最高とし、風位風力に就ても、場所により、著しき相異がある、一般に北風西風或は北東風が四季を通じて多いのであるが三島郡の一部の如きは殊に南風の多いといふ樣な例が有る、地形と密接の關係のある問題であるから、其土地により四季の狀況を充分調べて觀る事が大切である。次に

第二條件　土質の乾燥せる事



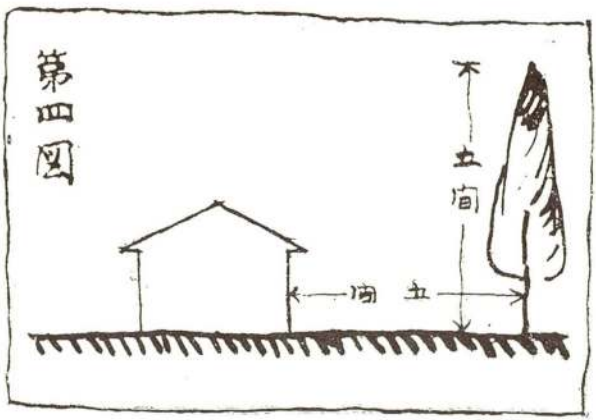
であるが、是れは居住者の健康に種々な影響を與へるのみならず、家屋構造その物にも及ぼす結果は重大である。常に地盤の排水が良くて燥いた土地を要するので土地が常に濕潤性を帶び、濕氣の多いといふ事が居住者の健康狀態に及ぼす影響は實に著しいものがある。由來俗に『濕氣』の多いといふ事は、地水卽ちアンダーグラウンド・ウオターの深淺により、其蒸發の多少に因由する。卽ち地水の

深いところは其蒸發が少ないが、反對に淺いところ、少しく堀下ぐれば水が出る樣な土地は、地水の蒸發が多く、地表を冷却して健康上に種々の障害を來す事になるのである。粘土層の如きは雨水が容易に地底に滲み込まないため、自然濕氣が去らない事になる。此濕氣の多い事は、呼吸器に關する疾患、リユマチス、其他神經系の各症に至大な關係を持つといふ事である。濕氣の少ないためには、多孔質の砂層或は砂利層が理想的だが、是とても其層が淺くて、其下部に不滲透性の粘土層がある場合の如きは結果餘り面白くない事になる卽ち少なくとも五尺以上の厚さがなくてはならないので有る。沼地の最不健康地であることは、讀者の既に識らるゝ通りで、マラリヤ其他類似の疾患が多く、殊に夏季不快の臭氣は勿論、蚊が群生するため、其病毒を風につれて八方に傳播する虞がある。市の接續町村等に往々實見せらるゝ處の不潔な塵芥等で盛土したところの、良くないことは云ふ迄も無い。

石灰質の土地は割合に良い。しかし粘土を含有し不滲透性を有つところは、濕氣が多く冷ねて良くない。砂或は砂利層で多少の粘土を含んだところならば、大体理想的と申して可からうと思ふ。要するに地下水の水準が常に一定の深さにあるといふ事が必要なので有るが、止むを得ず割合に地水の淺いところ、例令ば大阪でも天下茶屋とか住吉附近、又は市の接續地の低いところの如きを選定する場合、特別の方法を以て地下水を排除して其水準を一定の深さに下げるか、或は適當な土砂を以つて一定の高さに盛土するかといふ事が必要となつて來る。地下水の排除方法としては、日本では餘りやらないが、地下一定の深さ、卽ち三呎六吋乃至五呎位のところに、土管を適當の距離、卽ち三呎六吋內外の間隔に並列埋沒して、自然的に或は動力を利用して排水するのであるが、ドーグラス・ガルトン氏の說によると、斯の如くにして少なくとも、華民の六七度は、排水のない附近の地よりも濕度を高める事が出來るといふ事である。次は

第三條件　適當な傾斜を有し排水に便利なる事

であるが、其傾斜面があまりに急勾配である事は欲しない。急勾配の地面では、圖に示すが如く、自然建物の周圍一部の空氣の停滯する場所、即ちスタグチーション・オフ・エアを生じて衛生上面白からざる結果を來す。其實例としてはバラクラヴアに於ける兵舍の例が有る。それは急勾配の凹地に於ける兵舍と、山上の風通しのよい兵舍に於けるものと、そこに宿泊する兵士の健康狀態に、非常な相違が有つたといふ事である。衛生上の問題を



別にしても、單なる展望が宜いと云つた様な理由から、高い急勾配の山の腹等に家を建てる場合も少くないが、出入の不便なる事は勿論、土質、例へば花崗岩質の砂地の如きでは、豪雨の後には一時に上から土砂を流下し、豫期しない面倒があつたり、經濟上からしても隨分と無駄な工費を要する場合が多いのである。併し適當な傾斜といふ事は是非欲しい。

第四條件　風通しの宜い事

何の方向からでも、自然に風が吹き通すことを必要とする。例令ば北風だけはよく通るが西風は遮られるといふ様な處はいけない。何れの方向からの風でも、常によく通ずる様な土地が理想的である。建築は獨り其内部各室の通風が大切であるのみならず、其敷地そのものがまた風通しのよいといふ事を要する。こゝに注意を要するのは、其附近に濕氣の多い沼とか澤とか、排水路の様な不潔な場所があつて、何時もその方向から危險な臭氣や瓦斯を吹きつける様な位置を避ける事である其土地に於て一年中最多い風向に注意して、是等

不淨の地とは適當な隔間を置くことは勿論、場合によつては植樹等の方法で、其向から來る風を避ける事が必要になつて來る。また風通しのよいといふ事は必要ではあるが、あまりに強く風の吹きつける、例令ば丘の頂上の如き位置は、種々な構造上の不利益不便と、居住の不快を招く恐れがあるから、其等の點にも注意の要がある。

第五條件　適當な樹木を有する事

風通は必要だが、全くむき出しのはだかの地面はよくないとするのである。フレッチャー氏は、北及び東方に適當な森の有る土地が宜いと云つて居るが、併し是れば英吉利の話しで、直ちに、吾々の例とはならない。また森や植込が有るにしても、空氣の停滯を起さないだけの間隔餘地を存する必要がある。此標準として、凡て樹木と建物との間隔は、少なくとも其樹の高さ以上を離す事を要するので、例令ば高さ五間の樹が有るならば圖の如く、建物はそれから五間以上の水平距離を置いて配置するのが良いのである。また非常に塵の多い往來に面した土地の如き、やはり塵よけに植込みを設けて可なり有効なことがある。其他樹木は氣候を調節する上に於て、卽ち、冬暖く夏冷しくするために、是を適當に配布することは、住宅建築には大切の事に屬するので、土質に應じて地味に適する樹木を、其地形風土に適應する樣、細心な用意を以て配布することが必要で有る。

第六條件　健康に關する各種統計の調査をする事

嘗つて居住した事のない、全く新らしき土地に住宅地を選定する場合には、最初に其地方に屬する衛生健康に關する各種の統計を、充分に研究して置く必要がある。不幸にして我邦では市街地は勿論、地方に行くと、左樣云つた材料の據る可きものは殆んど無い、自然長く居住して居る人から、事情を聽き取る位のことになるのであるが、人として一家のために大切な居住地を選定するのであるから、是れ位の用意は勿論なければならぬのである。

第七條件　附近に不快な場所の無い事

不快な場所としてフレッチャー氏は、下水處置

圃、石鹸工場、煉瓦窯、製革場、セメント工場、石灰窯、屠場、塵芥溜、古池、墓地を擧げて居る是等は單に眼で觀て不快を感せしめる許りで無く衞生上種々な危害がある。ドクトル・ホワイトレッヂ氏の說では、大きな墓地の附近は非常に居住者の病氣にかゝる事だの、其死亡率が高い、夫は墓地から發生する炭酸瓦斯の過剩に起因すると云つて居る、何れにせよ墓地の附近等は決して望ましいものでは無い。此條項に就ては最近發布施行の市街地建築物法施行令にも住居地域内に建築し得ざる建物として、常時十五人以上の職工を使用する工場、常時使用する原動機馬力數の合計二を超過する工場、汽罐を使用する工場（但し行政官廳居住の安寧を害する虞なしと認むるもの、又は公益上已むを得ずと認むるものを除く）、五臺以上の自動車を常時收容する車庫、劇場、活動寫眞館寄席又は觀物場、待合又は貸座敷、倉庫業を營む倉庫、火葬場、屠場、塵埃燒却場、其他行政官廳住居の安寧を害する虞ありと認め命令を以て指定するものを禁じて居る。尙フレッチャー氏は其他にも公共的建物例へば、學校の如きも、デリケートな居住者には、神經に惡影響を及ぼす事があるから避けるが可いとも說いて居る。

第八條件　完全な下水裝置を有する事

市街地でも未だ完全な下水裝置を有つて居らないのでるから、況んや市外或は郊外地の如き、我邦では到底望み得ない事であるが、兎に角、附近の下水の狀態を充分に調べて、完全に排水し得る土地を選ばねばならぬ。完全なる下水裝置といふ事は、要するに近代的衞生工學上の原則により充分な勾配と、汚氣の通風裝置を有し、逆流、停滯其他の危險のない事である。建築技師は當初土地選定の時から、其下水處分に於て、豫め腹案を作つて置くだけの用意が必要で有る。（未完）

新しき世界の見ゆといふことの
言葉ばかりもかなしきものを

✣ 新聞記者の見たる名士の邸宅 (二)

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

═ 後藤男新邸 ═

一　久し振りて借家住ひから新しい木の香のする家へ

長い間滿鐵の官舍に借家住ひをして、狸穴御殿などと云はれてゐた後藤新平男も、いよ〳〵麻布櫻川町の新邸が出來上つて、まだ木の香が鼻を衝くやうな處へ引越して行つた。

男爵が洋行から戻つた時は、まだ何時住へるか判らぬやうな樣子だつたが、流石にやかましやの主人公が歸ると、どん〳〵仕事が進んだと見ゐてとにかく此正月を新邸で迎へ得る事はお目出度いことである。

何んでも男爵を東京市長に擔ぎ出す運動が猛烈になつて來た時の事で、私は男爵の豪傑笑ひに揉みくしやにされるとは知り乍ら、もしも愈々と成つたら『諾』か『否』が其邊の見當をつけて置きたいと思つて、冬枯れの風の寒むい日の夕方に、初めて此新邸へ訪ねて行つた。

門の中はまだ工事の最中で、赤土が山のやうに盛上げてあつたり、大きな穴が堀つてあつたり、そのまた穴と穴との間へ板の足場が渡してあつたり、植木の大な莚包みが幾つも幾つも轉がつてゐたりして、其間を人夫やら植木屋やら洋服を着て足袋をはいたこうした場所で無くては見られない工事を盤督する人抔が忙しそうに歩るいて居る。

大体が高臺で、四方には眼を遮るやうな何物もないし、廣尾から澁谷一帶に掛けての方面が見下ろされるし、更にまた前の通りも電車道から横へ切れた處なので、絶ねずごう〳〵といふやうな響を聞かされたり、塵を浴びせられたりする事もなく、それでゐて、廣尾橋へ出るにも材木町へ出る

にも電車にも近いし、場所としても申分ない處である。

近くには澁谷へ寄つた處に親しい間柄の仲小路廉氏の邸があり、材木町の停留場へ出やうとする處には柳原義光伯も住んでゐられる。

一一　低い平民的な大陸的な門番小屋から受ける感

初めからの設計か、それとも外國から歸つて來てからの男爵の思ひつきか、乃至は、令息の一藏さんでも云ひ出したのか、頗る平民的な、氣の利いたフレシュな氣持のする門である。

建築に關して全然何んの智識もない私には『はゝあアメリカ式とでも云ふんだな』と直ぐ思はれた。果して亞米利加式であるか、どうかは知らないが、とにかく極く氣持が良い代りに、丁度ソフトカラーをつけて帽子を阿彌陀にした青年を見るやうに打ちとけてゐる代りには、惜しいことにちつとも品が無い。米人を見て英國型の紳士を見る時のやうな氣持がした。

煉瓦で積み上げた低い門柱で、それから向つて右は同じ塀、扉は鐵の鑄物で、これも勿論門柱と同樣に極めて無造作でしかも低いものだ。この左手に門番小屋が眞四角に立つてゐる。此建物が即ち大陸的な亞米利加氣分が充ち滿ちたもので、高さも漸く九尺あるか無し、色煉瓦やら陶器の飾りがあつて、窓の具合と云ひ、薄つぺらな屋根の樣子と云ひ、鐵道のお役人に劍を下げさせたり、金モールを肩へのせさせたりした後藤閣下の表門としては、ちと變りすぎた對照を見せてゐる。

後藤さんは、矢張り後藤さんで、あれで割合にざつくばらんな平民的な處のある人なんだが、時々度脫れな官僚臭い仕事をやり出すので、世間でもそんな人のやうに思つて居り、われ〳〵もまた反射的な影響で、そんな風な感じがしたりしてゐるんだが、此門を見ると、矢張り後藤新平男は、後藤閣下にあらずして、後藤さんなることが、よく、解るやうな氣持がするのである。

一二　灰色なコンクリートの塀の冷やかな感

門を入つて、足場から足場へ飛び移るやうにし

て、本邸へ行つたが、此間凡そ一町餘り、その廣い庭の左側は、まだ工事中で粗末な板の塀になつてゐたが、右側の隣地との門は中高なコンクリートの塀がずらりと出來てゐる。防火にも成るであらうし、丈夫でもあらうけれども、凡そ私の見た邸宅にある塀としては、此塀が一番野暮臭いものであつた。私は上野の動物園の塀が思ひ出されたり、早稲田の野球場の塀が思ひ出されたりした、一体あの灰色なコンクリートの塀なるものは、人間の住居には餘りに趣きの無い冷たい感じのする面白くないものではあるまいか。

純日本風の美事な本館を前にして、コンクリートの色から受ける感じは餘りに悪る過ぎるものである。頻りに此塀の前へ青い木を植ゑつけてゐたから、その木が繁茂して來たならば、或は幾分か灰色から受ける悪るい感じが消ゆるではあらふけれども、何故門番小屋としつくりと合致するやうな感じの、赤い煉瓦の塀にするとか、然うでなければ、本邸と同じやうに純日本風の板塀にするとかされなかつたものか——番小屋の風趣からしても、本邸の風趣からしても、合點し兼ねる配合である。

殊に私の行つた時は、まだ玄關前の植込も出來てゐず、たゞ廣々とした處に砂利を敷いてあるだけだつたから、尚ほ一層に此塀が目に立つて、それだけにまた忌やな感もしたが、或は總てが竣工して、男爵が所謂懇親知己を招待して例の鼻眼鏡でも光らせる時には、また私の受けた程の忌やな感觸がなくなるかも知れぬであらふ。

四　門番小屋とは全く別な純日本風な美しい本邸

本邸は非常に立派な純日本風である。私は此日の訪問に於て、丁度男爵が不在の時だつたから、本邸の内部を見せて貰ふ事は出來なかつたが、玄關に於て、稍々細かい觀察をした範圍内では、すべて造作は白木造りで、露程も塗つた處や、洋式の風趣はなく、日本式の極く品の良い穩やかなものであつた。正門の門小屋と、丁度西洋と東京との兩極端を表現して、其間に少しの連絡もなく、全く別々も、甚々しく別々な趣きを見せてゐる。

若し仮りに、私が理想としてゐる門と本邸とは同じ住宅の各一部宛として、同じやうな風趣を持つて、しつくりと合つて一塊のおもむきとなつてゐる事が良いものとすれば、これはまた飛び離れた——全然雪と墨といふやうな別々なものを、強いてつぎ合せたやうなもので、本邸は甲のもの、門は乙のものといふやうな感じがして、忌やではないがおかしなものである。従つて私の理想から云へば、先づこれも心ないやり方ではあるまいかと思ふ。

但し、門は門で別でよろしい、本邸は本邸で全く別でよろしい、一住宅の各建物が各々勝手でもよろしいものであるとすれば、私が豫ねて有つてゐる理想は、大して有難くない根據の上に立つて居る事になるやうである。

それは兎もあれ、此邸の門は門で實に良いものまた本邸は本邸で、全く別な趣きに於て實に良いものである。只、私がもしも後藤男であり得る事があるとすれば、其時は、例の門小屋を取去つて白木の太々とした大名式の歌舞伎門を建てるか、本邸を取壊してベランダの多い大陸的の綠色の芝生に包まれた二階無しの洋館でも建るであらふ。

五　可哀そうな自動車々庫と見るから立派な土藏庫

烏の羽根のやうに黑く輝いた屋根瓦に、何處かの神社でも見るやうな白木造りの本邸、正面から見ては二階の無いやうに落付いて見ゐるのは寔に氣持の良い位で、南側は廣々とした內庭になつてゐて、椽に出れば廣尾澁谷一帶の綠色なす樹や森が見渡されるやうになつてゐる。

正面が玄關で、左手が家族の出入する處で硝子張りの角子戸が立てられ、其左手横に引添ふて、南向きの大きな土藏が夕日を浴びてゐる。灰色交りの紫紺の壁で、高い瓦を見せ、そのまた横に引續いて西方に小さな住居が二戸程立つてゐる。これは普通の住宅で、小じんまりとしたところから見れば、何れは秘書の何の某氏が住んでゐるのであらふと思はれる。

此建物と、本邸との間に——即ち日本式の二つ

の建築物の間に挟まれて、南に大きな硝子戸を見せてゐるのは門小屋の様に、何々式といふ程の注意を誘ふ程ではないが、兎に角純洋風の自動車々庫である。何だか日本の子供許りの中へ、ぽつちりと西洋の髪の毛の赤い子供が一人入つて來たやうに、水の中へ油が入つたやうに、頗る不調和に頗る肩身狭まく見ねてゐる。

此車庫が迫めて、入口の門小屋の隣り邊にでも建つてゐれば良いのだが、壁塗りの土藏倉を背景にして、白木造りの玄關、硝子戸構ねて勝手口、秘書の長屋といふやうな、日本人の間へ、ペンキで塗つた三角型の妙な建物であるから、從つてその色だけでも既に周圍の風趣を打ち壞してゐるし影も薄くなるのである。心無い設計者に建てられた自動車々庫も考へてやれば可哀そうだ。

こんな處を見ると、私は先日亡くなられた大澤岳太郎博士の、千葉縣布佐の町にあるアノ芝葺きの溢ふれるやうに趣きのある閑邸を思ひ出さずにはゐられなかつた。

六　式臺の玄關と黒紐の入つた杉戸の立派さ

玄關には大きな硝子の入つた戸が立つてゐる。戸その物は、どちらかと云へば、西洋らしい處もあるが、これは甘く日本式に噛み碎いてゐるし、周圍の日本的の色彩が濃いから、ちつとも西洋種らしい氣持が出ない上に、總て同じやうな木柄を使つてあるから、調和がとれてゐる。

戸の中は三坪餘りの石敷きで、それはそれは眼の醒めるやうな美しさ、清潔さ、すが〳〵しさである。式臺式の上り框は眞白い厚い一枚板で、正面には障子代りに杉の廣戸が立つて、光り輝くやうな黒い漆塗りの棒が四五寸置に引かれてゐる。新しい爲めもある、しかしその立派さは、其邊の舊大名華族の玄關などでは到底も見られぬものであつた。

その杉戸の後ろには青々とした疊が見ねて正面の唐紙が冴え渡るやうな中を、ベルによつて十五六才の絣筒袖の少年が現れて來る、そして式臺の處迄下りて來て叮嚀に禮をする。此邊先づ申分な

い樣子である。

たゞ後藤さんの新邸にして、灰色コンクリートの塀無く、母屋本邸近くにペンキ塗りの自動車々庫無く、門と本邸との調和を採る事を得たならば更でだに立派なものであつたらふにと、私はまだに餘計な事が氣になつてならないのである。

林勅參私邸

一　外交史の先生から外務省の勅參といふ次第だ

原首相が例の白頭を一ひねりひねつたといふ各省の勅任參事官任命で、慶應大學の先生法學博士の林毅陸氏が外務省へ渡り込だといふ事は、先づ好く云へば適材適所、望月さんが農商務省へ入つたり小久保氏が遞信省へ入つたり三土氏が大藏へ行つたりするよりは、根が外交史擔任の人だけに滿更無理ではないやうだ。

林先生は常に小むづかしい顏をした所謂御氣嫌の惡るい方の一人で、私の聞いた講演で氏の笑顏を伴つたものは嘗つて一度もない、必ずねち〳〵とした辯舌に苦虫を噛み潰したやうな風貌が附き物であつた。

初め各省の秘書官がお手盛りで此勅參を引受けるといふ噂で、任命以前にすでに、ぼつ〳〵批難の聲など聞われたが、私は餘り信用の出來ない風評として、話の序に小坂農相秘書官に訊いて見ると『秘書官など登用する譯は無い、政界老功の士を引張つて來るさ』といつて、どう突いて見てもこれが本音らしいから、その意にして心當りに夫々氣をつけてゐると、突如として池田宏氏が內務省の都市計畫課長から社會局長に進んだ內閣辭令と共に、松田源治氏の內務省勅參、林氏の外務省勅參が發表された。

其時迄は、誰だらふ誰だらふと思つてゐたが二人共持つて行きそうな處へ持つて行つたもので、餘りお手近から引抜かれたから、私も聊か燈臺下暗しの類に、遠方にばかり氣をつけて、首相の足許を見なかつたのが、一寸子供が屏風の蔭から、『ばあ！』と云つて出て來た形であつた。

一一　潜り門の處にたゞ名刺紙の小さな名札があつた

新任の敬意を表しがてら、矢張り一つのニュースとして新聞種にすべく、氏を下澁谷にたづぬる終點の邸に訪ふた時はもう悉皆日が暮れてゐた。實はその前に、池田社會局長を訪ねて寫眞を撮つたり何かした上に、局長は例の意地惡をやつて、どうしても『僕は知らんよ』をやつて片つ端から新聞記者を追拂つてゐるので、遂々所謂我々仲間の云ふ『語らせ』兼ねて、それから此方へ廻つたので、彼れこれ九時すぎてゐたと思ふ。

下澁谷は隨分廣い處だし、それに番地が飛々で一体が解らぬのであるけれども、就中氏の邸宅は解り難くい——といつても私はたゞ番地許りをたよりにしての初めての訪問者だからであるが——それに日は暮れてゐて暗さは暗し、青山から乘つた車夫で道案内は解らず、時々戸閉りをしてゐる家を驚かして番地を尋ね尋ね漸くの思ひで此の番地に似寄りの邊へ出て來た。

しかし其處迄來てから、さて幾度探しても解らない。門標を一々嬰寸をすつては見て探すのだが確かに番地順から行けば此邸であらふと思ふやうな處には皆んな異つた名札が出てゐる。段々探してゐる中に、遂に天現寺橋から入つて來るえびす電車の終點に名札のない石門の立派な邸を發見した。そしてこの邸の潜り門に『林毅陸』とある小さな貧弱な名刺紙を張りつけてあるのを發見する事が出來たのである。私は思はずほつとした。

二二　正面に邸の横二階を見せ坂の中途に白木塀

潜り門を入るとすぐに植込みで、小砂利の道が左右から玄關に入つて行くやうになつてゐるが、それがまただら〳〵下りで、といふと大部邸内が廣いやうにも思はれやうが、實は鼻を衝くやうに二階建の邸であつて、右手が勝手口、左手には塀で内庭を距てゝあつたやうに思ふ。要するに衝を入つて玄關迄は極く狹く出來てゐる。

門は石造で白木の左右開きの二枚扉があつて右手には潜り、左右とも白木の屏だ、屏の外は爪先上りの坂道で、約ゝ坂の中途に、屏の上から二階建の、西に向けた下見張りの横腹を見せて邸が建

つてゐる譯であるのだ。

玄關には腰の低い硝子戸が立つてゐて、一坪半許りの横に細そいコンクリートらしい庭、正面が鼠色か何にかの壁で、帽子掛けが並んでゐたやうに覺えてゐる。その前の疊へ温順らしい女中が手を支えて、私の名刺を取次いだ。

玄關に入つての印象は相當に好いものであつた何んとなく物穩やかな落付いた構へであるが、只通常の大學の先生の邸としてはそれらしくない邸で、それかと云つて代議士とか政治家とかいふ人の邸にしては、印象がちと軟か過ぎじみすぎる。矢張り學者にして代議士なる先生のその儘が玄關に現れてゐるのであらふか。

四　東と南に廻り椽の純日本風の應接室

正面の壁の左手が細そいその廊下になつてゐて下の座敷が見えてゐて、その右から梯子段になつて二階へ通るやうになつてゐた。純然たる客間に宛てゝゐるのであらふ。其二階の一室は綺麗に取片づいてゐて、こんもりとした電燈の笠の色も今宵は頗る平和に見えた。

南と東が廻り椽で障紙の外には硝子戸が立てられ、その外にはこんもりとした木の葉が迫つて、その間に天現寺一帶の灯の色がちら〳〵と見下ろされてゐる。八疊間の眞中に紫檀の机を置いた純日本風で、黒い壁間には、金表裝の横額などが懸つてゐた。遖に今宵は苦虫の林先生も良い御機嫌体で頻りに語る。池田局長を語らせ得なかつた腹癒せに根堀り葉堀り尋ねて行く。外務省に對する從來の觀察といふやうな事から、今後第一に着手すべきは何かとか、勅參問題は何時から話が出たかとか、時には、もう必要のなくなつた事でも、後日の何かの事件の時の參考にと實にいろ〳〵な事をきいたものだ。その中にも段々夜が深けて何處かの工場で汽笛の音がした。

一体が國文學者といふ同格の人の住みそうな邸で、外交史を講じ、外務省勅任參事官などといふ何れかと云へばバタ臭い人には似合はしからぬ住居であつた。白木の門、純日本風の應接室、ねち〳〵した先生の言葉つき、實をいふと私は外務省參事官としての先生を訪問してゐるといふよりは何かこう帝展に入選した日本畫家でも訪ねてゐるといふやうな心地がした。



〔庭園〕

日本庭園考（十）

會員　農學士　大屋靈城

六　日本庭園の特徴（續き）

曩に日本庭園には色々の特徴ある事を述べたが尙不十分であるから今少しく詳細に述べてみよう

造庭に縮景法を用ひた事　古から富士の山の景色や近江八景等を模倣して自分の庭に寫したと云ふ事をよく聞くがこの大面積に渡る一つの風景を小さな僅かに二十坪や百坪の庭園の內に造るにはどうしても其の大さを縮少せなければならぬ。又特徴のみを捉へて全般に亘つては大いに材料を省略せねばならぬ、茲に恰も畵を書く時の樣な工夫が要る。日本の庭園には、多くこの縮景法が用ひられて居る、そしてこれが一つの特徴となつて居る。西洋の庭園には斯の種の企圖を加へたものは至つて稀で自然の景を模するにしても唯天然の風景其物を造り出して敢て縮景等の試みには及んで居ない。是は一つに西洋の庭園は多く大規模のものであつたに反し日本のものは小規模であつた爲

にも起因するであふうが日本國民の國民性が然らしめたと云ふ事も出來よう。

西洋人が我國の庭園を覽てピクチユ●アスキユガーデン（繪の樣な庭）と批評するのも、この縮景された大きな景色を見た感想に外ならぬ。今この縮景法を利用して作つた庭の主なるもの、二三に就て述べてみよう。

彼の京都東本願寺別莊枳殼邸の前身である河原院の庭は源融公の營むところであるが庭内に奥州千賀の浦なる鹽竈の景色を模して所々に鹽を製して居る茅屋を配し煙突を設け遠く大阪の難波江から毎朝潮水を汲ませて鹽燒の眞似をし其の煙の立ち昇つて居る景色を眺めて樂しんだと云ふ。この庭の如きは我國内に各所の景を縮少して寫し造つた嚆矢であらう。又今日尚遺つて居る東京小石川砲兵工廠内なる後樂園の如きは一庭園に單に一ケの名所のみならず多くの名所を集めて寫して居る即ち大堰川、渡月橋、清水寺と云ふ如き京都の名所もあれば三條の松原、愛宕山と云ふ如き東海道の景もある。田毎の月、寢覺の瀧があると思へば竹生島、唐崎の松、さては支那の西湖の景もある（府圖參照）これ等各地の名所が御互に結び合つて一つの庭園を形成して居ると云ふことは日本庭園にのみ見らるゝ一つの特徴である。これは全く我國民が自然を愛するの餘



り各地に旅行して感じた風景を自己の庭園に作り出さうと努力した結果出來た一種の造庭手法である。次に

造庭に借景法を用ひた事　これも實にうまい考へつきであるが、これは西洋にも無いではない。園外の山や森や池の景色の勝れた部分を自己の庭内の樹木で植ゑつぶさない樣にそこに見透しを保つて恰も自己の庭内にあるかの如くせしめる法である。今日でも庭園の植樹設計上喧ましく云はれるビスタ、ライン(見透線)と云ふものは多くこれが爲に用ひられる。屢々述べた如く彼の龍安寺の庭は男山八幡を借景し大德寺の庭は比叡山をとり込んで造つた借景園である。若し大德寺の庭の前に工場や長屋が建てられて前方の比叡山と鴨川堤の松並木を遮るように成つたら彼庭の生命は失はれるのである。

又岡山後樂園に遊ぶ者は多く池の畔を一巡して園内の風光にのみ心を奪はれて園外の偉大なる景色を味ふ事に氣がつかないが眞の彼の價値は園の北方に聳ゆる山々の麓に點々として配置された田舍村を池の南方なる躑躅の臺から遠く見卸した際に味はるゝものである。茶畑を越えて廣漠たる平野が擴がつて居る奥に淡墨の樣に將た又緣の帶の樣に山や森が顯はれて其の間に玩具みたような小さなあばら家が點々と見わた時に吾人は爽快を叫ばざるを得ないであろう。これ全く借景法によつて得られる本邦庭園の特徵である。

この借景の方法には色々な式が用ひられて居るが最も大事なのは園内の景と園外の景との連絡法に十分の注意を拂ふ事である。土壁や竹垣では面白くないから岩組や植込み又は生垣の類を以てせるものが多く成功して居るこの種の手法も、さすがに古くより我國造庭界に多く利用されて居た結果諸外國の手法よりも進んだ方式がある。從つて借景は確かに我造庭術の一特徵として擧げ得られるものである。次に

造庭に意味をつけた事　であるが、これは多く宗教上の關係から起つたもので古い庭に殊に多い彼の鎌倉時代にあつては庭石を佛にたとへ庭は九品淨土の蓮臺を表はせるものなりとして、庭の各

部を上品上生の座、上品中生の座、上品下生の座中品上生の座、中品中生の座、中品下生の座、下品上生の座、下品中生の座、下品下生の座の九ッに分け一草一木にも眞如の相を觀じ山色に佛身を思ひ溪流に長廣舌を聽き恰も庭園内に座せるは極樂淨土に住せるの氣分を以て庭園を味ふのが常であつた。從て往古は庭を見ると云ふ言葉を使ふ事は至つて少く多く庭を拜するといつた。今日庭園の前方の中央に禮拜石と云ふ平たい石が遺つて居るのはこの意味から置かれた石である。

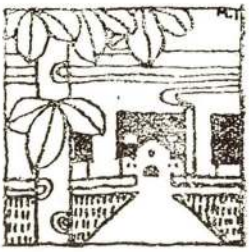
彼の京都の郊外なる花園村妙心寺山内に雜華院と云ふ小さな寺がある。この寺の庭は十六羅漢の像を型どつたもので庭に意味をつけて作つたものゝ徹しい一例である、其他庭に宗教的意味を附して居つた証據としては庭内に用ふる石の名に三尊石、禮拜石、成就石、願石、敬愛石、神王石、不老石、守護石、二神石、蓮花石、童子石、水鳥石等の如き特殊の名前をつけられたものが多いのを見ても判かる。

然らば如斯庭園の意味をつけた事が造庭術に如何なる影響を及ぼしたかと云ふに、これが爲に總ての庭の構圖が一種の落付きと重みを有つて來た從つて其の景色は多く幽邃であり又古淡である。これに反し西洋の庭園は華麗であり輕快である。換言すれば日本庭園は沈想に耽り易く聯想的であり印象的である。この日本庭園の特性は全く庭に一種の意味をつけて作つた爲に生れたものであると云はねばならぬ。

以上述べたところは寔に簡單ではあるが如何に日本庭園が他の國の庭園に比して異なつた特徴を有するものであるか、如何に世界に卓越した意表と構圖に依て造られ來つたかを窺ふに足ると思ふ

然らば日本庭園には缺點はないかと云ふ問題になるが特徴と云ふものは一方から云へば缺點ともなり得る。從つて如斯く餘りに印象的沈思的に流れた結果は確かに庭園に活氣と變化を失はしむるに到つたのである。

恰も青や綠や紫と云ふ如き冷色のみで畫いた繪に燃ゆるが如き活氣を有たない樣に日本庭園は餘りに靜的であつて動の一方面を缺いで居る。其他建築と同じく方相禁忌とか相尅相生抔と云ふ如き一種の迷信的觀念を加味して造庭術の自由を束縛した事や、眞草行と云ふ如き一種の規矩に捕はれて居る事は確に本邦造庭術の缺點として見らるゝであらう。此等に就ては述ぶる事を省いてこれから日本庭園の將來に關して一言しよう。（續く）



談叢

日本古城趾抄〔一〕

S・U閑人

北武藏（一）

『川越城』　長祿元年上杉持朝築城し德川の天正八年酒井河内守重忠居城し、更に寬永に到つて松井伊豆守信綱が住み後ちに明和四年松平大和守朝矩が代つた。入間郡川越町にあつた。

『城村城』　今尙ほ城跡の堤があり、本城の跡には築城の主太田下野守を祀つた祠がある。場所は同郡柳瀨大字城。

『松山城』　應永年中に上田左衛門尉が築城したもので、天正年間には上田暗獨齋が居城した。上田は扇谷上杉家の家老職であつて秩父郡の御堂村から移り住んだと云ふ。此企郡西吉見村大字北吉見に在る。

『南畑城』　入間郡南畑村十玉院の地にあつた。天文年間に先祖代々此土地に住んでゐた難波彈正憲重が築城した。

『山口城』　入間郡山口村に山口平左衛門築城と知れるが系譜等詳らかでない。

『須賀谷城』　畠山重忠の居城であつた、一説には岩松遠江守の居城とも云はれるが嘘らしい。此企郡菅谷村大字菅谷にあつた。

『山仟城』　城址圖や遺物を殘してゐるが居城者は里見小太郎とも云はれるが山住彦三郎の城壘と稱へられる方が正しいやうだ。丘城である。入間郡山口村大字勝樂寺北社權現の北山。

『萱方城』　入間郡大家村大字萱方にあつた。天正年間淺羽甚内成友の築城である。

『嚴城』　足利時代長祿年間頃の城趾で澁川義鏡の築くもの、北足立郡嚴町の東方の要害にある。

『石戸城』　現在は畑地となつてゐるが、足利時代に砦のあつた事は確實で、上田又次郎政廣が築城したと云ふ。同郡の石戸村上石戸宿。

『上石戸城』　同郡上石戸城山に今尙ほ其城趾と認められるものがあり薄冠者源範頼の城趾と云はれる。

『館城』　北條氏康が大石氏を此城に居らしめたと云ふ。同郡館村。

『岩槻城』　古河公方成氏の軍を防ぐ爲めに長祿年中に太田道眞が築いたものと云はれてゐる。南埼玉郡岩槻町にある。

『戸塚城』　城趾は今尙ほ存してゐるが、築城の主も、其年代も一切不明である。同郡戸塚村。

『岡城』　城址はあるが、年代や築城主が不明だ、傳説としては足利時代に太田道灌も在城したといつてゐる。北足立郡膝折村大字岡の北東にある城山。

『戸崎城』　今でも城址と思はれる濠などがあるそうだ、北埼玉の高柳村大字戸崎にあり戸崎右馬介が住んだといふ。

『駿西城』　天正八年八月一日德川の旗本松平康重に與へられたが北條氏の築城である。北埼玉の駿西の町。

『羽生城』　弘治二年に羽生豐前守が築いたものであるが、慶長十九年に廢城した、德川の末頃には羽生の陣屋といつたそうだ。北埼玉羽生町にある。

『久喜城』　足利政氏が後年退隱した城と傳へられてゐる。堀跡は尙ほ存在してゐるが政氏の死後

は甘棠院といふが建つた。南埼玉の久喜の町にある。

『忍城』　同郡忍町行田にある成田下總守の築城で文明年間に出來たものだそうだ。北條時代にはその居城であつたが關東七城の一つに數へられてゐる名城であつた。

『久下城』　大里郡久下村大字久下南の堤外で、現在荒川堤の內外に其趾を遺して居る。鎌倉時代以前から居住する久下氏の築城と傳ふ。

『皿尾城』　永錄四年に上杉謙信が忍城に備へる爲めに一時的に築城した木戸監物入道をして守らしめた處現在は外張といふ地名を遺すのみで影も形もない。北埼玉郡星宮村大字皿尾。

『菖蒲城』　南埼玉菖蒲町にあつたもので今は田畑となつてゐる。北條氏から德川に移り天正十八年八月以降廢城となつて仕舞つた。

『深谷城』　大里郡深谷町の北方で上杉右馬介芳憲が康元元年の築城である。

『根古屋城』　尙ほ遺址を存してゐる。太田道灌の築城ともいふが本間孫七郎であるといふやうな事もある本に見えてゐる。

『寄居城』　大里郡鉢形村に、文明年中長尾景春の築いたもので後に山內上杉に屬したが、後北條氏邦が住み、天正十八年甚滅亡と共に廢城となつたが、城址は歷然として遺つてゐる。一名に地名をとつて鉢形城ともいふ。

『西城』　同郡長井村大字西城にある。むかしは藤原左近少將義孝の館であつたが後ち長井齋藤別當實盛が移り住んだ。

『用土城』　同郡川土村西の方に現に堀の跡を存してゐる。足利時代藤田右衛門佐康築城と云はれてゐる。

『雉岡城』　兒玉郡兒玉町大字八幡山の西裏で最初上杉の一族があたらしいが、後には有田豐前守定基が在住した。

『別府城』　別府次郎行隆の築城で、年代は明らかでないやうだが土居（つちかこへ）だけは現存してゐるそうだ大里郡別府村大字東別府。

『八幡山城』　天正十八年小田原の役に城が陷ちたるが記錄に見えてゐるからそれ以前の築城なる事は明らかでない由である。兒玉郡兒玉町八幡山。

『白谷城』　北條氏康三男新太郎氏邦は秩父領橫瀨村根小屋に城地を持ち、秩父新太郎と號すとある書に見てゐるから、其頃のものであらふ。秩父郡橫瀨村の根小屋といふ處なので一名は根小屋城ともいふ。

傳說に遺された建物の話 (一)

野村俊太郎

◆黒木の御所

═順德上皇佐渡島御在所═

いま佐渡が島の金澤村大字和泉といふところに六間四方許りを石垣や木柵で取圍んだ黒木の御所跡だといふのがある。近頃は草木や花卉などを植ゑ込んで頻りに手入を爲て風致を添へてゐるとの事だが、此處は昔順德天皇が御讓位を遊されてから間も無く、國分寺から御移りになつて永く御住みになられた御所の跡で、黒木といふ名の出たのは、貞觀儀式などによると、昔は天皇や上皇が行幸の際には圓木即ち皮付きの儘の木材を使用して御座所を建てたものだそうで、此皮付の木を黒木といふから、素朴な里の人達が、これを御所の名に冠して呼んだのが其儘に遺つて來たのであらうと思ふ。

此御所跡の近くに今は癈寺となつて竹田の世尊寺に合併されてゐるがむかし法華宗の本光寺と呼ぶ寺があり、本尊として御丈三尺立休の正觀音があつた處から『和泉の觀音』と場所名で呼ばれてゐるが、其觀音は聖德太子が御刻みの物であるといふので、今では國寶となつてゐるが、これがその黒木の御所にゐらせられた順德上皇の物御持佛であつたと傳へられて居る。

佐渡名勝志によると、順德上皇は非常に佛樣を信迎遊されたので、村の中に東には觀音、西には阿彌陀如來、南に藥師、北に天神と四箇所の堂宇を建立されたといふが、他の三尊は全然噂にのみ遺るだけで、唯一つ正觀音のみが現存してゐるのである。

その頃の觀音堂の所在地を堂所と呼んでゐたが上皇は毎日のやうに此觀音堂へ御出向きになつて

は御讀經なされたが、お休息の時には傍らの金燈籠松といふのを御眺めになつて御機嫌であつたといふ。此松は或る研究家の手記によると明治三十年頃に枯れて仕舞つたが株だけは未だに川上賢吉といふ土地の名望家の持地の中にあり、此邊から押して御所の所在も裏書きされてゐる譯である。

又、この松の北方一町許りの處に川上といふ農家があつて、その庭前に上皇の御腰掛石といふのがあつたのだが、今から百五十年程前に土中に埋沒し、今はその標にとあつて樅の木を植ゑてあるさうだが、高さは常に五尺内外、周圍二三尺で、明治初年の頃から今日に到るもちつとも大きくもならず太くもならぬと土地の人が不思議がつてゐる由である。

又、松の木から西へ五十間許り離れた處に齊藤といふ人がゐるが、その畑の中に畔があつて此邊が御所跡だとも云つてゐるから、そうなると前の石垣をした黒木の御所跡なるものが甚だ曖昧にもなるやうであるけれども、兎に角此邊は、北に金北山、西は相川へ往復の街道であり、東は國府川南は眞野浦、雪の高浦などの海になつてゐるから風光明媚は申す迄もない、上皇は此界隈に黒木の假皇居を定めて御住みになつた事だけは事實であらふ。

附近に御花屋敷といふのがあり、本屋敷といふ處には千本の櫻がある。御花屋敷は、上皇御寵愛の官女の住居の跡とも云ひ又お花なる美女が上皇の御寵を蒙つて此處に住んでゐたともいふ。しかし上皇が御徒然に苦しまれて黒木の御所から折々御遊行遊され花園などを御設けになつたので、今も御花園の跡があり、御花屋敷も然うした類のものではあるまいか。

佐渡風土記によると、前に書いた御腰掛の石といふ事に就てこんな事が書いてある。

『爰に又和泉といふ村の候ひしが彼院の御賄ひの御領所なれば、常に御幸有りけるにや、御休所の跡といひ傳へぬ。今は、半兵衛と云ふ百姓の屋敷とは成りぬ。此内に芝山あり、高さ五六尺にて廻り一間半ばかりに、二間ばかりなり。其上は平にして又大石有り即ち帝の御腰かけの

石なりと云へ傳へたり、今鎭守と仰ぎぬ」これによつて大体御所の有様やら御生活の御様を想像する事が出來るではないか。

◆岡の屋形

═明石上の君の住居═

源氏物語によつて創作されたと思はれる光源氏が、二十六歳の春から翌年の秋迄今の兵庫縣の明石に住むでゐた。その間に深き契を結んだ明石の上は今の明石郡櫨谷村大字松本の父明石入道の別業『岡の屋形』に暮してゐた。源氏は熱心に此屋形に通ひ詰めたのであるといふ。

昔は四丁四方あつたといふが今は四間に横三間位の別業の跡があり、屋形跡は荒れ果てて僅かの森になつてゐるそうである。松平忠國が自詠の一首を彫んだ石碑があつて、その歌に一月影の光る君住む跡とへば、岡の屋形にしげる蓬生一と。

◆明石城

═松平若狹守居城═

兵庫縣明石郡明石町にある明石船下城といふのは、むかし高山左近重友が居城したが、後ち蜂須賀喜左衛門が代り住み、天正年間には三木城主別所長治の家臣で別所山城守吉親といふ人が入つて城主となつた。

羽柴秀吉が三木攻めの時は黒田長政の弟二子甲斐守長興が之を守り、慶長五年には池田三左衛門尉輝政が、播磨宰相に任官して姫路城に移つて來たので、暫くの間はその輝政の家老の池田出羽守といふのが之れを守つた。

元和三年になつて更に本多美濃守忠政が姫路藩侯となつたので、出羽は岡山に移つたが、其頃大阪陣の功によつて小笠原右近太夫忠政が、會津に封せられんとしたのを辭し、應請して明石の十萬石を貰ひて西播に權威を張らふとした。

其處で先づ名城を築く事を第一番に心掛け、元和の初めに柿本人麿の塚の上にこの船下城を築き移し、同四年の春落成し、三木城から引越して來たが、其勢に乘じて舞子明石を劃る鳥岬を抱く海濱の埋立大工事を起し出して漸く出來上り、其灣を錦江と呼んで其成功を喜び明石の新城を錦江城

と呼んだりしてゐたが、彼の武名の擧ると共に幕府猜疑の眼が光り出し、十五萬石を與へて九州探題に封じ忽ち國替となつて仕舞つた、詰まらない馬鹿を見たのである。

此時の築港埋立の工事が如何に大規模であつたかといふ事は未だに「明石殿さん大き事願ひだ、岩屋が瀬門へ橋掛けよと」いふ俚謠のあるのでも解るではないか。

それから戸田大久保松平本多の諸侯を經て天和二年松平若狹守直明が越前の大野城から六萬石で移つて來たが、後二萬石加增と成り、格式十萬石で明治維新を迎へたのである。

城廓は東の京口門から西の姫路口門に到る迄九丁餘、北は廓門に連り、南は海邊市店に到る凡そ三十六町といふから素晴らしいものである。

◆高篠の長者

═『武藏野話』に殘る話═

埼玉縣秩父の名物の一つに蕨が數へられてゐる事は誰でも知つてゐるが、これについて面白い話がある。大宮町から東北に當り高篠山と云つて、殆んど住む人もない山があるが、此又山の中腹に思ひ掛けない平坦な地があり、廣庭か或は馬場の跡とも思はれるやうな處などあつて、むかし普通の土民ならぬ何人かゞ住居したといふ俤を殘してゐて、誰でも此處の事を長者屋敷の跡と云ひ、此附近で出來る蕨は一層美味とせられて居る。

むかしむかし、此場所に秩父の大長者が住んでゐて、其一代目の長者は爪に火を點すやうな吝嗇家、二代目は大層な慈善家であつたので德望もあり家も段々富み榮へ、財寶が家にも藏にも滿ち滿ちてゐたし、廣大な屋敷は王侯をも凌いだが、三代目が我儘の馬鹿者で或日家來共へ命じて秩父中の蕨を一つも殘らず一日の中に採り集めて來い、俺達家族で此長篠山は採り盡くすからお前達は地の山へ取掛かれと云ひ出した。

長者は長篠山の上へ登つて家族を始め、澤山の家來達は山から山へ連つて蕨をとつてゐる有樣を覽て、我が威光を一人で誇つてゐたが、昨日迄は然程とも無かつた長者の受持つた此山の蕨が今日は多い事多い事、遂々他の山が取り盡くしても此

方はまだ〳〵澤山に殘つてゐた。

長者は我が威光を天にも知らせてやれといふので、もう入りかけてゐる日を日の丸の扇をあげて麾いた處が、太陽はその威光に恐れたと見ね、招かるゝ盡に再び空高く戻つて來た。

それから暫くしてまた日は入り合となつた嚴はまだ澤山殘つてゐる長者は再び日輪を呼び戻そうとしたが、今度は思ふやうにならなかつた。さあ家來共は皆んな受持の山を終つて歸つて來る、自分の山だけは取り盡くせない、長者はくわつ〳〵と口惜しがつて、夢中で扇を上下して地團駄を踏んだ。

處が不思議な事に、一度扇を上下する毎に、百人もゐた長者の家族達は、片端から、ぶつ〳〵と何處かへ消へて行つて、一番最後の扇を上下するや否や、長者自身のからだは勿論、贅澤を盡くした宏大な屋敷も、ばつと消へて無くなつて仕舞つた。

その時以來、高篠山の長者の屋敷は亡くなつて廣々とした土地だけが殘りそれと一所に甘くて澤山ある嚴だけが取殘されたといふ。

果して此廣場に屋敷があつたかどうかは勿論判らないが、其敷地らしいものが如何にも尤もらしいので、未だに附近には此口碑が遺つて居る。

百骸九竅の中に物あり、かりに名づけて風羅坊といふ。誠にうすものゝ、風に破れやすからん事をいふにやあらん、狂句を好む事久し。終に生涯のはかりごとゝなす。或時は倦て放擲せん事を思ひ、或時はすゝんで人とかたらん事をほこり、是非胸中にたゝかうて、是が爲に身安からず。しばらく身を立てむ事をねがへどもこれか爲にさへられ、暫く學んで愚を曉る事を思へども是が爲に破られ、終に無能無藝にして此一筋に繫がる。

——（二百三十年前の紀行文の一節）——

都市と音樂及び衣服住宅の改良

工學士　内藤太郎氏夫人
内藤周子

一時行き惱んだピアノ同好會の後を引き受けて兎も角も一先づ整理のつきました事を非常に喜んで居ります。去年十二月初旬には會員の例會も大阪ホテルで開きましたし、又年明けると早々一月の半ばには、東京から新進の女流音樂家四名を迎へて中之島公開堂で大會を開く事になつてをります。申す迄もありませんが、同じ藝術でも、音樂がどれ丈け、人々の思想感情を高尚に導くものか免もすると生活に疲れ易い、停滯し易い、余りに烈しい現代の活社會に、隅々迄も音樂の優しい音律をそゝぐ事は、どれ丈け私達の心を柔げるものでせうか。文化生活の程度がその國々の文野を明らかに語るものであるならば、私は、この大阪に斯うした音樂團の、而もそれが全く婦人の手に依つてなされてゐるといふ事をこの上もなく喜ばしく誇らしく思ひます。そんな意味からでも、私はこの會だけは、よく育てたい、出來るだけ力も盡したい、と希望してをります。然うして、その結果が少しでも人々の心に何かを與へるならばまして、文化の程度もすつと東京に比して遲れてゐると云はれる、大阪の爲めに幾分でも或る力を添へる事が出來ますなら、私は大變に滿足だと思ひます。私達の集りが單に誤樂とか、趣味とかではなく、僅ながらも女性の手で、私達にふさわしい事業をしてゐるといふ自負が、寔に愉快に、奔走でも運動でも出來るのでございます。幸にピアノ同好會の外一清樂會といふ同じ音樂團体が亦婦人達の力で生れた事でありますから、猶更ら大小の樂壇の爲めには、寔に喜ばしいことだと思ふてをります。斯うして物質的に優れた實力を有つた大

阪が、猶思想的にも段々向上して行く事は、頼母しい事だと思ひます。

私は久しく日本服の不便を感じてをりました。全く現代の私達の生活にはそぐわない、随分多くの短所を見出します。第一日本服の活動に不便なこと、大きな帯を背負ふことの窮屈なこと、少しさつぱりとした外出着をと思ふと、決して軽少な價格では得られません。それに多少色彩等の趣味を添へて上着、下着、帯、羽織、コート等と揃へやうものなら、幾組の着物が要る事でありませう。早い例で、式服だけでも、春秋の袷物、冬期の綿入れ、初夏と眞夏とに分けた絽縮緬や、薄物それが又正式略式の兩方を揃へるのですから、まあどんなに大變な事でありませう、着物に合せて長襦袢や帯等もその通りなのであります。單に一つの例を擧げた丈けでもざつと七八組になるのですから、その外の物ではどれ丈け大きく經濟的の負擔を負つてゐるのかわかりません。そしてそれ等の多くは、年に何回用達しになるのでせうか、多くは捧へた儘で箪笥の底に藏はれてあるのが普通なのであります。然うして何年かの内には模様や色も流行の烈しい變遷に取り殘されるといふ有様ですから、何といふ無駄な事でありませう。私はいつもその事を痛切に思ふてをりました。そして私は最早單なる理論の時代ではないと思つたものですから、去年の夏は思ひ切て洋装を實行致しました。まだ單に最初の試みに手をつけたばかりでありますが、今後は漸次に、便利で進取的な洋風生活に移してゆく積りでをります。

私が洋装をして感じた事は、思つたよりも非常に氣持ちよく愉快な事なんでした。そうして値段も決して高價ではありません。少し手を入れた日本服に比ぶれば、遙に容易く出來上るのです。まだ夏服丈けで、外出の時丈け用ひましたが、追々に有り合せの日本服を着下ろしてから、段々に取り揃へたいと思ふてをります。それで、私は有るもので縫い返したり、染め直したりして、もう日本服の新調は致さない事に決心しました。和洋二色の生活になつてはそれこそ反つて無駄な不經濟な事ですから、少し宛、改めてゆきたいと考へて

居ります。夏の暑い盛に、婦人方の集りにも私は輕い洋裝で大變涼しい思ひをしながら行きましたいつも着物の着くづれや、帶のゆるみ等、外出した時は本當に締め直したい程に氣の焦立つた心配は少しもなかつたのでした。皆樣の汗を流した苦しさうな厚い帶姿を見ては、「宣傳者」と云はれる程に皆樣に洋裝のおすゝめも致しましたが、なまじつかに改良服抔と何れにもつかない半端な實行に遠い說抔をする間に、思ひ切つて洋裝にする方がどんなにいゝかと私は信じてゐます。男子方の仕事服が殆んど洋服でありながら、それがもう不似合でも何でもない普通の習慣である今日に、婦人の洋裝が決して突飛でも不格好でもないと存じます。

服裝の改良に就いては、どうしても離れる事の出來ない住宅の問題が又付きます。只今の日本家屋では、矢張り洋裝との矛盾を來すのは致し方がありません。私は是にも洋風の家屋に贊成します防寒の設備の出來ない日本住宅が、又それだけ私達の活動を鈍らせてゐる事でせうか。木と紙で拵へた障子や襖では、何としても室内の溫度を溫める事は無理なのです。そしてそれ等の隙間洩る寒い冷い風が、幼い子供の氣管を痛め易い事も私は大層怖れてゐます。

私の住宅が、まだ然うした純日本風の家ですので、只今の處、いろ〳〵な不便も感じてゐますが今度新に建てる時は是非洋風のものに致したいと思つてをります。全然、總べてを洋風のまゝに借りるのではなく、私達には又私達に適した最上の工夫をするのがよからうと存じます。例へば、私は、そんな場合等、家族の團欒室といふやうな、一つの廣間を欲しいと思ひます。家屋の適當な場所に、來るだけ氣持ちのいゝ、くつろいだ大きな室を取つて、晩餐の後等、家族中の者が其後に集つて各自の好きな遊びなり談話なりすればいゝと思ひます。主人が讀書でもする片方では、子供の遊びの相手をしながら、母親が簡單な手仕事をするのもいゝでせうし、家庭音樂に依つて賑はすのもよからうと思ひます。又新しい友人や打ち解けた來客等は無論一つの家族に加へてそんな處へ招待するのもいゝ事だと存じます。殊に私は斯うした家庭團欒の中心に音樂を置く事を何よりも希望してをります。（婦人記者）



漫錄

××太西洋を見る日まで

會員 工學士 波江悌夫

□四□

○七ツの丘

I技師と同室する樣になつてからは氣分も落ち付いて、一所に見物にも出掛け、用事にも出歩いた。自分に取つて甚だ都合もよくなつたが、又甚だ都合の悪い折もあつた。例へば一所に宿を出たとする、自分は市役所に用事がある、Iさんは領事館に行かねばならぬ、三十分ばかり自分にIさんが付き合つたとすると此度は領事館でIさんのために小一時間待される、三井物産の木材部に自分が立寄つた時には、手持無沙汰のIさんは仕方がないから貿易部へ用事をこしらへて油を賣りに行く、正金銀行の支店長にIさんが談判をやつて居る間に、自分は營業室の樣子をチロ〳〵眺め廻して居る事になる、御陰で領事さんに面會も出來、正金銀行の所在地も知れるといふ便宜は得られるにしても、一日で濟む用事が二人連の爲めに、餘計な時間を空費——せない樣に自分は到る處で見學をやつたが——するといふ結果になつて、Iさんの方から申分が出て三日目には自由行動を執る事となつた。處が行動が自由となると妙なもので、Iさんが外出して居る時に、自分が調べ物をやつて居つたり、Iさんの來客中に自分が住宅地視察に出掛けたり、一日中顏を合さぬ事が多くなつた。

或る日の午後であつた。ホテルのつい御向ふにあるスミス館といふ摩天閣を訪問した。五十錢かの料金を納めて昇降器に入ると四十二階あるといふノツペラボーの高塔の望樓に出る、四十二疊敷位の室の四方は見晴らしのよい出檐となつて居る。地所の持主

は支那人であつたとかいふので純支那風の意匠を凝らして、東洋氣分を發揮して居るには聊か面喰つたが、室内裝飾に用ひた漢文の堂々たるにも驚いた。

眞中の柱に

四十二層司密樓（スミス）、舍路（シャトル）發達氣象之一表示也。

此樓浩大裝備完美其構造重而堅、内容辨事處六百居戶六餐館二及酒館等、此樓爲司密之子擧乃父遺意而建、遂以父名而表誌之云

とある。

爹路詩市密於壹千捌百玖拾捌年遍

遊諸埠及舍路埠數次探訪埠情思置

實業凡所遊諸埠公料到舍路埠爲將

來最繁盛商場之埠故即在舍路埠購

地段六塊於壹千玖百拾年聘定明師

畫則繪圖建造爹路詩布密四十二層

樓孰知天不假年有志未遠遂於壹千

玖百拾年拾壹月五號意魂歸天公所

購此地今之價值較原價加增數倍矣

と由所因緣を群青の凸彫で壁の一部に大書してあるが建築師定明さんの手腕は蓋し頗る凡でない樣に思はれた。

椽の周圍は天王寺の塔の樣に金網が張つてある、心中でもした連中があつたか、聊か目觸りであるが展望には大した邪魔にはなつて居らぬ。

一体シャトルといふ町は凸凹の甚しい處で、東京の九段坂や切支丹阪位の阪が到る處にある、何んでも七つの丘から成り立つて居るさうである、其内でも一番大きな丘が海岸に緩かに迫つて居る處が、此都會の中心地をなして居るから海岸通に平行した第一第二、第三、の繁街等の南北の筋は概して平坦で、之れに直角な通は皆阪となつて居る、從つて第二街は第一街から約三十尺地盤高く、第二階は第二街から更らに四五十尺高所を貫いて居る、それ故大通の電車は普通の電車だが、之れに直角な筋の電車はケーブルカーになつて居る。

今し眼下に繰り廣げられた沙市（舍路）のパノラマは其凸凹した臨劃を午後の光にクッキリと照されてゐる、大體此市の色は灰（グレー）白色である、丘の上に建て連れられた家々の個々の色は壓煙にぼかされて白堊の立體的階調に築き上げられてゐるのを眺めたとき自分は夢の國へでも來た樣に思はれた。

シャトルといふ亞米利加印度人が此處に根據地を据ゑた時には蓊の樣な林が、あの丘々の上を掩ふて居たのだ、それが追い〳〵伐り開かれて白人の來着を語る三角形の屋根を持つた白い家がポツ〳〵建てられた、やがて赤い家が出來る、青い屋根が見える、丁度今日のタウンセンド港の樣な景色になつて來る、其時には酋長シャトルの記念碑だといふ（變手古な化物が七八人片車をして居る最も奇拔な意匠である）表柱を中心に南館の七八軒が今の第一街の起點に建てられて居たのだらう。

其時分には鐵道も開かれず大汽船の出入もなかつたのだから至極呑氣な田舍の村落であつたに相違ない、處が。此一寒村に文明といふいたづら物が推寄せて來て三十年ならやならずに、こんな姿になつたのである。

黒く碁盤目に切り込まれた處は往來である、そこに甲虫の樣に電車が動いて居る、蟻の樣に人が群がつて居る、油虫の樣に自動車が馳せ廻る圖はこれでも人間の住むで居る都會とやらいふものかと思はれた、こんなに上の方から見ると地上の凸凹はそんなに際立つて居らぬし、二十階前後の建物も切株の樣に平たく見える黒ずんだ屋根から吐き出される白い煙、黒い煙はこれが人間世界の集まつた呼吸かとも想はれる、聊か妙な氣になつてうつとり眺めて居ると、鳶鳶が三羽ばかり舞ふて居るのが目についた、初めは飛行機かと思つたが、やつぱり空巢れらいの鳥であつた、こんなに急がしさうに働らいて居る世界でも、何處かに呑氣な自然があるものだと飛んだ事を考へた。

アメリカといふ國はとかく矛盾の多い處だが實際こんなノツペラボー閣を打立てゝ、太平洋岸第一閑と大自慢をやりながらソロバンをハヂくを忘れず、それで結果に於ては抜け目なくこんな高樓で大自然の浩然の氣を養つて居る處が面白いではないか。

さうかと思ふとシヤトル市民は七ツの丘があるといふので大變喜んで居るさうだ。什ういふ譯かと聞いたら、その昔羅馬といふ都は七ツの丘から出來てゐてそれで世界を征服した有名な都である、今に此沙港が世界の中心になるのだぞよと大本教以上の熱を擧げて居るのだから寔に面白いと思ふ。

羅馬といへば今から二千年から以前に榮えた町である、米國のうちでも最も新しい此都會が大羅馬を氣取つて居るのも至極痛快である。實際笑ひ事でない、こんな大都會でも僅々三十歳になるかならぬかである、今に人口百萬を越す棧橋の數からが倍加されて來るのを期待するのは無理もない樣である。

廣間の壁には次の樣な文句が書かれてゐる。

舍路賞心悦目美妙勝境。

舍路風景美麗天然畫圖。

舍路灣港爲商人大產業。

舍路因巴拉馬通大西洋。

茲に巴拉馬とは「パナマ」運河の事である。

○ヴアンクーバーの一日

自由行動を執る事になつてから、フト一人で近郊へ旅行をして見たくなつた。それはこれから大陸横斷をやる前程として是非やつて見る必要があつた、勝手の解つた人と一所に旅行するのは都合はよいものゝ、愈一人旅となつたときは途方に暮れる事になる間違つても失策をやつてもなぬに後日になつたら却つて思ひ出の種になるぢやあないかと腹を据ゑた。

何處へ行かうかと考へたが領事館へ行つたとき念のために加奈太行の證明書を貰つて置いたので、一寸ヴアンクーバーを視察しやうといふ氣になつた。だが慣れぬ者には中々一寸でない、だん〳〵聞いて見ると汽車でも行けるし、又船でも行ける、船は第一棧橋から毎夜十二時に出帆して朝の八時に到着するといふ事が解つた。船なら一晩寢たら夫れでよいのだからと思つて船にした、念のため其夜の十時頃ホテルを出て第一棧橋へ行つて見た。

晝間でこそ海岸通は貨物自動車輻輳する處だが、夜もかう遲くて人影もない、棧橋へノコ〳〵入り込んだ自分は、ガランとした

上家の二階（ガレリー）をコツ〳〵我足音に氣を兼ねつゝ、聊か怖氣が立つて來た。棧橋の上家と申せば我國では先づ平家であるが、此處は皆二階家で下は貨物の取扱所、上は旅客專用の廊下（ガレリー）となつて居て、一寸運動倶樂部のトラックの樣に一周出來る樣になつて居るが夜の事とて人影なく、長いトラックの奥は薄暗くてよく解らない、こんな處で不意にピストルでも突付けられてはそれこそ災難な譯だなと思ふと居ても立つても居られなくなる。それに切符賣場が何處にあるか解らない訪れ樣にも人に遇はずといつて人に遇ふのが怖ろしくなつて來た以上は……とう〳〵再びホテルに立歸つたボーイに開いて見ると、トラックの衝當りに待合室もあるといふ事だ、何んだ氣の弱い奴ちやあないかとボーイは腹の中で笑つて居たに相違ない。時間はまだ充分であるから再び引返して行つて見ると長い棧橋の先端に切符賣場も待合室もあり、乘船客も三四十名ばかり集まつて居るぢやあないか。

とう〳〵それでもプリンス・アデレイドといふ汽船の上等室に乘り込んだのはよいが、旅券を檢べる係が「支那人かれ」と前置して人の顔をヂロ〳〵見るには癪に觸らざるを得なかつた。のみならず自分の室が定まつて折角ベッドにもぐり込んだとき、女給仕が來て「室の番號が違つて居るから向ふ側の室に代つてくれ」といふ、こつちも面喰つたが、さすがに給仕の奴も面喰つて居た疲れて居たのですぐに寢込んだ、「起きて下さい」と戸を叩かれて甲板に飛び出して見ると、船は勝手の違つた棧橋へ横付けとなつて居る、朝まだ早い北の國だ、總身にこたへる寒さはまた格別である、ぞろ〳〵と稅關室に入り込んで手荷物の檢査がある、うるさい事だが、大した荷物もない自分には簡單に上陸を許された。

四五日前に降つた雪が一二寸積つてゐる棧橋前の往來を向ふへ抜けて、今明けたばかりの賣店へ飛び込んだ、白鬚の老爺が出て來て「何用でがす」といふ、此町の案內記が欲しいと答へる。案內記はないが地圖ならあるといふ、早速に廣げて見當を付けやうとすると老爺は。

「何處へ行くだね」

と顔をさし出した。

「見物に來たのさ、シヤトルから船で來たんだがあの棧橋は何處になるかな」

と檢べ初めたが、いくら毛唐人でも地圖を見付けなに男には解らんと見ゐて、親切な此老爺もとう〳〵棧橋の在所を見出し得なかつた。

○その半日

地圖をたよりにだら〳〵と南へ坂を上ると、郵便局や商業會議所のある目貫の大通へ出た。凍り返つて居る雪の町をブラ〳〵行くうちに兩方の耳は根元から切れ落ちんばかりにいたむ、手袋をはめた上にポケットに突込んでゐる双手も縮み上つていふ事を聞かない。兩足に到つては靴の先から知覺を失つて歩くのにも難義である。

第三番目の大通へ出だと思ふ頃、人影も少ない、朝寒の霧の中に、赤い〳〵眞丸な御天道樣を、拜んだ時、何ともいへぬ感慨が湧いて來た。東西に延びた半島の丘上に出來上つた此北國の大都會は七八階建の建築軒を並べて寒むさうに夜の明けるのを待つて

居て漸く九時といふに日の光の恩惠を受けるのだ、殊に雪空の此頃は人の心まで沈靜になつて居るに相違ない、とてもシヤトル邊のザワ〳〵した都會とは比較にならぬ、それだけ大都會の活氣といふものがない樣だけれども鈍重な市民は確實な氣の長い生活を送つて居る樣に思はれる、ノビ〳〵した一生を送るにはこういふ雪の國に住むに限ると思つた。

眞紅な御天道樣はいつもよりは尙一層大きく見えた、谷の樣な街區の街當りに悠々と昇つて行く景氣は繪の樣である、吾に繪畫の才能あらば立派な御土產が出來るがなあと、奇立して居る處へ不意に衝當つた者がある、あぶなくのめる處を踏み止まつて振り返れば、丈の馬鹿に高い二人連の男が步調をゆるめて「パードン・ミ！」と二コ〳〵しながら行つてしまつた、話に無中にかかつてボンヤリ立つて居た自分に衝突したらしい、怒る餘裕もないうちに大切な感激は霧の樣に消えてしまつた。

電車通りに出た、別に當もないが乘りたくなつたので車中の客となつた、地圖をたよりに街々の樣子を眺めながらこいつは面白いと思つた。自分の居る處さへ見失はなければゆつくり見物が出來る、電車は亞米利加流の高樓の間を抜けてすてきもない大きな橋に差し掛つた、河を越して向ふの住宅町へと行くらしい。

ヴアンクーバー市は地圖の上で見ると大河の河口に出來上つた都會である樣に思はれたが、これで見ると河と申さうより大きな入江である、それに住宅町でも商業街でも皆丘の上に出來て居て日本の樣に沖積層の三角洲に町を出來すやり方とは全然方針が違つて居る、だからこんな大きな橋も異つ平であるし橋の詰は却つて下り勾配になつて居る、都市と建築の關係から見てあんまり參考にならなくなる。

だが此入江の兩岸には大分に埋立地があり、製材工場だの瓦斯タンクだの、セメント工場だのが並んで居る邊は所謂工場地域であつて、何處も同じ景色である樣だ。

電車は美しい住宅町を右へ抜けて、道路完整領した荒地へやつて來た、乘つて居る御客は皆下りた、其代りに新しい連中が澤山乘り込んで滿員となり直ぐ發車したと思つたら元來た道を引返して行く、何處とあてもない見物にはこれも面白かろうと平然として居た、車掌も氣が付かぬらしい。

同じ大橋を引返して銀行町を通り抜け第三街の角へ來た時車掌君がやつて來て降りて呉れろといふ、「切符なら賃金を支拂ふが」といふても「降りろ」といふてきかない、これから下町の繁華な方面へ行くらしいからもつと乘つて居たかつたが「此奴戸惑をして居るに相違ない面倒だから下してしまへ」といふ腹になつたのかとう〳〵無理に下されてしまつた。

電車もいやになつた、今度は自動車にしやうと思つて棧橋通のユニオンステーション前に歸つて來た丁度一臺の自動車が居たので交渉すると早速賛成した、一時間三弗の約束で乘り廻す事になつた、のみならず一々説明をしてくれと注文をしたら運轉手も話好きの男だと見えて、喋るは〳〵のべつ舞なしに説明を初めた。

大北鐵道經營の大ホテルは褐色の化粧煉瓦で外觀の美天下に冠たり、近世コーシック式建築、室一千幾個、工費幾百萬弗千九百何年に起工して一昨年出來上つた、此の右手にあるのが裁判所で

ある千九百何年東宮殿下御西下の折落成式があつて盛大なものであつた、正面の噴水器は皇帝陛下より御下賜になつたもので……といつに風に説明が初つた。

車は右手へ向けられて此布の有名な天然公園に突走つた。公園は半島の突角に在る、右手の入江は則ちヴ湾であり左手の入江の對岸には何とが大學が建設中であるさうな、公園の入口に池がある、一面の厚氷、見ると十幾人かの連中が盛んにスケートをやつて居る、日曜日には幾百人といふスケーターが集まつて來て盛だといふ、無料の動物園を觀たら什うだといふたが寒いから止めて海岸傳いに公園を乘り廻す事にする。

北の方には雪を戴いて居る高峰屏風の如く天然の障壁をなして居る。見るからに偉大な壯嚴な景色には自づと嚴肅な氣分にならざるを得ない。空を摩するとでもいふか松柏樹の森は千年の姿を其儘に殘して朽木の白く突立てる下苔蒸せる幾條の大蛇の様な蔦が巻きついてゐる、大木の根元を伐り抜いて大型の自動車一臺悠に往來の出來るのがある、繪葉書や寫眞で見たのは此奴であるに相違ない。運轉手は一々説明の勞を厭はず喋り抜けるので、一々返事をするのに閉口させられた。

半島の突角はヴ湾の入口を扼して狹い海峽となつて居る。此處は天下の絶景だ、降りて見物しろといふので、雪を踏んで懸崖の上に出ると尖端に眞白な燈臺と測候所がある、氷りついたかと思はれる海の面を三角帆の漁船がすべつて行く、長い〳〵筏が呑氣さうに小さな汽艇に引かれてゆく、小波はうれ〳〵と線を引いて遠く〳〵展られて居る、「對岸の山の尾の狹間に見ゆる遠山は美人の寢て居る姿に似て居るだらう、あれが有名なヴヰナスの山」とさも説明された、山の麓はズーと延びてつい眼の下に海峽を抱いて居る、此靜寂な天然は鳥の聲まで聞かない、折がらボーと強く四圍の寂莫を破つて汽笛が鳴る、湾内を出たエンプレス・オブ・チャイナ號が今や太平洋を横斷する九日の旅に上つたらしい。

夏ならば、夏ならば思ふ儘に見物も出來やう、天下一の絶景もこんなに寒くてはやり切れない、まして自動車には暖爐がない、そこ〳〵に切り上げて半島を一周する。

殷盛な商業街に入り込むとさすがに往來も雜沓してゐる、支那町を抜け、日本人街を辿つてステキもないコンクリートの大橋を右手に望んで、新住宅町へと梶を棒廻す、アスファルトの大道坦々として乘心地は何ともいへぬ、將に入江を辿つて丘の上へと出た頃は住宅の展觀會へでも來た樣な氣がした、英國風の趣味ある住宅の一つとして同じ型がない、石造、煉瓦造、木造の白い家、赤い壁、青い屋根等配合も面白く垣もなく塀もないノビ〳〵した此邸宅地の道路は處によつて曲線を用ひて變化のある設計を示してゐる。

○在留日本人

正午近くなつたので日本人町に引返して下しヴ貰つた。餘分の心付をやつたので喜んで歸つて行つた。これで一巡見物は濟んだ午食をやつてから午後の計畫を立てやうと、例によつて支那料理屋へ飛び込んだ。此地へ來てから西洋料理も鼻につき米の飯が戀しいにつけ御厄介になる處は支那料理に限る樣になつた。

洋服を着た日本人が二人入つて來た、所謂神聖な勞働者諸君だ自分を見て支那人と思つたか尻目に見て隣の席へどつかと腰を据へて一人か。

「兼公！什うだい、こうべらぼうに諸式が高くなつちや、やり切れねへな」

「お互い樣だす、あゝ私はもう日本へ往にたい」

と兼公は嘆聲を漏らして居る。

「お前へ、金は出來たのか」

「お金が出來りあ、さつさと歸りまつさ」

「兼公！氣の弱へ事はいゝつこなしだぜ、俺を見れへ、二十何年居たつて、女房一人養ふ事も出來れへで、プラ〳〵して居るんだ、お前の樣な若造が今からそんなに屁古垂れて見れへこれから幾十年居たつて駄目なこんだ、シッカりしれへ、十年ミッシり働いたら、御天道樣もどうにかして下さると思ひれへ」

「だからさ、お前さんにさう云はれる度毎に氣を取り直して見る樣なものゝ、やれ排日、それ排日！考へて見るといやになりまつさ」

「兼公！これも時勢だと思ひれへ、俺達が來た時にあ、何處へいつても働きさへしりあ金になつたんだがれ、その代りにあ遊び過ぎて此始末か、御互に身体が大切だぜ」

「其通り、其通りだす・日本へ歸つてもやつぱり私達は私達丈の働しか出來ませんや、こんな所でもな一生働いて食ふて死ぬんやと考へ直して見りあ、氣も樂になりやす」

「その事、その事、その内には又面白い事もあるうちやないか」

自分はこんな所でこんな會話を聞かうとは思ひ設けなんだ。

午餐を終へてから歸路は什うしやうかと考へたが又夜の十二時迄又此町に居るのもいやになつた、一つは氣のくだびれもあつたが、も一つは午後の一時頃市役所を訪問したと思ひたまへ、煉瓦造の古い建物の長廊下でウロ〳〵して居る處へ、一人の紳士が二階から降りて來た、建築監督官の居られる室は何處でせうかと聞いた時、チロリと自分を睨んだ此紳士は聲高く。

「サタデー・アフターヌーン」ー

と叫んだ。

不意を喰つてオヤツと思つた時には紳士は支關の大扉を排して出て行つた。成程考へて見ると土曜日の午後だ、土曜日の午後には相違ないが、何のために吐鳴つたのだらうと考へたが解らないそこで二階へ驅け上つて揭示板を見たら成程執務時間は土曜日は午前丈である。

ガランとした市役所へ出て愈々シャトルに歸りたくなつた。あの紳士は俺を支那人と間違へてゐるんだ。同胞にさへ支那人と思はれるからは無理もないが、自分は餘程支那人らしい處があるに相違ない。頭の髮も大分延びてゐる。これから氣張らしに理髮店に行つて鏡に相談しやうと考へた。

日本人町へ來て吉野理髮店と漢字で書いた看板を見て飛び込んだ。店は小さな粗末なものが、なまじ毛唐人の店へ入り込んで氣を張るのも強腹だからと思つた爲である。職人は二人共婦人であつた。

「姉さん違は御國は何處だれ」
と聞くと。
「廣島ですよ、此邊には廣島の方が多いのですよ、芳ちやんは岡山でしたれ」
「姉さん私は岡山ぢあないわ笠岡よ」
「さうそ笠岡でしたれ、何んでも岡が付くと思ひましたら、岡違いれほゝゝ」
と姉さんは笑つた。
「此頃は此邊でも排日問題でやかましいさうだれ」
「さうですよ、私達にはよく解りませんが、何んでも領事館の御役人樣が大變心配して居られるさうですよ、何にれいくら排日だ〳〵といふても、私達がチヤンとした洋裝をして自分の働く丈の事を働いて居たら　別にむづかしい事もないんですよ、若し日本人が此處に居ちあいけないのなら、支那人もいけない譯ですよ、支那人だつて日本人だつて皆チヤント相當な仕事をして居る以上はなに西洋人が騷いだとて恐るには當りませんわ、一体排日だといつて騷いでゐるのは西洋人より日本人の方が神經過敏になつて居る爲かもしれませんわ」
姉さんは堂々たる氣焰を吐いた、しかも中々落付いてゐる、なま中先の男達の話よりしつかりしたものだ、日本婦人の偉い所はこんな處にも現はれてゐる樣に思つた。
「姉さん龍美座の忠臣藏はもう濟んだの」
「にゝ昨晩が確かに落でしたよ」
「しまつた、私行きたい〳〵と思つて居たに」
「芳ちやん、およしよ、あんなつまらない芝居んか見て何か面白いの」
芳ちやんは別に之に返辭をしなかつた、一生懸命に新聞の三面記事を讀んで居る。
「シヤトルへ行く汽車は何處から出るんだれ」
「さあ私よく知りませんわ、なんでもユニオン・デポーへ行かれたら解りませう、あすこには日本人の赤帽さんが居ますから聞いて御覽なさい」
「さうかい、それは都合がよい、さうしやう」
と答へながら考へて見ると此連中は住めば都の此日本人町を唯一の天地として悠然として、其日を送つて居るのだ、此地へ來るにも若い身空で隨分と苦心をして來たのだらう、が何時歸國するといふ考へより働く丈働いて、命をためて然る後に行動を考へるのだらう。
從つてこんな日本人町がもつと大きく根を据ゑて各所に出來たら第二の日本人國が北米の天地にも出來る譯だ。考へて見ると日本の女は思つたより大きな仕事を知らぬ間に成就して居るなと思つた。

＊　＊　＊　＊　＊

此の日午後の四時自分はユニオンデポー發の汽車に乘り込んで海岸線に沿ふた森林の間を拔けそれでも無事に旅行を終へて夜の十一時頃にシヤトルに歸る事が出來た。



藻苑

小品文募集

子供

大阪　春木不染

「そんなに泣くものじやありません、元日から泣くと一年中泣き暮さればなりませんよ」

と今しも街路から泣いて歸つた末雄を妻は頬に瞳しながら、泪と水洟でベト〳〵になつた顔を拭いてやつてゐる。すると兄の次雄は母の肩を輕く叩き乍ら

「お母ちやん」と顔をさしのぞいて

「正月に泣くと一年中泣くの」と不思議さうに訊いた。

「さう一年中泣かんならんよ」何氣なく妻は答へると、次雄は。

「お母ちやんがよく叱るのはお正月に叱るさかいか」とこの奇拔な言葉に僕も妻も「ハヽヽヽ」と不思笑ひころげると次雄も末雄も妙な貝・してこの笑ふさまを見てゐたが「何が可笑しいの」と兄の方が訊いた。末雄は「キヤ〳〵」と妙な笑ひ聲を出して母の膝中に縋りついた。

靜寂

大阪　澤田天來

床の福壽草に障子越しに淡い朝の陽がさしてゐる。年賀客が去つたあとは一入靜かで、そこに轉ががつてゐる手鞠の上に少さな埃がフワリと落ちてゆくのも見える。

カサ〳〵と音がしたのでフト庭の方を見ると手水鉢の上に垂れた赤い南天の實に雀が下りたのであつた。火鉢の桐炭が微かな音をたてゐる。

師走

大阪　後藤秋聲

「どうや儲かるか」


憲政会
普選問題
普選問題
普選問題
普選問題
普選問題
普選問題
憲政会は
弥次られる
列国猜疑の眼

「イヤあかん」
「チト儲からんといもならんな」
「ウン儲からんとあかん」
平凡な顔をした二人の男が立派なトンビを着てスタ〳〵と師走の町を忙がしさうに歩いてゐつた。

霜の朝

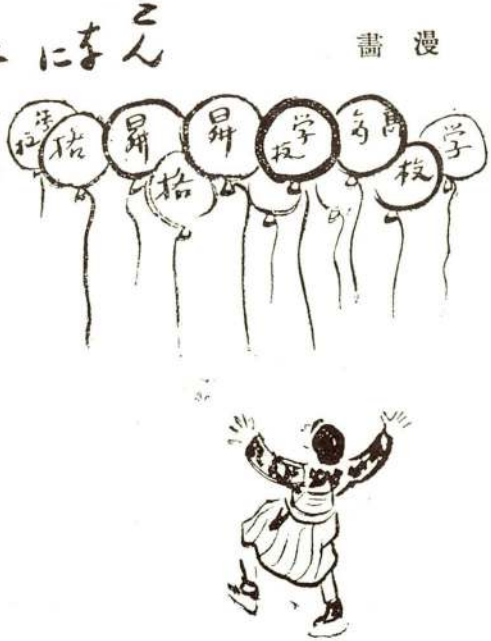
新津無外

美術學校の空地へ出ると、霜げた原の方からひよつこり蹙が出て來た。かちかんだ兩手へ下駄を穿いて、疣蛙の樣な顏と姿をした異形な容子は、滑稽と見るべく餘りに悲慘だ、赤く爛れた眼頭から鈍く光つたものをにじませ乍ら、彼は一とし きり私を見入つて、又カタコトと膝行つて行く、私は杖を借らねばならぬ不自由な自分を顧つゝ彼と我との間に存する僅かなけじめを思ふて暗憺とした。

短歌

『安江不空選』

漫畫



職に立ちて

夕村暮人

□あをうみのいろをこのみしきみをしぬびわれこのいそにたちてうごかす
□かなしきふみももらせしあとはおほいなるなやみひろごるいわかくれば
□おほかたのひとうさましくはなれきぬいちにんのなをこひざらめやも
□そうがいのいろにしたしみきみもひつくれゆくあきを


人の為に
官を設く
本内閣

びしみにけり

日記抄

玉川利子

□たのおもはあさぎりふかしおんがいのともしびいくつまたゝけるみゆ

□ゆうやけのしんくのくものみるがうちにくらみゆくまゝわがもひさびしも

○

道廣先郎

□あめつちものみなきみとわれのためなきぬるゝらしくぐれのふまひ

未枯蘆原

茅上眞人

□いちにちのつかれかなしくかへりくるすがれあしはらゆふかぜわたる

□さらさらとさむかぜさやぐはらのみちけふこのごろはすがれたるかも

□ゆふがぜにすがれあしはらなびくなべいへのともびゆらぎつゝみゆ

□ゆふまけていよいよつのるさむかぜをおもにうけつゝいへぢにいしぐも

ペンの走るまゝ（一）

蘆田秋双

世人は概して古人の句と云へば名句のやうに心得てゐるが決してそんなものではない、臨分佳句もあるが又甚しく悪い句もある、百年も二百年も前の時代の句を今日から批判するのは全くそれ等の人々に對して氣の毒であるかもしれぬが、手當り次第俎上に上せて論評を試みる事とする。

元日の見るものにせん富士の山　宗鑑

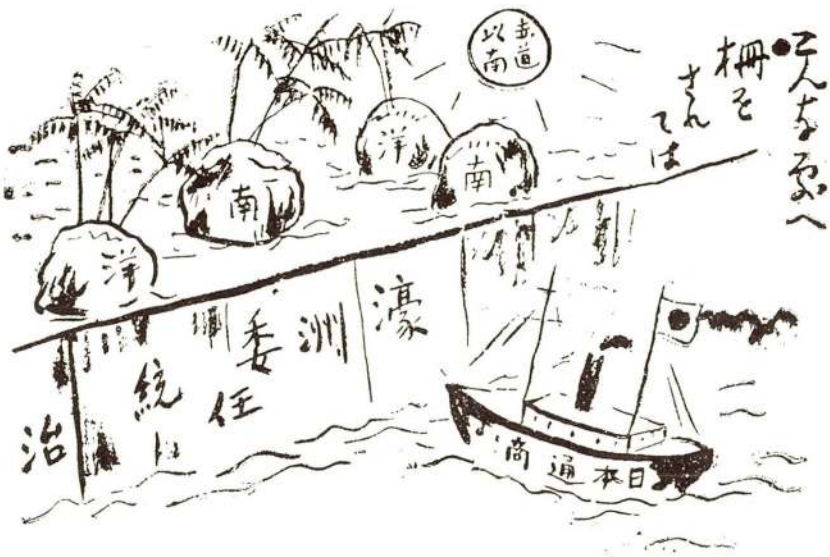
富士山は古來我國では靈峰と稱へて芽出度いものにしてゐるから、この芽出度い元日に芽出度い富士を見やうといふのであるが、芽出度いものに芽出度いものを配伍した爲めに、却つて平凡に陷つて何の興も惹起さない事になつて了ふ。

元日やされば野川の水の音　來山

いつも聞なれてゐる野川の水音も元日となれば何んだか物新しくその水聲にも慶喜の情が漂つてゐるかの如く聞きなされる。この（されば）といふ字句が非常の働きをなしてゐるのであるが、それがいかにも殊更らしくて一種の厭味を感じる。

元日や草の戸越の麥畠　召波

ほの〴〵と夜の明けかゝつた田舍の元日の物靜かさはいかにも心を新たにしてゆつたりした氣分に蘇らした。雞の類に鳴く。壁所からは雜煮の餅焼くが匂ひする。初日がさつと松の木の間からさして來たので、カラリと戸を明けるとそよと吹く初東風は神棚の灯を瞬きさせた。二三寸延び色た麥畑はすが〴〵しい色を、鮮やかに晴れた空の色にびつたりとけあつて見渡す限りに靑々とその生氣を誇つてゐるこの三句を比較すると宗鑑の句は全然主觀の句で見るもの


赤道以南
南洋
南洋
濠洲
委任統治
日本通商


国際聯盟
米
日
米

にせんといふ丈で、富士そのものが眼前に實現されてゐない。それから見ると、來山の句は野川の水聲を作者が親しく耳にしつゝ元日を迎へた、そこに、去年今年の心のあらだまつた感じを表現したので、全じ主觀の句と云つても野川そのものゝ景色が出てゐる、換言すれば自己の主觀を通した客觀句と言ひ得やう。

それに對して召波の句は前二句と全然異つて純客觀句である。

こゝで一言したいのは、主觀句が悪くて客觀句がよいといふのでは決してない。

偶々こゝに擧げた句が悪かつたので、主觀的の句の中にも。

元朝や神代の事も思はるゝ　　守武

といふやうな名句もあるのである、この句は別に說明を要する迄もなく、元朝のあらたかな心になつて一種の神々しさを感じた時に今の世ですらこんなであるに神代の時は一體どんなにあつたであらうかといふのでいかにも元朝らしい氣分がよく表現されてゐる。

要するに主觀的の句は初心者には取扱ひ難く、假令それをものにしても十中の八九は失敗に歸するから、初心の間は客觀句即ち純寫生の句を作る事が安全である。

× × × × ×

募集俳句

新年雜詠

蘆田秋双選

門松の前に電車はとまりけり　春歩
初雞に眠くなき目の子供かな　霜聲
神棚に餅ひく音や嫁が君　清子
學校と役場と並び松飾　千枝女
大戸おろす店に初雞鳴きにけり　同
初雞に我は目覺めてありにけり　香魚
門松や小さき我家に醉ふて戻りけり　同
監獄の硝子障子に初日かな　朝光
初賣の店に電報届きけり　同
元日に叱がられてゐる子供かな　紫山
元日に財布落して戻りけり　同
洋館の鎖してありぬ松飾　北泉
初賣や店に供へし鏡餅　同
門松に泥はね上げし車かな　同
門松に雫凍りてありにけり　王者香
早起の子に皆起きぬ初烏　同
門松やくゞり戸開いてありにけり　同
門松に街の埃もなかりけり　同
門松の砂の濕りに初日がな　同
初日の出大湖を前に住ひけり　同



兒の一人二人が起きて雜煮かな　醉紅
下戸の父上戸の兄の雜煮かな　同
厄年の夫婦でありぬ初詣　同
もやい居る舟に輪飾吹かれゐる　同
初雞に社明けゆく大旦　同
初日浴びて雞は大きく羽叩きぬ　同
初空に殿々として神鼓かな　菊雄
筑紫より鷺齎しし今朝の春　同
華かな電話の主や女正月　同
初春の御座數にゆく雞妓かな　同
元日を投扇興に遊びけり　同
初風呂に裸で申す御慶かな　同
初風の晴れたる島の鷗かな　井雨
初風の松靜かなる寂邊かな　同
神棚の燈の明るさに雜煮かな　同
ほの〳〵と障子明けゆく雜煮かな　同
羽子板や芝生の上の足袋はだし　同
遣羽子に車のしげき日なりけり　同
妙見堂の太鼓響くや初明り　木羊
龍吐水氷柱となりて初日かな　同
雜煮喰ふ我は正座に居たりけり　同
花角力の手拭配る松の内　同
盆栽の梅を咲かして禮場かな　同
大門は早や開かれぬ初烏　同
門松に微醉の袖を裂かれけり　同
幕目に轍殘りて初日かな　同
裏方來て初日を拜む宮居かな　同
神の井に口を漱ぐや初明り　同
三十にして未だ妻なく雜煮かな　曉天
故郷の雪思ひつゝ雜煮かな　同
近々に嫁入る妹と雜煮かな　同
初烏山より明けて日の匂ひ　同
初烏森ひゞかせて鳴きにけり　同
煙なき今日の都や初日の出　同
比良山は雪となりけり初日の出　同
あてもなく元日の町歩きけり　同
初空にひゞく營所の喇叭かな　同
白紛の匂ひ漂る初湯かな　同
大江戸は火の見が高し初日の出　青耳
海見ゆる丘に初日を拜みけり　同
神棚の灯に湯氣あがる雜煮かな　同
塗椀に燭の灯明き雜煮かな　同
神の杉初空に黑く聳けり　同
地に太き鳥居の影や初日の出　同
初空に擂んで、高き鳥居かな　同
拍手の杉に谺や初明り　同
玉垣に消ゆく雫や初明り　同
門松の影がのびたる格子かな　同

門松や打水足りし門構　同
初雞や灯を消せば窓白みある　同
故郷へ妻歸して淋し松の内　無外
思ひ出の妻若かりき歌かるた　同
喰積のなか〳〵減らず妻居らで　同
お國振の餅花飾る隣家かな　同
初刷に思ひも寄らぬ我句かな　同
庭に落ちし凧もめでたし松の内　同
年禮や近衛兵となりし甥來る　同
元日の炬燵に居れば老母の事　同
遣羽子や流行とは云へ重き髷　同
教へ子の巡査となつて年賀かな　同
太々と松描きたる吉書かな　同
キャラメルに眼外らさぬ子や繪双六　同
雜煮餅喰ふや干菜湯の腰湯して　同
年々に賀狀減り來る我家哉　放（病）
北海の雲たゞならぬ初日かな　同
裏富士の影地に消えて初日かな　同
元日を語る人なく炬燵かな　同
病臥たゞ讀經する年始かな　同
目に觸るゝ物皆古く寢正月　同
初刷の新聞の香に慰まる　同
元日も去年のまゝなる炬燵かな　同
病み臥せどなほ惜しき日や松の内　同

追羽子の昔なつかしき病む身かな　同
涙して去年の炬燵に屠蘇くみぬ　同
身を病みて動けねばこそ寢正月　同
元日を入れ忘れたる國旗かな　同
南天の雪をちらしぬ初雀　坡水
鳥追に午後から雪が降り初めぬ　同
凧し海初日の白帆重ねけり　同
事務室に初日の影が及びけり　同
宮鳩に初日の影がありにけり　同
騎すてし馬は社頭に初詣　同
分家する時貰ひし臼も飾りけり　同
鍬初の土の子となる力かな　同
若水や南天の風に星明し　同
井華水底深き闇のぞきけり　同
若水に靜けき闇の釣瓶哉　同
山うつす若水の香に居たりけり　同
夜の部屋の隅々手毬ころがりぬ　同
病む母に障子の外の羽子の音　同
遣羽子の淋しき町は兵舍哉　同
雪の庭明けてあかるき雜煮哉　同
朝日さす雜煮の家となりにけり　同
飾白の柑子落しぬ嫁が君　同
初凧や島はどこから明けて來る　同

地に太き鳥居の影や初日の出

地

目に觸るゝ物皆古し寢正月

天

元日を叱られてゐる子供かな

選者險

初雞のあと靜かさやものゝ音

門松に埃をあげて電車かな

町中は烏も鳴かず初日かな

初東風に寢足らぬ身を吹かれゐる

青耳

放郎

紫山



次號課題

○屋根（春季結）

○締切　大正十年一月十五日

○句數制限なし

○投稿所

大阪市北區東梅枝町

蘆田秋双



「時報」

法令

◉道路工事施行令

（大正九年十一月内務省令第三十六號）

第一條　道路工事執行ノ方法ハ直營及請負トス

第二條　左ニ揭クル場合ニ於テハ直營ト爲スヘシ

一　請負ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ請負ニ付スルノ暇ナキトキ

三　請負契約ヲ締結スルコト能ハサルトキ

四　特ニ直營ト爲スノ必要アリト認ムルトキ

第三條　請負ニ付セムトスルトキハ一般競爭入札ニ付スヘシ

第四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ三名以上ヲ指名シ競爭入札ニ付スルコトヲ得

一　一般競爭入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ一般競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

三　一般競爭入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ

四　特ニ指名競爭入札ニ付スルノ必要アリト認ムルトキ

第五條　左ニ揭クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　競爭入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

三　競爭入札ニ付スルモ人札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ

四　豫定價格國道、府縣道、地方費道又ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ市道ニ在リテハ二千圓未滿郡道、準地方費道、道路法第十七條但書ノ規定ニ依ラサル市ノ市道又ハ道區ニ在リテハ千圓未滿町村道ニ在リテハ五百圓未滿ナルトキ

五　競爭入札ニ付スルコト能ハサルトキ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ入札人若ハ請負人又ハ其ノ代理人トナルコトヲ得ス

一　無能力者

二　破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

五　貴付又ハ保釋中ノ者

六　入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサル者

道路管理者ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市區町村ト請負契約ヲ締結スルコトヲ得ス

第七條　一般競爭入札ハ入札期日ヨリ五日前入札ニ必要ナル事項ヲ公告スヘシ

第八條　入札人ハ左ニ揭クル要件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル學識經驗ヲ有スル技術者ヲシテ工事ヲ擔當セシムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一　引續キ二年以上土木請負業ニ從事スルコト

二　其ノ他地方長官ノ定ムル要件

第九條　入札ヲ爲サムトスル者ハ入札金額ノ百分ノ三以上ノ入札保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競爭入札又ハ豫定價格二千圓未滿ノ工事ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ之ヲ無效トス

一　本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ道路管理者ノ定ムル入札條件ニ違反シタルトキ

二　入札人又ハ其ノ代理人二以上ノ入札ヲ爲シタルトキ

三　入札人協定シテ入札ヲ爲シタルトキ

四　入札ニ際シ不正ノ行爲アリタルトキ

第十一條　入札人中豫定價格以內ニシテ豫定價格ノ三分二ヲ下ラサル最低價格ノ入札ヲ爲シタル者ヲ以テ落札人トス但シ設計附入札ニ在リテハ設計及入札金額ニ依リ落札人ヲ定ム

同一ノ入札アリタルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

落札人ナキトキハ直ニ再入札ニ付スルコトヲ得

第十二條　落札人ハ落札ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ道路管理者ト請負契約ヲ締結シ契約書ヲ作成スヘシ

落札人前項ノ期間內ニ請負契約ヲ締結セサルトキハ落札ハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條　請負人ハ請負金額ノ百分ノ十以上ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競爭入札又ハ隨意契約ノ方法ニ依リ請負契約ヲ締結スル場合ニ在リテハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十四條　入札保證金及契約保證金ハ國債證券、地方債證券、勸業債券、農工債券拓殖債券、興業債券其ノ他道路管理者ニ於テ適當ト認ムル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ國債證券ハ其ノ額面金額ニ依リ其ノ他ハ該地方ニ於ケル前月市場價格ノ十分八ヲ以テ之ヲ換算ス

第十五條　入札保證金ハ入札終了後之ヲ還付ス但シ落札人ニ對シテハ契約保證金納付ノ際之ヲ還付ス

契約保證金ハ工事完成後之ヲ還付ス但シ契約ニ依リ擔保義務終了迄其ノ全部又ハ一部ヲ保留スルコトヲ得

第十六條　請負人ハ道路管理者ノ承諾ヲ得

スシテ工事ノ執行ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス

第十七條　請負人ハ工事ノ執行ニ付道路管理者ノ指揮監督ニ從フヘシ

第十八條　請負人ハ工事竣功シタルトキ道路管理者ノ檢查ヲ受クヘシ

第十九條　請負人天災事變其ノ他正當ノ事由ニ依リ契約期間內ニ工事ヲ竣功スルコト能ハサルトキハ道路管理者ニ期間ノ延長ヲ求ムルコトヲ得

第二十條　契約期間內ニ工事ヲ竣功セサルトキハ遲延日數一日ニ付請負金額千分一ノ違約金ヲ徵收ス

前項ノ違約金ハ請負金額中ヨリ之ヲ控除ス

第二十一條　左ニ揭クル場合ニ於テハ道路管理者ハ契約ヲ解除スルコトヲ得

一　契約期間內ニ工事竣功ノ見込ナキトキ

二　工事ノ執行ニ付不正ノ行爲アリタルトキ

三　正當ノ事由ナクシテ管理者ノ指揮監督ニ從ハサルトキ

四　本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ契約ニ違反シタルトキ

第二十二條　前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキ工事ノ既成部分ニ對シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ交付ス契約無效ノ場合亦同シ

第二十三條　入札ニ付不正ノ行爲アリタルトキ又ハ第十二條第二項ノ規定ニ依リ落札其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ入札保證金ヲ沒收ス

第二十一條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ヲ沒收ス請負人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ契約無效トナリタル場合亦同シ

前二項ノ規定ニ依リ沒收シタル保證金ハ道路管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

第二十四條　道路管理者ハ請負人ニ對シ工事ノ出來形ニ相當スル金額ノ十分八以內ノ假拂ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　本令ニ規定セサル事項ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條　道路法第十八條第二項ノ規定ニ依ル管理者竝道路管理者ニ非サル者ニ於テ工事ヲ執行スル場合及北海道拓殖費ヲ以テ工事ヲ執行スル場合ハ本令ヲ適用セス

第二十七條　本令ハ工事ニ要スル物件ノ購入、借入又ハ勞力供給ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正八年四月十一日公布法律第五十八號道路法抄錄

第十七條　國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市內ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第十八條第二項

道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス

第三十一條　道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

都市計畫

◉都市計畫宣傳

都市計畫宣傳の一方法として不整頓なる都市の實狀を知悉せしめんが爲め上田大阪市技師橋本大阪市民博物館技師は去る頃寫眞技士兩三名を伴ひ市內道路の狹隘にして而も交通最も多き四ツ橋等十三箇所に於ける雜沓の狀を活動寫眞のフイルムに撮影せるが右フイルムは都市計畫を實施せる歐米各都市の寫眞と共に各種團體の需めに應じて觀覽せしむべしと。

◉近畿大公園案發表

大阪府都市計畫課は「大阪を中心とせる近畿大公園計畫案」なるものを發表した、その內容を擧げて見ると先づ大阪を中心として南は和歌の浦－高野山－金剛山、東は吉野山－奈良大和一帶、北は京都－琵琶湖一帶西は六甲－摩耶－明石から淡路島に及ぶ一大聯環線である、そして此の中に關西にある總ての名所舊蹟を包含さし以て日本の國粹美を發揮しやうとするのであると、これが實現の捷徑として先づ公園地帶の交通機關の完備を圖り、名地間を巧に連絡し名所遊園地を一定の方針の下に整理して統一ある遊覽系統を作成しやうと云ふのである今此の大公園の系統に屬する公園候補地を指定すると約一百有餘箇所になるが便宜上左の五系統に分ち以て第一次計畫としてゐる。

一奈良を中心とするもの　奈良公園、笠置遊園、月ヶ瀨遊園、龍田遊園、多武峰遊園、大臺ヶ原遊園、吉野山遊園地等

二京都を中心とするもの　岡崎公園、東山遊園、下鴨公園、嵐山遊園、宇治遊園、琵琶湖遊園地等。

三神戸を中心とするもの　湊川公園、諏訪山公園、須磨遊園、明石遊園、淡路島遊園、六甲山遊園、有馬遊園、寶塚遊園地等。

四和歌山を中心とするもの　竹垣城公園、和歌の浦遊園、紀三井寺遊園、淡輪遊園粉河寺遊園、高野山遊園、淡路洲本遊園地等。

五大阪を中心とするもの　中之島公園、天王寺公園、住吉公園、濱寺公園、大濱公園、箕面公園、(以下新設の公園)、新淀川吹田山、勝尾寺、生駒山、大阪城、玉手山、大和川、股ヶ池、聖天山、狹山、長野、烏帽子山、赤坂城、富田林、金剛山等以上の既設及び新設の公園又は遊園地間を容易に廻遊するの設備として汽車、汽船、電車、自動車、飛行機等有ゆる交通機關を設備し尙所々に病院、和洋旅館を設け本邦唯一の大公園にする筈である、而して京都及び神戸を中心とする公園系統は既に兩市の都市計畫委員會でそれ〳〵具體案を設計中で南方の公園系統に就いては既に原農學博士の詳細なる計畫書が作成されて居り且つ其額も算出されて費用さへあれば何時でも着手する事が出來る段取りとなつてゐるといふことである。

◉都市財源閑地稅

內務省にては現在の社會局に屬する都市計畫課を擴張して獨立の一局と爲し諸般の新施設を試むる筈なりしも蹇の豫算閣議にて大削減に遇ひ十年度に於ては僅に建築監督官として專任技師三名、判任官二十五六名を增員するに過ぎざることゝなりたるが斯くては都市計畫遂行上遺憾尠からざるを以て都市計畫遂行財源として都市計畫法第六條第四項に依り差當り六大都市に閑地稅

を課せんとの議がある目下課稅率に就き大藏當局と交涉中にて決定次第勅令の公布を見るべく六大都市以外の都市にも漸次該計畫法が施行せらるゝに至らば右稅法の適用せらるゝとの事である。

◉社會事業調査會

內務大臣を會長とし大藏、農商務其他各省大臣の諮問機關たるべき社會事業調査會官制は既に脫稿し調査會員の詮衡も濟み此程內務大臣の決裁を得て御裁可を得次第近日中に官制を一括して發表さるべく年內に一回くらゐ開會の豫定との事、官制內容は廣く社會的施設一般に關し積極的調査を行ふにありて內務大臣を會長とし內務省は勿論關係各省の諮問に答申し且つ建議權をも附與さるゝものなるが調査事項に就いては目下調査整理中にて近く決定を見んとせる職業紹介所も國庫補助案の如き名稱にて一應該會に諮問さるやも知れずとの事である

◉借家借地法提出

司法省では特別議會に提出の運びに至らなかつた借家權借地權法を事る四十四議會に提出する筈に決定し兩法に就いては修正を加へ右完成の上法制局に廻附今議會に提案するとの。

◉都市の消防施設

人口數の增加と共に各地方共火災が頻出するので內務省では今回第一回六大都市消防講習會を警察講習所に開く事となつたので先頃各府縣よりは消防部長警部曹長一般消防手出張會議を催せるが各都市の消防は警視廳に倣ひ水火災警戒防禦に適當なる器具の設備をすることゝなり水災には網、錨梯子、鋸、鑿、槌、鉄力神樂機、浮袋、提灯、起重機、携帶電話器等を備へ水災に際し最も警備を要する小船等は危險なる場合民間より容易に多數の小船を徵發し得るやう適當の方法を講じ置く事とした。また湯屋鍛冶職業をして火防組合を組織せしめ又一般民衆に對しては火災の豫防觀念を徹底的に普及する爲め活動寫眞辻ビラ等を以て宣傳する外大阪に於て好成績を擧げたのに鑑み小中學生徒を通じて各家庭に宣傳する筈で文部省と打合せ唱歌等に作つて小學生徒に歌はせてはと目下攻究中である。

◉大阪府の死亡統計

大阪府最近の調査に依れば管內大正八年中現住死亡者の總數は七萬五千九百四十人にして前年に比し三三、七一パーセントの增率を示し現住者男千人に付二十五人七分九厘、女二十七人五厘に該當し前年に比し前者は六人一分二厘、後者は五人三六の增加を來せり今死亡原因の如何に依り分類觀察すれば傳染性病の前年に比し二、五三パーセントの低率を示せる以外何れも增加の率を昂騰せしめざるはなし即ち呼吸器病に屬する死亡割合の總死亡者千人に對し前年一五七、三二パーセントなりしもの二一六七四パーセントに增率して八四、二一パーセントを增加し之に亞ぐものを其他に屬するものとし一八七、四二パーセントを示し前年に比し六九、一六パーセントを增加す第三位は消化器病にして前年に比し三四、四二パーセントを增加し次は神經系病にして八、二三パーセントの增率にして其實數左の如し。

	男	女	計
傳染	三、〇四一	二、三七六	五、四一七
結核	三、七三〇	四、三四七	八、〇七七
神經	四、一三三	三、五七四	七、六九六
呼吸	八、六二一	七、八三八	一六、四五九

消化	四、四四三	四、六四八	九、〇九一
泌尿	一、七四七	二、二〇三	三、九五〇
其他	一三、七六九	一一、四八一	三五、二五〇
總數	二九、四七三	三六、四六七	七五、九四〇

前表實數に對し病類系統に因る死亡者を各年齢階級に分ち現住者千に對する死亡の割合を觀れば各階級を通じて前年の事實に比し何れも驚くべき高率を示せり即ち其總數に於て男六人一分二厘、女五人三分六厘の增率にして殊に寒心に堪へざるは二十歳以上二十五歳未滿の各階級の男女共に何れも倍加せる高率を示せるの事實なりとす更に仔細に觀察すれば五歳未滿に於ける男一〇一、〇五女九三〇一にして各階級の最高を示せるは國民元氣、國力充實上に最も痛心すべき點なり五歳以上十歳未滿及十歳以上十五歳未滿の兩階級は男女共に比較的低率を示せるは卿か意を強ふするに足るべきも十五歳以上二十歳未滿及二十歳以上二十五歳未滿の兩階級即ち青年の元氣潑溂たる階級は急轉して十歳以上十五歳未滿の階級に比し二倍強の高率を示せるは是保險衛生に關する社會的施設の上に何等かの缺陷あるを語るものに非ざるなきか二十五歳以上三十歳未滿の階級より四十歳以上四十五歳未滿に至る各階級は五歳以上十歳未滿階級の水平線より殆ど坦々として常軌と思考せるも線に不即不離の道程を辿れり四十五歳以上五十歳未滿の階級より年齢不詳に至る各階級は其年齢の順次上るに從ひ男女共に其率の高きを示せるは所謂年と共に衰ふる自然的現象と云ふべし而して五歳以上十歳未滿の階級より四十歳以上四十五歳未滿の階級に至る兩性の死亡率を對比すれば大體に於て男子に比し女子の死亡高率を示せるは頗る憂慮すべきものと云ふべし其他の階級に於ては概して男子に比し女子の低率を示せるを觀るも尙總數の上に現はれし死亡率は男に比し女は一、二六人の高率を示せり。

國勢

◉國勢調査成績發表

本邦空前の大計畫であつた第一回國勢調査の成績が愈々十二月十八日午後四時國勢院から發表され右に就き小川總裁は曰く。

「十月一日午前一時を以て全國一般に行はれた國勢調査は其當時各市町村長其他實地調査の責任者が申告書に基いて調製した要計表を基礎として全國各府縣の世帶數と男女人口數を調べ上げ各府縣の熱心なる努力に依り要計表か豫定より早く到着したので調査期日から百日を出ぬ十八日概要を發表する事が出來た之は歐米各國にも例のない事で米國は本年一月に執行したに係はらず十月になつて概數の發表を行ひ獨逸は尙遲く昨年十月に遂行したにも拘らず其發表は最近行はれたのは局に當る者に取て非常に喜ばしい次第である、第一回國勢調査の結果なる大正九年十月一日現在の人口總數は即ち五千五百九十六萬千百四十人で米國の一億五百六十八萬三千百八人(本年一月調)獨逸の五千九百六十六萬七千九百二十九人(昨年十月八日調)に比し既往の事實に鑑み國調を施行せる文明國中此二國に亞いでの人口の多い國である。而して人口の密度を算出すれば一方里二千二百三十九人で白耳義英國和蘭の三國に續いて稠密なる國である是を男女別に見れば男二千八百四萬二千九百九十五人、女二千七百九十一萬八千百四十五人で男が僅に多い各府縣の人口は廣

表の同じくない爲め各府縣とも同じでないか東京府の三百萬以上を首位に大阪府、北海道、兵庫、愛知三縣の二百萬以上、百萬以上では新潟外十九府縣七十萬以上は山形外九縣五十萬以上は香川外九縣で鳥取縣は五十萬以下で最も少い人口密度は東京府の一方里二萬六千七百六十二人大阪府の二萬二千四百八人福岡縣の一萬三千八百九人で最も多く鹿手縣の八百五十六人北海道の三百九十四人が最小である男女の權衡は東京外十二府縣には男多く男女の割合の略等しいものは靜岡岐阜山口の三縣で男の最も多いのは東京府北海道の女百に對する男百十二又女の最も多いのは滋賀鹿兒島沖繩の女百に對する男九十三の割である大都市中鑛山拓殖地、兵營所在地、商工業の盛な處に男多く工場の多い處には女が多い、出稼行商の盛な處では女の殘留者が多い爲めである今回調査の概數と大正七年末の公簿に依る調査の結果と對照すれば現在人口は本籍人口から七十萬六千百八十八人少く現住人口から二百十二萬六千百卅七人少い本籍人口より現在人口の少いのは殖民地及び外國に在留する者が多いからである現住人口より現在人口の少いは戸籍寄留等が公簿上に重複に記載されてゐるからである、今回の調査の結果大正七年末の現住人口より增加したのは北海道の十八萬福岡縣の七萬五千宮城縣の七千神奈川縣の八百であるが之は拓殖工業等の關係であると公簿の比較的整理が行屆いてゐたにも依る其他の三府四十縣は何れも減少してゐるが就中大阪府は最も激しく三十萬六百減じてゐる之は要するに公簿に依る調査の誤謬が多かつたと見るより外に途がない。各都市中人口の多いは東京市で二百十七萬三千百六十二人、大正七年末調の現住人口より約十九萬を減じてゐる、大阪市が第二位で百二十五萬二千九百七十二人で大正七年末より約三十九萬減じ、神戸市は七年末まで第四位であつたが今度は一萬五千九百二人を增した六十萬八千六百二十八人で第三位の京都より拔けた京都市は七萬九千五十二人減の五十九萬千三百五人で第四位となつた第五位第六位も位置轉倒して名古屋市が第五位となり人口四十二萬九千九百九十人、橫濱市は僅かの差で第六位に下り人口四十二萬二千九百四十二人を數へる長崎、廣島、函館、吳、金澤仙臺、小樽、札幌、鹿兒島、八幡の十市區中札幌、鹿兒島、八幡は今回初めて、十萬以上の大都市の列に入つたが佐世保市は今迄十萬以上の都會であつたが今回の調査でさうでないことが判つた今歐米各國の總人口に對する大都市(人口十萬以上の地)の比例を見るに英國は總人口の約百分の三十八に當り和蘭及び米國は約二十二、獨逸及白耳義は共に約二十一、佛國は約十五、伊太利は約十二で我國の都會集中趨勢は伊太利の班に入らうとしてゐる前記の十六大市區の人口總數の男女別は男三百五十七萬六千八百五十五人女は三百十七萬五千九百一人で女百に對する男百十二、六二で男の多い事を立派に證明してゐる最後に帝國全版圖の世帶及人口を通算すれば世帶總數は一千五百二十三萬千四百二十五で人口總數は七千七百萬五千五百十人である。

◉人口及世帶表

府縣別	世帶數	總人口	男	女
▲東京	七七一、六二六	三六九九、二八三	一九五二、九八八	一七四六、三一五
▲京都	二七六、八九三	一二八六、九一六	六五一、五八一	六三五、三三五
▲大阪	五六七、〇八九	二五八七、一一六	一三四四、八六三	一二四三、二五三
▲神奈川	二六一、一一六	一三三、三七二	六九二、六六八	六四〇、七〇四
▲兵庫	四九二、四九六	二三〇一、八七五	一一七五、五八一	一一二六、二三五
▲長崎	二三七、七三二	一一三五、七四二	五八三、八三九	五五一、九〇三
▲新潟	三二八、一八〇	一七九六、四五五	八七六、四九七	九〇四、九五八
▲埼玉	三三七、九四三	一四一九、五一六	六四八、一六四	六七八、三五二
▲群馬	一九六、七三八	一〇五二、九四四	五一四、〇九七	五三八、四九七
▲千葉	二九五、一一二	一三三六、一〇八	六五六、九三七	六七九、一七一
▲茨城	二七一、一一三	一三五〇、三三四	六六二、〇八八	六八八、二三六
▲栃木	一九三、六二一	一〇四六、四五八	五一四、二三三	五三二、二三四
▲奈良	一一三、一七八	五六四、六三五	二八〇、三七一	二八八、三五九
▲三重	二三二、〇三一	一〇六九、二七七	五二五、九五九	五四三、三三八
▲愛知	四二八、九五六	二〇八九、七四〇	一〇三三、八三五	一〇五五、九〇七
▲靜岡	二八七、七九六	一五五〇、一六七	七七二、九七六	七七九、一九一
▲山梨	一一四、六七七	五八三、四五五	二九〇、八二三	二九二、六七六
▲滋賀	一四三、四四四	六五一、〇五一	三三、七四三	三三七、〇九二
▲岐阜	二一九、一〇九	一〇七〇、三六六	五四八、三三三	五四三、〇二三
▲長野	三〇二、二八	一六六二、七一五	七六五、七一五	七七八、一二七
▲宮城	一六一、七〇五	九六一、七五五	四八五、二九六	四八八、二一七
▲福島	二四九、三九〇	一三六二、六八九	六七二、三四六	六七六、一〇六
▲巖手	二四四、二八九	八四五、五一〇	四二一、〇八四	四二三、〇二六
▲青森	一二七、六四四	七〇六、四一二	三八一、二三三	三四七、一三〇
▲山形	一六一、二八六	九六八、八八九	四七八、三三〇	四九〇、四六九
▲秋田	一五二、八二五	八九八、四三三	四五三、六六二	四四四、八五〇
▲福井	一二四、八九五	五九九、一五〇	二九三、一七〇	三〇〇、九八〇
▲石川	一五一、七三五	七四七、三五七	三六四、三五六	三八二、九三三
▲富山	一四一、二三八	七〇四、二五八	三五四、七五一	三六九、五〇七
▲鳥取	九一、四七一	四五四、六三三	二二三、七九九	二二一、八七四
▲島根	五七、六五三	二四五、六九九	一三七、九九一	三五九、七三八

市名	世帶數	總人口	男	女
▲東京	四五六、八一〇	二一七三、一六二	一〇〇一、九八二	一一七二、一八〇
▲大阪	二七六、三二一	一三五一、九七一	六七三、六三六	六七八、三三五
▲神戸	一三八、九八六	六〇八、二五八	三〇四、〇三七	三〇四、五二一
▲京都	一二八、九二一	五九一、一〇五	二九〇、二七六	二九一、八二九
▲名古屋	九二、四二六	四二九、九二〇	二一〇、二七六	二一九、六四四
▲橫濱	九五、二四一	四三三、九四二	二二四、〇五〇	二二四、七二二

更に臺灣、樺太、朝鮮の人口總數を表示すれば左の通り

版圖別　世帶數　人口總數　男　女

▲臺灣	六九〇、〇〇〇	三一、〇七	一九四、一四一	一、七六〇、二五七
▲樺太	三五四、三九八	一〇五、七六五	六二、二四一	四三、五二四
▲朝鮮	三一七、二八五	一七二六、一〇五	八九二、一二七	八三六、一四七

上記の領土に內地を合算したるもの即ち帝國版圖內の總世帶數と總人口は左の通りである。

▲世帶數　一五二一四二五

▲總人口　七七〇〇五五一〇　內譯（男　三八九二一、四三七　女　三八〇九三、〇八三



「會報」

編輯

△豫報の通り、愈々本號から亦も表紙圖案を取り替へ、尙ほ本誌の内容に就ても一段の刷新を爲した筈でムいます。雜誌だとか新聞だとかいふものは、申上ぐる迄もなく宣傳が其本能でムいますから、ヨリ多く衆目に觸れるといふ事が大切でムいます、隨つて、今日の如きめまぐるしい程多忙な世の中では、讀まさんとするには、先づ『見せる』事なのでムいます。云ひ換へますれば、『目先きを引く』といふ事に苦心を要します。

△斯る必要から、雜誌の体裁や種々審美的な方法は一層大切な事と存じまして、編輯者は斯の點に少なからず惱むで居ります。まして、一人一人の考や趣味に協ふように する事は、到底、雜誌其もの、質として出來得る事でありませむから、奈何にして普遍的ならしむるや、といふ事も亦編輯者の非常に頭を痛める處なのでムいます。△何は兎もあれ、本誌も既に創刊四年ともなりまして此處まで成育して來たのでムいますから、讀者諸氏殊に會員各位に於ても、どうぞ本年は亦一段と御指導なり又批評なりを遠慮なく御寄せ被下るよう御願ひ致して置きます。

會合

◉理事會

日時　十二月六日午後六時——八時

會場　當事務所

出席者　宗、葛野、吉井、舟橋、池田の各理事

記事　(一)別項の通り新入會員の詮衡。(二)來る改選後の理事會に於て、入會希望者に對する詮衡内規を編成し、然る後、懸案中の問題を決する事、但し、右内規編成には新舊理事參與し、葛野理事之が原案を起草する事(三)佐賀市丸木屋吳服店より依賴に係る同店新館建築工事調査を承諾(四)右調査委員會を組織する事とし、田中綱、波江悌夫、吉木久吉、增田清、光安梶之助の五氏に其委員を囑託する事。

(五)理事長を理事中より互選とし及び理事を十名に增員する事として別項の通り、會則並に細則を變更する事(六)會頭、副會頭の詮衡委員會臨時設置を來る例會に提案する事(七)新歸朝者、大林義雄、竹中藤右衛門、松本禹象諸氏の歡迎會を兼ね十二月三十日夕忘年會を催す事(八)會計係の專任を置く事等を決定す。

◉編輯會議

日時　十二月七日午後六時——九時
會場　當協會事務所
出席者　池田、葛野、波江、江村
記事　本誌一月號より內容外觀共に一大刷新を加ふべく數項の事務を決定す

◉例會

日時　十二月十七日午後六時半——九時
會場　當協會事務所
出席者　池田、葛野、吉井、宗、舟橋、設樂の各理事及中川弘、置鹽章、菱田厚介、永田善次郎、島田貢馨、山脇友三郎、大原忠除、本多二郎、小笠原劍、竹中景一、難波停吉、藤野師樓、久保田繁亮、橫濱勉、杉原茂、橋本勉、新海正綱、大野直平、谷口廉兒、土原原龜之助、瀨戸文吾、金子巴、呼子正、波江悌夫、姫野武、宮嗣克二、森篤次郎、永野房吉、藤井令三、境正一、松木禹象、河合貞一郎、坪井誠一、熊澤榮太郎、伊藤正文、平島末吉、吉木久吉、長田岩次郎、谷民藏、安部萬介、柳下寅、能村知二、鈴木甫、清水榮二、中西甚作、伊藤憲一郎、山口榮作、長野金太郎、平井三郎、小林悉、吉田健治、八尾德太郎、小寺彌一、前田武正、櫟藤要吉、木子七郎、光安梶之助、森正藏、竹平孫一、井上準一郎、宮本金七、竹腰健造、池田宮彦、高堂德治、內藤太郎、片山萬治、田中勳、阪井米吉、山本磯十郎、須川廉太郎、井上貢、佐藤清八、平塚鎗吉、山本辰次郎、原科準平、村上文鄕の諸氏(以上當日の記名票に據る)

記事

(一)宗主記より座長指名を諮り異議なし、仍て瀨戸文吾氏を指名、瀨戸氏座長席に著き挨拶あり(二)宗主記より別項會則並に細則中改廢の件に就き通信決議の結果と、市街地建築物法令に關する講習會の結果を報告(三)會頭、副會頭詮衡委員の選擧を諮る、橫濱勉氏外三氏よりの建議に基き、結局此際詮衡委員五名を理事會に於て指名し、尙ほ今回改選されたる新舊理事之に參與する事と成り、暫時休憩の上再開、理事より橋本勉、木子七郎、大林賢四郎、中西甚作、野村一郎の諸氏を詮衡委員に指名せりとの報告あり(三)更に、宗主記より、佐賀市の丸木屋吳服店建築工事破損に就て、其調査研究を依賴されたる顚末の報告あり(四)定期に依る理事半數改選及び別項所載の會則變更の結果に依る理事增員に就て選擧を行ひ、別項の通り當選(五)市街地建築物法施行細

則中に、建築物最低高度の規定を設くる件に就て討議し、結同當局に建議書を提出すべく其起草委員を設くる事とし、理事の指名による事と成りて暫時休憩の上再開、理事より、波江悌夫・宗兵藏、野村一郎、横濱勉、葛野壯一郎、木子七郎、瀬戸文吾の諸氏を指名せる旨報告あり(六)了つて、瀬戸文吾氏より、東京に於ける木材聯合調査會に就て報告あり。

◉建議書起草委員會

◉建築物破損調査委員會

前項の通り市街地建築物法施行細則中に市街地建築物最低高度の規定を設くるよう當局に建議すべく左の通り建議案の起草委員會を催し、尚ほ之に續いて、別項の丸木屋吳服店建築工事破損に關する調査委員會を催せり。

日　時　十二月二十日午後四時——六時

會　場　大阪市中央公會堂

出席者　(建築案)横濱勉、瀬戸文吾、波江悌夫、葛野壯一郎、宗兵藏、木子七郎の諸氏。

(丸木屋建築調査)增田清、田中綱吉木久吉、波江悌夫の諸氏

◉送迎會兼忘年會

先般歸朝されたる大林義雄、松本禹象、竹中藤右衛門諸氏を歡迎し、尚ほ近く歐洲へ渡航の筈なる橋本商店支配人橋本政雄氏を送別し、兼ねて會員の忘年會を催すべく左の通り擧行せり、但し當日正賓の一人たる橋本政雄氏事故缺席されしは遺憾にてありき。

日　時　十二月二十日午後六時——九時

會　場　大阪市中央公會堂

出席者　正賓、大林茂雄、松本禹象、竹中藤右衛門諸氏の外、池田勘藏、飯田忠三郎、橋本料左衛門、新海正綱、岡本新次郎、大林賢四郎、川崎源熊、吉井長七氏代理波邊、横濱勉、谷民藏、田中綱、宗兵藏中川辰藏、波江悌夫、村井季四郎野澤幸三郎、熊取谷熊次郎、山脇友三郎、松尾和助、池田實、大原忠隆、本多二郎、大屋靈城、葛野壯一郎、片山菊治郎、吉木久吉、瀧山源三郎、內藤太郎、野々山政金、山本辰五郎、山添繁藏、福永金吾、藤村愛貢、鴻池組、有山福重郎、佐藤彰美、阪井米吉、木村梅次郎、木子七郎、光安梶之助、設樂貞雄、錢高組、須賀豐治郎、須賀藤五郎、須川庸太郎、駒井喜兵衛、安藤組、齋藤又吉、木村音右衛門、白杉龜造、瀬戸文吾、平井二郎の諸氏。

會規改廢

通信決議ノ結果會則中並ニ細則中左ノ通リ改廢セリ。

會則第十一條第一項第四號ヲ左ノ通リ改ム

四　理事　十名(理事長タル理事ヲ含ム)

會則第十二條第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加ヘ第二項ヲ削リ第三項ヲ第四項トス。

理事長ハ理事之ヲ互選ス。

役員の任期ハ二年トス但シ理事長ニ付テハ一年トス。

會則第二十條ノ二項中ノ「金百圓」ヲ「金二百圓」ト變更ス。

細則第七條ヲ削除ス。

役員改選

現任理事長並に現任理事中宗、舟橋、設樂の三理事十二月末日を以て任期滿了に付別項の通り本月の例會に於て改選し、尙ほ別項會則中改正に基く理事增員四名の選擧を執行せる結果左の通り當選されたり。

（イロハ順）

小笠原嗣氏　橫濱　勉氏
吉木久吉氏　波江悌夫氏
松本萬象氏　平井三郎氏
瀨戸文吾氏

但し吉木久吉氏は佐藤四郎氏と同點數に付細則第九條第二項に依り吉長氏當選

尙ほ理事長は前記會則變更の結果互選の筈。

會員消息

◉新入會員

十二月理事會に於て左の通り新入會希望者に對して入會を承認せり。

（會員）福永眞一氏、川崎源熊氏、森田文二氏、長尾繁治氏、小松　靜氏、成清卯三氏、

（普通贊助員）根岸元治氏、佐野房二郎氏　伊藤軍雄氏、石原政三氏、地福勇吉氏、高橋種夫氏、高岡與三吉氏　塚本隆造氏、松原喜太郎氏、佐藤松太郎氏、弓削兵太郎氏、南部治房氏、北村久男氏、中島壽夫氏、松本平三氏、瀧村松之助氏、平井節雄氏

（終身贊助員）久保田種吉氏、布袋惣平氏　森下新藏氏

◉歸朝並に渡歐

豫て渡米中の大林義雄氏、松本萬象氏、竹中藤右衛門氏は、別項の通り用務を了へて今回歸朝されたり、尙ほ橋本料左衛門氏息にして同商店支配人なる橋本政雄氏は近く渡歐さる筈なりと。

◉逝去

普通贊助員前田龍三氏は御病氣にて臥褥僅に一週月許にして終に十一月十七日逝去されたり、謹で痛惜の意を表す。

◉住所移轉

（會員）（移轉先）

萩原惇　正氏　神戸市平野五三宮町二〇八
中村　庶二氏　東京府下大井町字森前五一〇
池田　讓次氏　神戸市籠池通三丁目六四
姫野　武氏　大阪府西成郡今宮町六四四
黑木源次郎氏　福岡縣福岡市荒戸町三二福岡工務所內

（普通贊助員）（移轉先）

前田三四郎氏　大阪市東區內木町一丁目二
辰己　常彦氏　兵庫縣加古郡高砂魚町
三木　來三氏　福岡市島飼字町方七一一
伊藤　武夫氏　東區東平野町八丁目三三八
三木　作二氏　神戸市兵庫上澤通八丁目七

寄贈圖書

建築雜誌第三四輯　第四〇八號（建築學會）
住　宅　第五卷第十二號
材木新聞（每號）
新住宅　十二月號　（洪洋社）
商工時報　第三十二號　（大阪市役所）
日本金屬新聞　每號　（其　社）
日本ペイント商報　第六六號　（日本ペイント會社）
工業之友　第一六二號（工手學校同窓會）
建築業協會々報　第二卷第十一月號　（建築業協會）
都市公論　第三卷第十二號（都市研究會）
工業之日本　第十七卷第十二號（其　社）

市街地建築物法施行細則



市街地建築物法施行細則

（大正九年十二月一日大阪府令第九十四號）

第一條　本則ニ於テハ市街地建築物ヲ法ト同法施行令ヲ令ト、同法施行規則ヲ規則ト略稱ス

第二條　令第一條第九號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　玩具用普通火工品、鍛冶、金屬薄板細工（玩具類ヲ除ク）、石細工、紐紐、莫大小、起毛、落綿精製又ハ疊ノ作業場

二　高六十尺以上ノ煙突ヲ使用スル作業場

三　活動寫眞ノ撮影場、遊覽所又ハ遊技場（撞球場及大弓場ヲ除ク）

四　待合茶屋、席貸、料理屋又ハ飲食店（料理屋及飲食店ニ在リテハ單ニ飲食物ヲ供給スルモノヲ除ク）

五　勸商場、火藥商店又ハ煙火商店

六　射的場

七　精神病院、傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所

八　常時五頭以上ノ馬、三頭以上ノ牛又ハ營業ノ爲牛馬ヲ收容スル牛舍、廐、牛馬市場、搾乳場若ハ家畜病舍

九　禽畜飼養場

十　死畜取扱場

十一　肥料藏置所又ハ乾魚藏置所

十二　未消毒屠物ノ取扱所又ハ貯藏所

前項各號ノ一ニ該當スルモノト雖周圍ニ廣濶ナル空地アル場合ニ於テハ期間ヲ付シ特ニ認可スルコトアルヘシ

第三條　令第二條第三號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　前條第一項第二號、第六號、第九號第十號又ハ第十二號ニ該當スルモノ

二　搾乳場又ハ家畜病舍

前條第二項ノ規定ハ前項ノ建築物ニ之ヲ適用ス

第四條　令第三條第三號ニ依リ指定スル工場左ノ如シ

一　令第三條第二號ニ列擧セル引火性又ハ發火性物品ノ加工場

二　風呂鑵、湯沸鑵、鐵造煙突類ノ工場

三　「ボイル」油、瓦、土管類ノ工場

令第三條第五號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　棉花、落綿、古麻布、古麻袋、古敷物、古俵、紙屑、皮革、獸毛、羽毛、穀類、穀粉類、豆粕、藁等ヲ貯藏スル築建面積百坪以上ノ倉庫、納屋及上屋

二　前號ノ物品ノ處置ニ供スル建築面積五十坪以上ノモノ

第五條　從來存在スル幅員九尺以上ノ道路ニ於テハ道路幅ノ境界線ヨリ一尺五寸ヲ後退シタル線ヲ以テ建築線トス

令第三十條ノ道路又ハ幅員九尺未滿ノ道路、通路ニ關シ若ハ道路、通路ナキ區域ニ於テ必要ト認ムルトキハ別ニ建築線ヲ指定スルコトアルヘシ

前項ノ建築線ハ之ヲ告示ス

第六條　建築物ノ敷地カ公園、廣場、河、海ノ類ニ接スルトキハ令第七條乃至第九條ノ適用ニ付テハ其ノ幅員（又ハ對側迄ノ距離）ヲ高ノ限度トシテ斟酌認可スルコトアルヘシ

**建築物ノ敷地カ前面道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類アルトキハ令第七條乃至第九條ノ適用ニ付テハ前面道路ノ幅員ト公園、廣場、河、海ノ類ノ幅員（又ハ對側迄ノ距離）トノ和ヲ超エサル限度ニ於テ令第七條第一項ノ一倍四分ノ一ヲ二倍、同項但書ノ一倍二分ノ一ヲ二倍半迄斟酌認可スルコトアルヘシ

**建築物ノ敷地カ道路ノ終端ニ位スルトキハ令第七條乃至第九條ノ適用ニ付テハ其ノ道路幅員ヲ前面路路幅員ト看做シテ斟酌認可スルコトアルヘシ

建築物ノ敷地ノ地盤面カ前面道路ノ路面ヨリ五尺以上高キトキハ令第七條第一項ノ適用ニ付其ノ高低ノ差ノ二分ノ一以下ノ增加ヲ認可スルコトアルヘシ

建築物ノ敷地カ高低ノ差著シキ二以上ノ道路ニ接スルトキハ其ノ低キ道路ニ接スル部分ニ付亦前項ニ準ス

第七條　令第十四條第一項但書ノ適ヲ用受クルモノハ左記各號ノ一ニ該當スル敷地ニシテ水平ニ測リ敷地周圍ノ延長ノ五分ノ二以上カ建築線ニ接スル場合ニ限ル

一　道路幅員ノ和カ十二間以上ニシテ面積五百坪以下ノ角地

二　角地ニ非スシテ二以上ノ道路ニ接スル地區

前項ノ規定ハ公園、廣場、河、海ノ類ニ接スル地區ノ場合ニ之ヲ準用スルコトアルヘシ

第八條　便所、畜舍等ヨリ排出スル汚物ヲ放流シ得ル下水道ハ之ヲ告示ス

第九條　雜用井戸ハ汲取便所及汚物溜ヨリ九尺以上ノ距離ヲ保有セシムヘシ但シ其ノ構造設備ニ依リ六尺迄斟酌認可スルコトアルヘシ

井戸ハ周圍及上部ヨリ汚水、雨水等ノ滲透浸入セサル樣其ノ周圍ヲ石、煉瓦、「コンクリート」、土管（素燒ヲ除ク）又ハ厚板ノ類ヲ以テ構造シ其ノ底ニハ深二尺以上川砂ヲ敷クヘシ但シ適當ニ接合シタル鐵管、鉛管、土管（素燒ヲ除ク）又ハ竹筒ヲ使用スル鹽井ハ此ノ限リニ在ラス

井戸ノ上部ニハ地盤面上高二尺以上ノ井筒又ハ井桁ヲ設備シ其ノ周圍ノ地盤面ハ耐水材料ヲ以テ之ヲ構造スヘシ

第十條　學校、敎會堂、公會堂、集會場、寄宿舍、合宿所、デパートメント、ストア」並病院、工場其ノ他醫察取締ヲ受クル用途ニ供スル建築物ノ階段ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外左記右號ニ依ルヘシ但シ局部用ノモノハ此ノ限ニ在ラス

一　階段ノ幅ハ內法三尺以上トシ踊場ノ幅及長ハ階段ノ幅以上ト爲スコト

二　蹴上七寸以下　踏面七寸以上トシ各段均一ナラシムルコト（曲線階段ノ踏面ハ階段幅ノ中心線ニ於テ之ヲ測算ス）

三　高十二尺ヲ超エルモノニ在リテハ高十二尺以下毎ニ踊場ヲ設クルコト

四　階段ニハ扶欄ヲ設クルコト

五　階段ハ螺旋状ト爲サザルコト

第十一條　物干、物見臺等屋上工作物ニシテ面積二坪ヲ超ユルモノハ不燃材料（「モルタル」及漆喰ヲ除ク）ヲ以テ構造又ハ被覆スヘシ

屋上工作物ニ關シテハ前項ノ外指示スル所ニ依ルヘシ

第十二條　防火壁アル建築物ニ於テ屋窓、裝飾塔等ノ屋上突出部カ木造ニシテ延燒ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ外部ヲ金屬又ハ鐵網「コンクリート」ノ類ヲ以テ被覆セシムルコトアルヘシ

第十三條　汽罐、營業用風呂竈其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ附屬スル煙突ノ高ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外左記各號ニ依ルヘシ

一　石炭ヲ燃用スルモノ　高六十尺以上

二　無煙炭ヲ燃用スルモノ　高五十尺以上

三　薪木ヲ燃用スルモノ　高四十尺以上

四　「コークス」ヲ燃用スルモノ　高三十尺以上

煙突ノ高ハ燃料ノ量及土地ノ狀況ニ依リ前項ノ外之ヲ伸長セシメ又ハ短縮認可スルコトアルヘシ

第十四條　同一建築物ノ壁体二種以上ノ構造ヨリ成ルモノナルトキハ其ノ壁長及壁厚ニ付テハ規則第五十八條乃至第七十六條ノ適用ニ關シ制限ノ嚴ナルモノニ依ルヘシ

第十五條　土地ノ情態又ハ建築物ノ用途ニ因リ若ハ特殊ノ構造設備ニ係リ其ノ他特別ノ事情ニ依リ第二條乃至前條ノ制限ニ依ルヲ要セサルモノ又ハ之ニ代ルヘキモノハ衛生上有害ノ又ハ保安上危險ノ虞ナシト認メ若ハ公益上止ムヲ得スト認ムル場合ニ限リ其ノ制限ニ適合セサルモ特ニ認可スルコトアルヘシ

第十六條　規則第百四十三條第一項第三號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　木造ニ非サル建物但シ第二十九條ノ建物ヲ除ク

二　木造三階建物

三　建築面積五十坪以上ノ木造二階建物

四　建築面積百坪以上ノ木造平屋建物

五　法、令、規則又ハ本則ノ規定ニ依リ特ニ許可、認可又ハ承認ヲ受クヘキ事項アル建築物

六　第二十六條第二項ノ道路ニ接スル數地ニ建築スル建築物

七　令第二十八條ノ建築物

八　其ノ他府令ニ依リ警察取締ヲ受クヘキ用途ニ供スル建築物

第十七條　規則第百四十三條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ摘要書、設計書及圖面ヲ添付シタル申請書正副二通ヲ當廳ニ提出スヘシ

一　建築主ノ氏名、住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ資格、氏名ヲ記入スルコト）

二　建築工事管理者アルトキハ其ノ氏名住所

三　認可ヲ受ケンムトスル事項

建築主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ、準禁治産者ナルトキハ其ノ夫ノ連署ヲ要ス

必要ト認ムルトキハ第一項以外ノ圖書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

六　大修繕、大變更其ノ他之ニ類スル場合ニ在リテハ其ノ工事ニ關係ナキ部分

ノ圖書ヲ省略スルコトヲ得建物ニ非サル建築物ニ付亦同シ

第十八條 前條第一項ノ摘要書ハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 用途但シ住居地域內ニ於ケル自動車ノ車庫ニ付テハ其ノ收容臺數、牛舍、厩ニ付テハ牛馬ノ收容頭數、工業地域外ニ於ケル工場ニ付テハ其ノ職工數、原動機馬力數ノ合計、汽罐ノ有無、倉庫ニ付テハ貯藏物品ヲ附記スルコトヲ要ス

二 地域、地區

三 位置

四 敷地面積(坪數)

五 建築面積(坪數)ノ合計(現存スル建築物ノ建築面積ヲ含ム)

六 各建築物ニ付其ノ構造種別、高、軒高、階數、各階面積其ノ他ノ概要

七 增築、改築、移轉、大修繕、大變更又ハ用途ノ變更ヲ爲サムトスルモノニ在リテハ其ノ事項及工事ノ要旨

八 特ニ許可、認可又ハ承認ヲ受クルヲ要スル事項アルトキハ其ノ當該條項、及事由

九 建築工事請負人、建築設計者又ハ工事監督

主任者アルトキハ其ノ氏名、住所(建築工事管理者タル場合ヲ除ク)

十 起工期日

十一 竣功期日

前項建築工事請負人又ハ工事監督主任者ニ付テハ起工五日以前ニ其ノ届出ヲ爲スモ妨ケナシ

第十九條 第十七條第一項ノ設計書ハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 圖面ニ示シ難キ構造設備、材料ノ種類、寸法其ノ他仕樣ノ梗概

二 鐵骨造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニ在リテハ其ノ代表的主要部分ノ構造強度計算

三 昇降機、排水工事、汚物處理槽、暖房、消火設備、避雷設備其ノ他ノ附屬設備アルトキハ其ノ構造及說明

第二十條 第十七條第一項ノ圖面ハ左記各號ニ依ルコトヲ要ス

一 配置圖　縮尺百分ノ一、五十分ノ一、二百分ノ一、三百分ノ一又ハ六百分ノ一

二 各階平面圖　縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一

三 主要斷面圖　縮尺五十分ノ一又ハ百分ノ一

四 立面圖　縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一

五 各階床平面圖　縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一

六 小屋組平面圖　縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一

七 前條第二號ノ設備ニ關スル圖面

前項ノ配置圖ニハ建築線、敷地境界線、建築物ノ配置、四隣道路其ノ他ノ狀態、方位等ヲ明示シ且各部ノ大サ、幅員及相互間ノ距離ヲ記入スヘシ

第一項ノ平面圖ニハ各部ノ用途、寸法、各居室ニ付其ノ室面積及採光面積、方位等ヲ明示スヘシ

第一項ノ斷面圖ニハ建築物ノ高、軒高、階高、天井高、床高、其ノ他ノ寸法、主要材料ノ種類、[illegible]、基礎、隣接建物トノ關係等ヲ明示スヘシ

第一項各號ノ圖ニハ申請ニ係ル部分ト其ノ他ノ部分トヲ着色其ノ他ノ方法ニ依

ヽ區別スヘシ

第二十一條 規模小ナル建築物又ハ特ニ其ノ必要ナシト認メラルルモノニ在リテハ前條第一項第二號ノ第一階平面圖ヲ以テ配置圖ニ充用シ第三號乃至第六號ノ圖面及第十九條ノ設計書ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

第二十二條 第十九條又ハ第二十條第一項第三號乃至第七號ノ圖書ニシテ一時ニ全部ヲ具備シ難キ場合ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ其ノ提出シタル部分ニ對シ特ニ認可スルコトアルヘシ

第二十三條 規則第百四十三條ノ建築物ニ付建築物使用認可證交付付前第十七條第一項第一號、第二號、同條第二項又ハ第十八條第一項第九號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ五日以內ニ當廳ニ届出ヘシ

規則第百四十三條ノ建築物ニ付工事竣功前第十八條(第一項第九號ノ場合ヲ除ク)乃至第二十條ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係圖書ヲ具シ更ニ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十四條 建築物使用認可證交付前建築主又ハ建築工事管理者ニ變更ヲ生シタルトキハ双方連署ノ上九日以內ニ當廳ニ届出ヘシ但シ連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具スヘシ

第二十五條 前二條ノ申請書又ハ届書ニハ建築認可證ノ年月日及記號番號(建築認可證交付前ニ在リテハ前申請書、届書ノ年月日)ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十六條 規則第百四十四條第一項ノ届出ハ起工十日以前ニ爲スコトヲ要ス

前項ノ届書ハ第十七條及第十八條(第一項第八號ヲ除ク)ニ準シ仍第二十條ノ配置圖及各階平面圖ヲ具備スルコトヲ要ス

前三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 前條ノ届出ハ規則第百四十三條ノ建築物ト同一ノ敷地內ニ建築スル場合ニ在リテハ第十七條ノ申請書ニ併記スルコトヲ得

第二十八條 規則第百四十四條第一項ノ届出ハ左記各號ノ一ニ該當スル建築物ニ限リ起工五日以前ニ所轄警察官署ニ爲スコトヲ得

一 建築面積五十坪未滿ノ木造二階建ニ係ル住家、土藏、納屋、物置、上屋ノ類

二 建築面積百坪未滿ノ木造平屋建ニ係ル住家、土藏、納屋、物置、上屋ノ類

三 前各號ノ一ニ附屬スル門戶、墻壁ノ類

第二十六條第二項乃至第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第一項ノ規定ハ規則第百四十三條ノ建築物ト同一ノ敷地內ニ建築スル場合及屋階又ハ地階ヲ有スル建築物ナル場合ニ之ヲ適用セス

第二十九條 規則第百四十四條第二項ニ依リ届出ヲ要セサル建築物左ノ如シ

一 居室ヲ有セサル建物ニシテ其ノ建築面積十二坪以下、高十五尺以下ノモノ

但シ規則第百四十三條又ハ規則第百四十四條第一項ノ建物ト同一ノ敷地內ニ建築スルモノヲ除ク

二 高十五尺以下ノ門戶ノ類

三 高九尺以下ノ牆壁ノ類

前項ノ規定ハ建築線ニ關係アル場合ニ之ヲ適用セス

第三十條 規則第百四十六條後段ニ依リ届出ヲ要スル工程左ノ如シ

一 起工シタルトキ

二 基礎杭打ヲ爲サムトスルトキ(豫メ

期日ヲ指定スルコトヲ要ス）

三　汚物處理槽ノ工事ヲ終ラムトスルトキ

四　避雷設備ニ屬スル地中銅板ヲ埋設セムトスルトキ

五　前各號ノ外特ニ指示シタルトキ

特ニ其ノ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ全部又ハ一部ノ届出ヲ省略セシメ若ハ其ノ檢査ヲ行ハサルコトアルヘシ

第三十一條　建築工事ニ關スル申請書、届書、添付圖書ノ副本及建築認可證ハ常ニ建築場ニ之ヲ備ヘ要求アリタルトキハ當該吏員ノ閲覽ニ供スヘシ

第三十二條　規則第百四十五條ノ建築認可證ノ交付ヲ受ケ又ハ規則第四十四條第一項ノ届出ヲ爲シタル日ヨリ六月以内ニ起工セサルトキ又ハ竣功期日ヲ經過スルコト一年ニシテ仍竣功セサルトキハ其ノ認可又ハ届出ハ其ノ効ヲ失フ但シ其ノ期間内ニ於テ延期ノ手續ヲ了シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條ノ届出ヲ爲シタル日ヨリ三月以内ニ起工セサルトキ又ハ竣功期日ヲ經過スルコト六月ニシテ仍竣功セサルトキ亦前項ニ同シ

第三十三條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ規則第百四十三條ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一　申請書又ハ其ノ添付圖書ニ事實相違ノ表示又ハ記載ヲ爲シタル事項アリタルトキ

二　申請書又ハ其ノ添付圖書ニ相違シタル工事ヲ爲シタルトキ

三　建築主三月以上所在不明トナリタルトキ

四　法定代理人又ハ夫ノ許可若ハ保佐人ノ同意ヲ取消サレタルトキ

規則第百四十四條第一項ノ届出ニ付前項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ届出ヲ無効ト爲スコトアルヘシ

第二十八條ノ届出ニ付亦前項ニ同シ

第三十四條　建築工事請負人、建築工事管理者又ハ工事監督主任者（建築工事管理者タル場合ヲ除ク）ニシテ不適任ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第三十五條　規則又ハ本則ニ依リ當廳ニ提出スル申請書、届書又ハ届出ハ所轄警察官署ヲ經由スルコトヲ要ス

附　則

第三十六條　法施行ノ際建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ着手セサルモ設計アル建築物ハ本則ニ準シ其ノ關係事項及工事進捗ノ程度ヲ附記シ大正十年一月十五日迄ニ當該官廳ニ届出ツヘシ但シ令第二十六條ニ依リ許可ヲ受ケムトスルモノハ申請スヘシ

第三十七條　本則ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

市街地建築物法施行期日ノ件

（大正九年十一月十七日勅令第五百三十九號）

市街地建築物法ハ大正九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

市街地建築物法適用區域ノ件

（大正九年十一月十七日勅令第五百四十號）

市街地建築物法ハ東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市ニ之ヲ適用ス

内務大臣ハ前項ニ揭クル市ノ外ニ亘ル區域ニシテ都市計畫區域タルモノノ全部又ハ一部ノ區域ニ市街地建築物法ヲ適用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市街地建築物法ヲ適用スル區域ハ内務大臣之ヲ告示ス

附　則

本令ハ大正九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

役員及職員

理事　池田寛　平井三郎
葛野壯一郎　瀬戸文吾
吉井長七　編輯補　佐藤四郎
小笠原銅　江村郊邨
横濱勉　書記　越山達
吉木久吉　渡島繁
波江悌夫　山崎萬壽夫
松本禹象

會員	一九二	會員（地方）	六二
名譽賛助員	六〇	終身賛助員	四六
特別賛助員	一二	普通賛助員	三〇五
合計			六七七

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁ハ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正九年十二月三十日印刷　毎月壹回
大正十年一月一日發行　一日發行

大阪市大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
兼印刷人　江村恒一

印刷所　大阪活版所
大阪市西區京町堀上通一丁目
不動貯金銀行ビルデイング内

發行所　日本建築協會
電話　土佐堀四、二九三番
振替口座大阪三九、九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北

特約販賣店
柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第四集 第一号 掲載広告一覧（掲載順）

東京電気
浅海商店
日本エレベーター製造
高田商会
日本商会
須賀商会
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
国枝工務所
真水工務所
真水三橋建築事務所

舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
茂、野村建築事務所
設楽建築工務所
池田勘蔵
橋本料左衛門商店
大倉土木組大阪出張所
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
熊取谷熊次郎
山本組
山中建築部
松村組
山縣組
藤木正一

鴻池組
小西組
安藤組大阪出張所
木村組
清水組大阪支店
清水工務店
銭高組
広業社
久原鉱業大阪出張所
吉田鹿之助商店
共同大理石商会
矢橋商店
日本電飾
内外土木建築材料
栄進社
田中タイリング商会
宇野沢ステインド硝子工場

松尾和助本店
服部与兵衛商店
別府ステインド硝子製作所
山本窯業商店
選良社
新田ベニヤ製造所
東洋工業社
砂崎
村井工業所
大阪金物商会
山本コンベス商会
大野正営業所
野沢幸三郎商店
日本石綿盤製造
有田製陶所
宇野沢組ステインド硝子製作所
東京建鉄大阪支店
川崎工場
北木島石材大阪出張所

萩原煖房工務所
高田商会銀座販売店
浅野スレート大阪出張所
横河橋梁製作所
鈴木製作所
明正社
コルク工業
大阪窯業
日本水道衛生工事
銀座建築用品店
共同建材製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
極東硝子工業